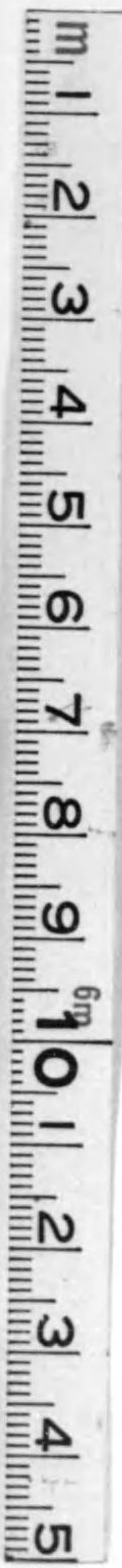


14.21
224



始



1424
224

大正五年度業務功程

岡山縣立農事試驗場

14.2A-224



緒言

本業務功程ハ大正五年度ニ於ケル業務ノ一斑

ヲ摘録セルモノナリ

大正六年六月

岡山縣立農事試驗場



岡山縣立農事試驗場



大正五年...

五六
交内

大正五年度業務功程

目次

育種部

麥ノ部

- 第一 品種試驗.....一
- 第二 品種豫備試驗.....二
- 第三 品種改良試驗.....三
- 第四 品種對多肥料試驗.....三
- 第五 品種特性調査.....五

水稻ノ部

- 第一 品種試驗.....六
- 第二 品種豫備試驗.....六
- 第三 糖品種試驗.....六

大五平

第四	品種改良試驗	七
第五	品種改良効力査定試驗	九
第六	品種特性調査	九
第七	品種對多肥料試驗	一〇
耕種部		
第一	豐凶考照試驗	一一
第二	肥料配合試驗(其一)	一三
第三	肥料配合試驗(其二)	一四
第四	石灰窒素施用試驗	一六
第五	多收穫試驗	一八
第六	培土試驗	二〇
第七	混作法試驗	二一
第八	覆土効力試驗	二二

水稻ノ部

第九	稻類追肥法試驗	二三
水稻ノ部		
第一	豐凶考照試驗	二四
第二	石灰窒素施用期試驗	二五
第三	石灰窒素施用試驗	二六
第四	元肥トスベキ硫酸安母尼亞ノ施用期試驗	二六
第五	固形苦汁効力試驗	二七
第六	多收穫試驗	二八
第七	苗育成法ニ關スル試驗	三一
第八	耕耨深淺對多收穫試驗	三一
第九	苗ノ假植對移植期試驗	三二
第十	假植地株間廣狹試驗	三四
第十一	螟虫一化期被害莖切取試驗	三五
第十二	蘭作跡稻株間廣狹試驗	三五

第十三	蘭作跡稻品種試驗	三六
第十四	二期作試驗	三六
紫雲英ノ部		
第一	刈取期試驗	四〇
第二	施用法試驗	四一
寒冷地試験ノ部		
阿哲郡千屋村試験場		
第一	品種試驗	四二
第二	品種豫備試驗	四二
第三	播種期對播種量試驗	四三
第四	株間本數卜播種量卜ノ關係試驗	四四
第五	整地法試驗	四六
第六	厩肥堆積法試驗	四七
第七	紫雲英肥効試驗	四八

第八	多收穫栽培法試驗	五〇
眞庭郡八束村試験場		
第一	品種試驗	五一
第二	品種豫備試驗	五一
第三	播種量對一株本數試驗	五一
第四	株間本數試驗	五二
第五	多收穫栽培法試驗	五三
第六	石灰效力試驗	五四
開墾地稻作試験ノ部		
第一	品種試驗	五四
第二	肥料試驗	五五
第三	石灰用量試驗	五七
第四	肥料配合試驗	五九
第五	燒土試驗	六〇

第一	藺草ノ部	六一
第二	施肥回数試驗	六一
第三	肥料施用試驗	六三
第四	硫酸安母尼亞施用試驗	六六
第五	株間距離試驗	六七
第六	堆肥施用試驗	六七
第七	苗仕立法試驗	六八
第七	模範的施肥法應用試驗	六八
第一	薄荷ノ部	七二
第二	三要素適量試驗	七二
第三	肥料配合ニ關スル試驗	七三
第三	人糞尿施用期試驗	七四
第一	茶樹ノ部	七五
第一	播種法對剪枝法試驗	七五

第二	仕立法試驗	七五
第三	剪枝法試驗	七六
第四	肥料試驗	七七
第五	茶園處理法試驗	八〇
第六	肥料増施ト經濟トノ關係	八〇
第一	煙草ノ部	八一
第一	煙草模範栽培	八一
第一	罌粟ノ部	八四
第一	試作	八四
第一	園藝部	八五
第一	蔬菜ノ部	八五
第一	春播蔬菜	八五
第一	馬鈴薯品種試驗	八五

第二	馬鈴薯肥料試驗	八六
第三	茄子品種改良試驗	八七
第四	茄子肥料試驗	八九
第五	菜豆品種試驗	九二
第六	葱品種試驗	九三
秋播蔬菜		
第一	馬鈴薯品種試驗	九四
第二	馬鈴薯肥料試驗	九五
第三	漬物用菜菔播種期對收穫期試驗	九六
第四	蕪菁石灰効力試驗	九九
第五	結球白菜株間廣狹試驗	一〇〇
第六	結球白菜施肥法試驗	一〇一
第七	菜豆品種試驗	一〇二
第八	豌豆品種試驗	一〇二

第九	葱頭移植期試驗	一〇三
第十	葱頭石灰木灰加用試驗	一〇四
第十一	黃葱頭採種地試驗	一〇四
第十二	甘藍品種試驗	一〇五
果樹ノ部		
第一	桃品種試驗	一〇六
第二	桃肥料試驗(其一)	一一〇
第三	桃肥料試驗(其二)	一一一
第四	桃肥料試驗(其三)	一一三
第五	洋梨品種試驗	一一四
第六	櫛椀砧嫁接洋梨品種試驗	一一八
第七	洋梨袋紙試驗	一一九
第八	洋梨摘斷時期試驗	一二二
第九	洋梨摘果時期試驗	一二三
第十	洋梨採收期試驗	一二五

第十一	東洋梨品種試驗	一五八
第十二	無花果品種試驗	一六〇
第十三	無花果熟期促進試驗	一六一
第十四	其他ノ果樹類	一六三
第十五	強耐性砧木用葡萄根群狀態調査	一六五

病理昆蟲部

第一	ネーヴルオレンジ痘果病豫防試驗	一七〇
第二	葡萄軸枯病豫防試驗	一七五
第三	和梨黑星病豫防試驗	一七八
第四	洋梨尻腐病豫防試驗	一八〇
第五	馬鈴薯病害ニ關スル試驗	一八二
第六	百合病害豫防試驗	一八五
第七	稻熱病ニ關スル試驗	一八五

病害ノ部

第八	稻白葉枯病豫防試驗	一八六
第九	小麥線蟲病豫防試驗	一八八
第十	小麥生理的病害試驗	一八九
第十一	除虫菊ニ關スル試驗	一九〇

害虫ノ部

試驗ニ關スル事項	一九二	
第一	梨果蠹蟲桃心折蟲豫防試驗	一九二
第二	苹果綿蟲經濟的驅除法試驗	一九二
第三	販賣驅蟲劑ノ効力比較試驗	一九五
第四	瓜守幼蟲防除試驗	一九六
第五	二化螟蟲蛹期驅除ニ關スル試驗	一九六
第六	二化螟蟲被害莖切取時期試驗	一九九
第七	二化螟蟲被害莖切取回數試驗	二〇一
調査ニ關スル事項	二〇二	

第 一	二化螟蟲第一化期ノ最終期ニ於ケル狀態調査	二〇二
第 二	二化螟蟲發生期調査	二〇二
第 三	二化螟蟲加害時期調査	二〇三
第 四	二化螟蟲越冬狀況調査	二〇三
第 五	螟蟲卵寄生蜂歩合調査	二〇四
第 六	播種量對螟蟲產卵歩合調査	二〇四
第 七	害蟲飼育調査	二〇五
防除劑ノ部		
第 八	石灰ボルドウ液調製法試驗	二〇五
農藝化學部		
第 一	分析件數	二〇九
庶務會計部		
第 二	印刷物発行	二一〇
第 三	出張日數	二一〇

第 三	農事講習	二二二
第 四	種苗及種卵配付	二二三
第 五	豫算	二二八
第 六	文書收受發送件數	二二九
第 七	質問應答件數	二二九
第 八	參觀人員	二二〇
第 九	職員現在數	二二一

大正五年度業務功程

育種部

麥ノ部

第一 品種試験

本試験ハ本縣ノ風土ニ最モ適スル麥ノ優良品種ヲ選出センガ爲メ明治三十七年ヨリ繼續施行セルモノニシテ本年度試験ノ結果ハ左ノ如シ

一 稈 麥

本年度供試品種ハ十種ナリシガ品質中等以上ニシテ收量ノ多キハ三島、おーびん、こびん、かたぎ、白とう、橋倉、紅梅等ニシテ從來ノ成績ヲ綜合シ優良ト認ムルハ現ニ原種トシテ配付シツ、アル三島、こびん、かたぎ、白とう、紅梅ナリトス

二、小 麥

本年度供試品種ハ總テ十二種ナリシガ品質中等以上ニシテ收量ノ多カリシハ島田小麥



種別	品種	試験地	試験年	品質	收量
一	稈 麥	島田	大正五	優良	多
二	小 麥	島田	大正五	優良	多

穂揃普通長芒及收石小麥等ニシテ從來ノ成績ヲ綜合シ優良ト認ムル品種ハ畠田小麥普通長芒穂揃等ナリ

三、大 麥

本年度ノ供試品種七種ノ中品質中等以上ニシテ收量ノ多カリシハ米なかせ、淀橋、在來短芒等ナリ

第一 品種豫備試驗

本試驗ハ性質ノ未ダ瞭カナラザル品種ヲ栽培シ其ノ大体ノ特性及ビ品質收量ヲ驗シ品種試驗ニ加フル價值アル品種ヲ選出センガ爲メニ行フモノニシテ本年ノ供試品種數及ビ試驗ノ結果左ノ如シ

一、稈 麥

本年度ノ供試品種ハ拾七種ニシテ比較的有望ト認ムルハ景清茶屋麥、麥ノ王、白富及富田等ナリ

二、小 麥

本年度ノ供試品種ハ總テ二十六種ナリシガ前年ノ成績ヲ綜合シ比較的有望ト認ムルハ早生小麥伊賀筑後×おれこん等ナリ

三、大 麥

本年度ノ供試品種ハ四十二種ナリシガ比較的有望ト認ムルモノハ大六石、穂揃青三徳八石、備前早生及ビ神堂等ナリ

第三 品種改良試驗

本試驗ハ純系淘汰法ニヨリ品種ヲ改良セントスルモノニシテ其方法稻ト畧同様ナルカ故ニ茲ニ之ヲ畧ス而シテ本年度ノ供試品種及選出系統數ハ左ノ如シ

一、稈 麥 白 七十八系統

一、稈 麥 こびんかたぎ 四十三系統

一、小 麥 畠田 小麥 二十六系統

第四 品種對多肥料試驗

本試驗ハ本場ニ於テ品種試驗ノ結果比較的優良ト認メタル品種ニ就キ肥料ノ増施ニ堪ユル力ノ強弱ヲ驗センガ爲メ前年ヨリ繼續施行セルモノニシテ肥料ノ種類及反當用量左ノ如シ

堆	肥	肥料名	多肥料區	普通麥	大肥麥	小料區
	肥		000,00M	000,00M	000,00M	000,00M

人糞尿	140,000	140,000
大豆粕	7,000	5,000
硫酸安母尼亞	4,000	3,000
智利硝石	2,000	2,000
過磷酸石灰	6,000	4,000
葉灰	10,000	6,000

試驗ノ成績左ノ如シ

一、稈 麥

品 種 名	普通肥料區 反當收量	多肥區 反當收量	刈取當時ノ狀態
一、三島	2,231	2,359	倒伏最モ早ク且甚シ
二、白トウ	2,136	2,293	異狀ナシ
三、豐年	2,092	2,198	全上
四、コピンカタギ	2,162	2,262	稈強剛異狀ナシ
五、紅梅	2,107	2,248	稈ハ強キモ成熟期前ニ當リ穂ノ上部枯色ヲ呈シ充實不良ノモノ点々アリ
六、茶屋麥		2,261	稈強ク異狀ナシ

二、大 麥

品 種 名	普通肥料區 反當收量	多肥區 反當收量	刈取當時ノ狀態
一、在來短芒	3,249	3,444	倒伏甚シ(調製ノ際故障ヲ生シタルヲ以テ收量調査ヲ欠ク)
二、淀橋	3,355	3,444	稍々倒伏セリ
三、ゴールドンメロ	2,670	3,088	稈強ク異狀ナシ
四、命ツナギ	2,599	2,308	倒伏甚シ
五、米ナカセ		1,276	倒伏早ク且甚シ

三、小 麥

品 種 名	普通肥料區 反當收量	多肥區 反當收量	刈取當時ノ狀態
一、島田小麥	1,875	2,178	稈強シ
二、普通長芒	1,732	2,257	稍々傾靡セリ
三、穂揃	1,785	2,244	稈稍々強キモ点々赤銹病ノ被害アリ
四、セイチコ	1,656	1,949	稈強キモ赤銹病ノ被害甚シ

第五 品種特性調査

本調査ハ本場ニ於テ有望ト認ムル品種及縣下各都市並ニ他府縣ニ於ケル優良品種ヲ一定株間ニ二三粒ツ、点播シ發芽後間引キテ一株一本トシ各株共總テ同様ノ肥培ヲ爲シ

各事項ニ就キ精密ナル調査ヲ遂グ以テ優良品種選定ノ資ニ供セントスルモノニシテ本年調査ヲ行ヒタルハ大麥三十三種小麥三十七種稈麥二十一種ナリ

水稻ノ部

第一 品種試驗

本試驗ハ從來比較的有望ト認ムル品種ニ就キ其ノ生育ノ狀況收量ノ多少及品質ノ良否等ヲ比較對照シ以テ最モ優良ノ品種ヲ選出センガ爲メ明治三十五年ヨリ繼續施行セルモノニシテ本年ノ供試品種二十五種中收量ノ最モ多カリシハ神力×雄町種ニシテ小天狗及ビ朝鮮種之レニ亞ギ神力種ハ第三位ニアリ

第二 品種豫備試驗

本試驗ハ特性ノ未ダ判明セザル品種ヲ栽培シテ大體ノ性質ヲ調査シ以テ品種試驗ニ加フル價值アルモノヲ選出センガ爲メ前年ヨリ繼續施行セルモノニシテ本年ノ供試品種三十六種中收量ノ最モ多カリシハ畿内晚稻二九号ニシテ畿内晚稻七三号之ニ亞ケリ

第三 糯品種試驗

本試驗ハ糯稻各種ニ就キ生育ノ狀況收量ノ多少及品質ノ良否等ヲ比較シ以テ良善ナル

品種ヲ選出センガ爲メ前年ヨリ繼續施行セルモノニシテ本年ノ供試品種八種中收量ノ最モ多カリシハ糯淺口郡ニシテ銀時糯之ニ亞ゲリ

第四 品種改良試驗

本試驗ハ純系淘汰法ニヨリ品種ヲ改良セントスルモノニシテ各年次取扱方法ノ概略左ノ如シ

第一年目 型ノ選擇ヲ目的トシ普通農家ノ栽培セル品種ヲ主產地ヨリ蒐集シ一品種約三千株内外ヲ一本植トシテ栽培シ各株ニ付精密ナル觀察ヲ爲シ優良ト認メタルモノ百株以上ヲ採收ス

第二年目 前年採收シタル各株即チ各系統ニ付遺傳性ノ純否ヲ確メンガ爲メ各其ノ百五十株内外宛ヲ一本植トシテ栽培シ各個體ニ付精密ニ諸種ノ形質ヲ調査シ優良ノモノ二十乃至三十系統ヲ選拔ス

第三年目 前年ノ調査ニ於テ優良ト認メタル系統ニ付更ニ收量ノ多少ヲ驗センガ爲メ普通耕種法ニ準ジ比較試驗ヲ行ヒ諸種ノ調査ヲ爲ス

第四年目 前年ト同一ノ目的ヲ以テ尙比較試驗ヲ爲シ最モ優良ナルモノヲ確定ス尙品種ニヨリテハ別ニ縣下風土ノ異ナリタル地方ニ於テ試驗スルモノトス

本年度調査ヲ爲シタル品種及ビ選抜系統數次ノ如シ

品 種 名	栽培株數	本年度選 抜系統數
第一年目ニ屬スルモノ		
吉 備 穂	四、四〇〇	一七七
美 穂 選	二、九〇〇	一九四
龜 治	二、四〇〇	一一九
八 反	一、九〇〇	四三
雄 町	六〇〇	二〇
第二年目ニ屬スルモノ		
品 種 名	栽培系統數	本年度選 抜系統數
雄 町	四八	八
日ノ出選	六九	一五
吉 備 穂	七九	二二
第三年目ニ屬スルモノ		
品 種 名	栽培系統數	本年度選 抜系統數

雄 町	二四	八
日ノ出選	二五	七
神 力	二二	九

備考 第一年目ニ屬スル、八反雄町及第二年目ニ屬スルモノハ故障ノ爲メ選抜系統數、少數ニ失スルモ參考ノ爲メ存續ス

第五 品種改良効力査定試験

本試験ノ目的ハ本場ニ於テ選出シ現在配付シツ、アル品種ハ本縣在來ノ同品種ニ比シ其ノ形態生育ノ狀況及ビ生産力ニ如何ナル差異アルヤヲ驗セントスルモノニシテ大正元年ヨリ繼續施行セリ供試品種ハ雄町、日ノ出選、吉備穂及ビ神力ノ四種ニシテ收量ハ神力種最モ多シ在來種ニ比シ一反歩ニ付四斗八升三合ノ增收トナリ雄町ハ一斗強吉備穂ハ僅ニ增收ヲ見タリシモ獨リ日ノ出選ハ收量却テ少シク劣レルノ結果ヲ示セリ

第六 品種特性調査

本調査ハ本場ニ於テ有望ト認ムル品種ニ付各種一歩ツ、本植トシテ栽培シ三十株ニ付各種ノ形質ヲ調査シ以テ其ノ特性ヲ知り優良品種選定ノ資ニ供セントス本年度調査

セシ品種ハ三十五種ナリ
 尙管内ニ栽培セル主ナル品種ノ特性ヲ調査スルト共ニ前項ト同一ノ目的ニヨリ本場ヨ
 リ配付セル以外ノ品種ヲ各郡ヨリ蒐集シ前項ト同一ノ方法ニヨリ各種ノ形質ヲ調査セ
 リ其ノ數實ニ七百九十三種ニ及ベリ

第七 品種對多肥料試驗

本試驗ノ目的ハ肥料ヲ増施スルモ強健ニシテ倒伏ノ憂少ナク且病害ニ對シ抵抗力強キ
 品種ヲ選出センガ爲メ前年ヨリ繼續施行セルモノニシテ全国各地ニ於テ強健ト認ムル
 品種十四種ニ就キ試驗セリ本年ノ成績左ノ如シ

區名	品種名	玄米一升重量	一反步當程量	玄米反當收量	成熟當時ノ狀態
一	日ノ出選	三八二	一九八、〇〇〇	二、三六五	倒伏甚タシ
二	旭	三八二	一九六、四八〇	二、八二一	稍々傾靡セリ
三	神	三八九	二一一、〇〇〇	二、七〇七	全上
四	神力八五号	三八五	二一三、五二〇	二、六七九	異狀ナシ
五	神力六五号	三七七	二一一、五二〇	二、七二〇	稍々傾靡セリ

六	黃	三八七	一八二、五二〇	二、七七九	異狀ナシ
七	朝	三八三	一九八、五二〇	二、九三〇	程強ク異狀ナシ
八	芒	三八七	一九四、〇〇〇	二、七四四	異狀ナシ
九	相徳七二号	三八三	二一一、〇〇〇	三、一八七	稍々倒伏ス
一〇	台	三八三	一九七、〇〇〇	二、八二五	異狀ナシ
一一	晚	三八八	二三一、〇〇〇	二、七八四	全上
一二	大土付カズ	三八四	二三四、〇〇〇	二、七六九	全上
一三	大	三八一	一七二、〇〇〇	二、五二二	稍々傾靡セリ
一四	晚稻一七号	三八二	一八六、〇〇〇	二、四六九	異狀ナシ

蘇 蘇 蘇

耕種部

麥ノ部

第一 豊凶考照試験

本試験ハ氣候ト麥作トノ關係ヲ調査セシメガ爲メ大小稈麥ヲ連年同地ニ栽培シ同一ノ肥培ヲ施セルモノニシテ生育期中ノ天候各期ノ生育狀況及成績左ノ如シ

一、下種後ヨリ春分ニ至ルマデノ氣象及春分當日ニ調査セシ生育狀況

下種後ヨリ十二月上旬迄ハ氣温概シテ高ク晴天持續シテ土壤ノ乾燥過度ナリシガ爾後降雨頻繁ニシテ土壤多濕ニ過グル場合多ク且三月上旬以後ニ於テ氣温概シテ低ク天候適順ヲ欠ケルヲ以テ一旦伸長セシ麥ノ生育ニ幾分ノ打撃ヲ加ヘタルノ感ナキニアラザルモ著シキ障礙ヲ來スニ至ラズ即チ春分當日ニ調査セシ結果ニヨレバ前十四ヶ年平均ニ比シ一尺間ノ莖數稈麥ハ六本六、大麥ハ二十本二、小麥ハ十本三、何レモ少ナク草丈ニアリテハ稈麥ハ九分九厘、大麥ハ一寸一分七厘、小麥ハ八分三厘何レモ短カク生育狀況概シテ平年作ニ劣レリ

二、春分ヨリ立夏ニ至ル氣象及立夏當日ニ調査セシ生育狀況
春分當日ヨリ立夏前日ニ至ル氣候ハ三月下旬ヨリ四月上旬迄ハ氣温著シク低カリシモ其後ハ概シテ適順ニシテ氣温ハ平均十一度四、最高温度平均十七度六、最低温度平均四度九、降雨量ハ百十八耗四、雨天日數八日ニシテ之ヲ前九ヶ年平均ニ比スレバ氣温ハ一度五、最高温度ハ〇度三、最低温度ハ〇度二、何レモ低ク降雨量ハ三十四耗七、少ナク雨天日數ハ一日少ナシ而シテ出穂期ハ大麥四月二十七日、稈麥四月二十日、小麥四月二十九日ニシテ前年ニ比シ一二日後レ草丈莖數トモ概シテ平年作ニ劣レリ

三、收量調査成績

前記ノ如ク生育概シテ不良子實ノ充實亦宜シカラザリシガ爲メ充分ナル收穫ヲ舉グルニ至ラズ反當收量稈麥ハ一石五斗七升五合、大麥ハ一石六斗七升五合、小麥ハ一石四斗四升八合ニシテ前十四ヶ年平均ニ比シ一反歩ニ付小麥二升一合ノ增收ヲ示シタルノミニテ大麥ハ二斗五升六合、稈麥ハ三升一合ノ減收トナレリ

第二 肥料配合試験 (其一)

本試験ハ麥作ニ對シ廣ク使用セラレツ、アル主ナル販賣肥料ニ配合スベキ堆肥ノ効力程度ヲ査定センガ爲メ明治四十四年ヨリ繼續施行セルモノニシテ供試肥料ハ大豆粕、硫

酸アンモニニア、智利硝石、人糞尿ノ四種トシ各之ヲ單用セシ場合ト之ニ堆肥二百貫ヲ加用セシモノトヲ比較セシニ反當稈麥收量ハ左表ノ如クナリキ

試驗區別	反當稈麥收量	試驗區別	反當稈麥收量
一、無肥料	六三三	六、堆肥硫酸アンモニニア併用	二、〇四〇
二、堆肥單用	八八〇	七、智利硝石單用	一、二〇七
三、大豆粕單用	一、〇〇八	八、堆肥智利硝石併用	二、二〇四
四、堆肥大豆粕併用	一、七〇三	九、人糞尿單用	一、一八九
五、硫酸アンモニニア單用	一、七七八	一〇、堆肥人糞尿併用	一、七八二

第三 肥料配合試驗 (其二)

本試驗ハ各種人造肥料ノ配合上ヨリ生ズル反應ノ如何ニヨリ麥ノ生育收量ニ及ボス關係ヲ知り併セテ數年後ニ於テ土地ニ如何ナル變化ヲ呈スルヤヲ驗センガ爲メ大正元年ヨリ土地ヲ一定シ米麥作ヲ通ジテ繼續施行セルモノニシテ各區トモ供試肥料ノ外何物ヲモ施サス窒素ハ一反歩ニ付二貫磷酸加里各一貫五百匁トシ硫酸安母尼亞ハ元肥一月中旬三月上旬ノ三回ニ分施シ石灰窒素ハ總量ノ四分ノ三ヲ表土全体ニ混和シ四分ノ一ハ二十倍ノ土壤ヲ混ジ箱ニ容レ一週間堆肥中ニテ變化セシメタルモノヲ播溝肌ニ施セ

リ試驗ノ區別及累年稈麥收量ハ左ノ如シ

試驗區別	又當稈麥收量			
	大正元年	大正二年	大正三年	大正四年以上平均
一、硫酸安母尼亞、過燐酸石灰、硫酸加里(強酸性配合)	一、八六〇	一、四八二	一、四七六	一、六三三
二、硫酸安母尼亞、過燐酸石灰、木灰(弱酸性配合)	一、八九九	一、六七七	一、六九九	一、八三二
三、硫酸安母尼亞、燐酸、木灰(強酸性配合)	一、二〇五	一、〇〇〇	一、五七〇	一、八四七
四、石灰、窒素、過燐酸石灰、硫酸加里(強酸性配合)	一、二四〇	一、五二六	一、五八六	一、八五〇
五、石灰、窒素、過燐酸石灰、木灰(稍強酸性配合)	一、〇三〇	一、五〇八	一、七六〇	一、八七五
六、石灰、窒素、燐酸、木灰(強酸性配合)	一、一〇八	一、四二五	一、五二八	一、七九六

前表ノ結果ニ基ツキ本年度ニ於テ左記ノ通り結論セリ

結論

- 一、麥作ニ對シ強キ酸性反應ノ人造肥料ノミヲ配合シテ施ストキハ數年後ニ於テ著シク其生育ヲ害スルニ至ル然レトモ鹽基ノ度強キ場合ニ於テモ亦幾分收量ヲ損ス
- 二、第一項ノ如キ關係アルヲ以テ肥價ニ大差ナキ限リハ麥作肥料ハ鹽基性若シクハ中性ニ近ク配合スルヲ可トス
- 三、磷酸加里質肥料ノ選定宜シキヲ得中性ニ近キ配合ヲ行ヘル場合ニ於テハ硫酸安母尼亞

亞ト石灰窒素トハ麥作ニ對スル肥効畧相等シ
 四、前第一項ノ如ク人造肥料ノ反應如何ニヨリ麥ノ生育ニ影響ヲ及ボス程度ハ無機質肥料ノミヲ連用セシ場合ニ於テ殊ニ甚シク堆肥ト併用セシ場合ニハ其差極メテ僅少ナリ
 備考 稻作肥料配合試驗成績ヲ參照スベシ

第四 石灰窒素施用試驗

本試驗ハ麥作ニ對スル石灰窒素ノ適當ナル施用法ヲ知ランガ爲メ明治四十四年ヨリ試驗ヲ開始シ始メハ總テ八區ヲ設ケタリシガ本年ニ至リ既往ノ試驗成績ニ鑑ミ見込ナシト認メタルモノヲ除キテ四區ニ減ゼリ試驗ノ方法ハ各區ヲ通ジ一反歩ニ付元肥トシテ堆肥三百貫、人糞尿四十貫過磷酸石灰四貫、硫酸加里一貫ヲ施シ二月下旬人糞尿四十貫ヲ追肥トセリ石灰窒素ヲ以テ施スベキ反當窒素量ハ各區一貫ツ、ニシテ試驗ノ區別及各區ノ累年稈麥收量ハ左ノ如シ

試驗區別	反當稈麥收量			
	四十四年大正元年	大正二年	大正三年	大正四年以上平均
一、石灰窒素ヲ下種ノ一週間前田面ニ撒布シ表土ノ全部ニ混和ス	一、七八一	一、八四六	一、五二二	一、九七五
二、石灰窒素ヲ壟ノ中央ニ淺ク埋没シ其兩側ニ播溝ヲ切りテ下種ス	一、四二六	一、七七四	一、五六八	一、八七〇
三、發芽後壟ノ兩側ニ細溝ヲ切りテ石灰窒素ヲ埋没ス	一、七五三	一、八八一	一、五五二	一、九四四
四、石灰窒素ニ二十倍ノ土壤ヲ混シ水分ヲ加ヘ二週間堆積シ播溝肌ニ撒布ス	一、二六五	〇、八三七	〇、八二四	〇、二五五
五、第四區ノ如ク調理シタル石灰窒素ヲ播溝下ニ五分許リノ深サニ埋没シテ下種ス	一、七一	一、八〇二	一、三四五	一、九三三
六、第四區ト同量ノ土壤ヲ混シタル石灰窒素ヲ箱ニ入レ醗酵セル堆肥中ニ三日間埋没シ播溝肌ニ施ス	—	一、五九四	一、一三四	一、六六七
七、全上五日間埋没シタルモノヲ播溝肌ニ施ス	—	一、五九二	一、三〇五	一、六九五
八、參考區 硫酸アンモニアヲ元肥、一月中旬三月上旬ノ三回ニ分施ス	二、〇三九	二、〇〇四	一、三〇九	二、〇四一
	二、〇三九	二、〇〇四	一、三〇九	一、九五四

試驗區別	反當稈麥收量			
	四十四年大正元年	大正二年	大正三年	大正四年以上平均
一、發芽後壟ノ兩側ニ細溝ヲ切りテ石灰窒素ヲ埋没ス	一、七五三	一、八八一	一、五五二	一、九四四
二、石灰窒素ニ二十倍ノ土壤ヲ混シ水分ヲ加ヘ二週間堆積シ播溝肌ニ撒布ス	一、二六五	〇、八三七	〇、八二四	〇、二五五
三、發芽後壟ノ兩側ニ細溝ヲ切りテ石灰窒素ヲ埋没ス	一、七五三	一、八八一	一、五五二	一、九四四
四、石灰窒素ニ二十倍ノ土壤ヲ混シ水分ヲ加ヘ二週間堆積シ播溝肌ニ撒布ス	一、二六五	〇、八三七	〇、八二四	〇、二五五
五、第四區ノ如ク調理シタル石灰窒素ヲ播溝下ニ五分許リノ深サニ埋没シテ下種ス	一、七一	一、八〇二	一、三四五	一、九三三
六、第四區ト同量ノ土壤ヲ混シタル石灰窒素ヲ箱ニ入レ醗酵セル堆肥中ニ三日間埋没シ播溝肌ニ施ス	—	一、五九四	一、一三四	一、六六七
七、全上五日間埋没シタルモノヲ播溝肌ニ施ス	—	一、五九二	一、三〇五	一、六九五
八、參考區 硫酸アンモニアヲ元肥、一月中旬三月上旬ノ三回ニ分施ス	二、〇三九	二、〇〇四	一、三〇九	二、〇四一
	二、〇三九	二、〇〇四	一、三〇九	一、九五四

前表ノ結果ニ基ツキ本年度ニ於テ左記ノ通り結論セリ

結論

一、麥ノ元肥トシテ反當五六貫ノ石灰窒素ヲ施サントスルニ當リ豫メ二十倍ノ土壤ヲ混シ二週間堆積シ置クモ之ヲ播溝肌ニ施ストキハ尙發芽ヲ害スルノ虞アリ故ニ土壤ヲ以テ石灰窒素ヲ處理セントスルモ別ニ他物ノ力ヲ借ルニアラサレバ之ヲ無害ノ状態ニ變化セシメ難シ
 二、前項ノ如キ割合ヲ以テ土壤ヲ混シタル石灰窒素ヲ箱ニ入レ三日乃至五日間攝氏五十五度以上ニ醗酵シツ、アル堆肥中ニ埋没シ置キテ之ヲ播溝肌ニ施ストキハ發芽ヲ害スルノ憂殆ンドナキモ肥効ヲ減ズルコト甚シキノミナラズ年ニヨリ發芽後麥ヲ萎縮セ

シメ生育ヲ害スルコトアルヲ以テ之亦應用的ノ處理法ト認メ難シ

三、石灰窒素ハ畑地又ハ土塊ノ能ク粉碎セラレタル田地ニアリテハ全体混和ヲ行フヲ可トシ否ラサル所ニ於テハ發芽後壟ノ兩側ニ埋沒スルヲ以テ簡易且有効ノ施肥法ナリトス

四、堆肥及人糞尿ノ適量ト共ニ施ス場合ニハ麥作ニ對スル石灰窒素ノ肥効ハ硫酸安母尼亞ト大差ナキモ硫酸安母尼亞ノ方幾分勝レル場合多シ

注意一、別ニ行ヘル試驗ノ結果ニヨレバ多量ノ土壤ヲ混ジタル石灰窒素ヲ厩肥中ニ混ジ十數日間堆積醱酵スルトキハ全ク無害ナラシメ得ベキモ肥効ヲ減損スルコト甚シキヲ以テ經濟上實行スベキ方法ニアラズ

二、前第三項ニ記セル如ク最善ト認ムル方法ニヨリ石灰窒素ヲ施スモ本肥料ノミヲ以テハ麥初期ノ生育ヲ佳良ナラシメ難キヲ以テ元肥トシテ堆肥及磷酸加里質肥料ヲ加用スベキハ勿論別ニ速効性窒素肥料ノ少量ヲ施サレバ完全ナル生育ヲ遂ゲシメ難シ

第五 多收穫試驗

本試驗ハ本場ニ於ケル各試驗成績ニ基ツキ各方面ヨリ麥作增收ノ手段ヲ講ジ經濟的多收穫ノ方法ヲ研究センガ爲メ明治四十二年ヨリ試驗ヲ開始シ昨年設計ノ一部ニ訂正ヲ

加ヘ本年之ト同一方法ニヨリ繼續施行セリ試驗ノ區別及方法ノ概要左ノ如シ

一、標準區 全ク本場ノ普通耕種法ニヨル

二、多收穫栽培區 普通耕種法ト異ナレル要點ヲ列記スレバ左ノ如シ

イ、約六寸ノ深サニ耕起セルコト

ロ、荒地起シニ先チ反當堆肥五百貫、硝石灰四十貫、石灰窒素五貫ヲ全面ニ撒布シ表土ノ全部ニ能ク混和セルコト

ハ、播溝ノ幅ヲ約六寸以上トナスコト

ニ、播種量ヲ一反步當二升トナスコト

ホ、四月上旬土寄期ニ先チ二回ニ約一寸ノ厚サニ培土スルコト

ヘ、肥料ノ種類用量及施用期ヲ左表ノ如クスルコト

肥料名	反當用			備考
	總量	元肥	一月中旬 三月上旬	
堆肥	700,000	700,000	—	五百貫ハ全体混和二百貫ハ種子上撒布ニシテ過半ハ稻肥ノ見込
人糞尿	100,000	70,000	30,000	
大豆粕	000,000	000,000	—	
硫酸安母尼亞	20,000	1,200	1,200	

石灰窒素	5,000	5,000	1	15%
智利硝石	1,000	1,000	1	
過磷酸石灰	5,000	5,000	1	
木灰	10,000	10,000	1	
石灰	50,000	50,000	1	

以上ノ如キ區別ニヨリ試験セシニ反當稈麥收量ハ左表ノ如クナリキ

一標準區 一〇〇〇

二多收穫栽培區 二七八〇

第六 培土試驗

本試驗ハ麥作ニ對スル培土ノ効力ヲ知り併セテ培土ニ適當ナル時期回数及其厚サヲ知ランガ爲メ明治四十四年ヨリ繼續施行セルモノニシテ培土期試驗四區培土回数試驗四區及培土深淺試驗三區總テ十一區ヲ設ケテ試験セシニ左表ノ如キ成績ヲ得タリ今之ヲ既往ノ成績ト對照スルニ培土期試驗ノミハ收量ノ順位大体ニ於テ一致セルモ其他ハ成績區々ニシテ一定ナラズ

反當稈麥收量

甲培土期試驗

- 一標準區培土セズ 二四一九
- 二二月上旬培土 二四二〇
- 三三月下旬培土 二六五四
- 四四月上旬培土 二六六三

乙培土回数試驗

- 一標準區培土セズ 二六二六
- 二一回培土 二六五一
- 三二回培土 二五三七
- 四三回培土 二六六六
- 一五分ツ、二回培土ス 二六五四
- 二一寸ツ、二回培土ス 二六八二
- 三一寸五分ツ、二回培土ス 二六三二

丙培土深淺試驗

第七 混作法試驗

本試驗ハ麥類ト蠶豆トヲ同地ニ混作セントスルニ當リ四尺三寸乃至四尺五寸壟縱二條ニ下種スルニハ兩作物ヲ一株隔テニ点播スルト一壟上ニ一條ツ、別ニ栽培スルトハ何レヲ得策トスベキヤヲ驗センガ爲メ昨年ヨリ繼續施行セシニ其反當收量左表ノ如キ成

續ヲ得收量ノ順位大体ニ於テ前年ノ結果ト一致セリ

- 一、一壟上ニ各一條ツ、栽培セシモノ
 - 蠶豆 〇五八三
 - 小麥 〇七五四
- 二、各播溝ニ交互ニ点播セシモノ
 - 蠶豆 〇二五五
 - 小麥 一〇四二

第八 覆土効力試験

本試験ハ麥下種ノ際種子上ニ堆肥ヲ撒布シタル場合其上ニ覆土スルト否トハ其發芽及生育ニ如何ナル差異アルヤヲ驗センガ爲メ本年新設セシモノニシテ試験ヲ甲乙二種ニ分チ甲ハ堆肥施用前大豆粕ヲ施シ乙ハ堆肥施用後大豆粕ヲ施セリ試験ノ區別及成績ハ左表ノ如クナリキ

試験區別	反當稈麥收量
甲、 一、下種ノ際約五分ノ厚サニ覆土ス 二、一月中旬培土ニテ五分ノ厚サニ覆土ス 三、全ク覆土セズ	一五六一 一三九九 一四一六
乙、 一、下種ノ際約五分ノ厚サニ覆土ス 二、一月中旬培土ニテ五分ノ厚サニ覆土ス 三、全ク覆土セズ	一五二〇 一四三〇 一四一六

第九 粕類追肥法試験

本試験ハ動植物性粕類ヲ麥作ノ追肥トナスニ當リ之ヲ播溝上ニ撒布スルト播溝ノ傍ラニ細溝ヲ穿チテ埋没スルトハ何レヲ可トスルヤヲ驗シ尙假ニ播溝上ニ施スモノトセバ新鮮ノマ、撒布スルト土壤水等ヲ加ヘテ豫メ酸酵腐熟セシメテ施ストノ利害得失ヲ知ランガ爲メ本年新設シタルモノニシテ試験ノ區別及成績ハ左表ノ如クナリキ

試験區別	反當稈麥收量
甲、大豆粕ヲ施用セシ場合	
一、播溝上ニ撒布	一、六七二
二、播溝邊ニ埋没	一、九一九
三、重量十倍ノ水中ニテ三十日間腐敗セシメ播溝上ニ施ス	一、六三四
四、堆積酸酵セシメ播溝上ニ施ス	一、七八六
乙、鰾粕ヲ施用セシ場合	
一、播溝上ニ撒布	一、六七二
二、播溝邊ニ埋没	一、八六二
三、重量十倍ノ水中ニテ三十日間腐敗セシメ播溝上ニ施用ス	一、七八六
四、積酸酵セシメ播溝上ニ施用ス	一、六七二

水稻ノ部

第一 豊凶考照試験

本試験ハ毎年同地ニ於テ同一ノ栽培ヲナシ一定ノ時期ニ稻ノ草丈及莖數ヲ調査シ尙收量ヲ計リ以テ本年ノ豊凶ヲ考査センガ爲メ明治三十五年ヨリ繼續施行セルモノニシテ各期ノ氣象生育ノ狀況及收量調査成績ハ左ノ如シ

一、立夏ヨリ大暑ニ至ル天候及大暑當日調査セシ生育狀況

苗代期中ノ氣候ハ概シテ適順ナリシヲ以テ苗ハ極メテ良好ノ成育ヲ遂ゲタリト雖モ移植後七月下旬迄ノ天候ハ概ネ曇雨天ニシテ随ツテ氣温低ク株張伸長共ニ平年ニ比シ劣レリ即チ草丈ハ前十四ヶ年平均ニ比シ早稻ハ二寸五分中稻ハ三寸五分晚稻ハ九分何レモ短カク一株ノ莖數ハ早稻ニ於テ二本ヲ増加セシモ中稻ハ一本晚稻ハ三本何レモ少ナシ

二、大暑ヨリ二百十日ニ至ル天候及二百十日當日ニ調査セシ生育狀況

大暑後ノ氣候ハ極メテ適順ニシテ氣温高ク晴天連續シ風雨ノ被害ナカリシ爲メ大暑前稍不良ナリシ生育狀況漸次恢復シ平年ニ比シ作況稍良好トナレリ而シテ早稻ハ八月二十八日ニ出穂シ前年ニ比シ一日晚ク中稻及晚稻ハ未ダ出穂スルニ至ラズ而シテ前十四

ヶ年平均ニ比シ草丈ニ於テ早稻ハ増減ナク中稻ハ七分晚稻ハ二分何レモ短カキモ一株ノ莖數ハ早稻三本中稻一本何レモ多ク其作況大体ニ於テ平年作以上ノ見込ナリキ

三、二百十日ヨリ秋分ニ至ル天候及秋分當日ニ調査セシ生育狀況

二百十日ヨリ秋分ニ至ル天候ハ極メテ適順ニシテ氣温平年ニ比シ著シク高ク晴天連續シ風雨ノ被害ナク病虫害モ亦平年ニ比シ多カラザリシヲ以テ成熟狀態頗ル佳良ニシテ出穂期ハ前年ニ比シ早稻ハ一日遅カリシモ中稻ハ一日晚稻ハ三日何レモ早ク穂揃佳良ニシテ平年作ニ比シ約一割内外增收ノ見込ナリキ

四、收量調査成績

前記ノ如ク生育期中ノ天候ハ六月下旬ヨリ七月上旬迄曇雨天多ク從ツテ氣温低クシテ本田初期ノ生育ヲ妨グタリシモ其他ハ概シテ適順ナリキ而シテ其收穫ハ平年ニ比シ早稻ハ三分九厘、中稻ハ四分三厘、晚稻ハ一厘ヲ増加セリ

第二 石灰窒素施用期試験

本試験ハ石灰窒素ヲ稻作ノ元肥トスルニ當リ施肥期ト肥効トノ關係並ニ施用量ト被害トノ關係ヲ知ランガ爲メ大正二年ヨリ繼續施行セルモノニシテ試験ヲ甲乙二種ニ分チ甲ハ反當五貫(一七%)ノ石灰窒素ヲ施シ乙ハ同七貫五百匁ヲ施シ何レモ插秧ノ十五日前

施用十日前提用五日前提用及前日施用ノ四區ニ分チ試驗セシニ大体ニ於テ施肥期ノ晚
キニ從ツテ生育佳良ナリシモ挿秧ニ近ツキテ施セシモノハ稍出來過シノ傾キアリ却テ
收量ヲ減ジ概シテ既往ノ成績ト其順位相反セリ

第三 石灰窒素施用法試驗

本試驗ハ石灰窒素ヲ水稻ノ元肥トスルニ當リ乾田狀態ニテ土壤ニ混和シ置クト灌水後
ニ混和スルトニヨリ其肥効ニ如何ナル差異アルヤヲ驗センガ爲メ大正元年ヨリ繼續施
行セルモノニシテ各區ヲ通ジ反當堆肥二百五十貫過磷酸石灰五貫硫酸加里二貫ヲ元肥
トシ七月下旬大豆粕七貫ヲ追肥トシ一反歩ニ付石灰窒素五貫ヲ施シテ試驗セシニ灌水
後施セシモノニ比シ乾田狀態ニテ施セシモノ、方收量多ク大体ニ於テ既往ノ成績ト一
致セリ

第四 元肥トスベキ硫酸安母尼亞ノ施用期試驗

本試驗ハ稻作ノ元肥トシテ乾田狀態ニテ施スベキ硫酸アンモニアノ施用期ト其肥効ト
ノ關係ヲ驗シ以テ適當ナル施肥期日ヲ知ランガ爲メ前年ヨリ繼續施行セルモノニシテ
硫酸安母尼亞ノ反當用量ヲ五貫トシ挿秧ノ十五日前施用十日前提用五日前提用及挿秧

當日施用ノ四區ヲ設ケテ試驗セシニ五日前施用ノモノト十日前提用ノモノト收量ノ順
序ヲ轉倒セシモ其他ハ施肥期ノ晚キニ從ツテ生育收量トモ概シテ佳良ニシテ大体ニ於
テ前年ノ成績ト一致セリ

第五 固形苦汁効力試驗

本試驗ハ稻作ニ對シ固形苦汁ノ効力ノ有無ヲ檢シ併セテ其適當ナル施用期及施用量ヲ
知ランガ爲メ大正三年ヨリ繼續施行セルモノニシテ試驗ヲ甲乙二種ニ分チ甲ノ各區ニ
ハ本場ノ普通肥料ヲ施シ(但シ草木灰ハ施サズ)乙ノ各區ニハ大豆粕二十二貫ヲ施セリ試
驗ノ區別及成績ハ左表ノ如クニシテ之ヲ既往ノ結果ト對照スルニ收量ノ順位區々ニシ
テ一定ナラズ

試 六 驗 區 別 反當玄米收量

一、標準區(固形苦汁ヲ加用セズ)	二、五五五
二、固形苦汁五貫元肥	二、九二五
三、全 十貫元肥	二、五二二
四、標準區(固形苦汁ヲ加用セズ)	二、六六三
五、固形苦汁二十貫元肥	二、四九八

- 一、標準區(固形苦汁ヲ加用セズ) 二、七三三
- 二、固形苦汁五貫元肥 二、八二八
- 三、全 十貫元肥 三、〇二八
- 四、標準區(固形苦汁ヲ加用セズ) 二、八五六
- 五、固形苦汁二十貫元肥 二、八七三

第六 多收穫試驗

本試驗ハ本場ニ於ケル既往ノ試驗成績ニ鑑ミ排水佳良ナル砂質壤土ニ對シ各方面ヨリ稻作增收ノ手段ヲ講ジ經濟的多收穫ノ方法ヲ驗出センガ爲メ大正元年ヨリ繼續施行セルモノニシテ試驗ノ區別及方法ハ左ノ如シ

一、標準區施肥量ヲ異ニセル外本場普通ノ耕種法ニヨル

二、普通苗一步六十三株一株三本植

三、六月十日假植苗七月一日一步六十三株植

本場ノ普通耕種法ニヨリ栽培シタル苗ヲ六月十日一株三本ツ、三寸三分距離ニ假植シ置キ七月一日第二區ト同一ノ株間ニ本植セルモノトス假植地一畝歩當ノ肥料ハ左ノ如シ

菜種 粕 三 貫 匁 (假植ノ一週日前土壤ニ混入)

硫酸あんもにあ 三百五十匁 (插秧當日施用)

過磷酸石灰 五百 匁 (插秧當日施用)

木 灰 二 貫 匁 (菜種粕ト同時ニ施用)

四、一步一合五勺播苗本田一步六十三株二本植

此區ハ苗代一步ノ播種量ヲ一合五勺トシ本田一株ノ本數ヲ二本トスル外總テ第二區ノ耕種法ニヨル但シ此區ト第五區トハ苗代一步ノ肥料ヲ左記ノ通りトシ普通ヨリモ増施セリ

菜種 粕 百三十匁 (元 肥)

硫酸安母尼亞 二十 匁 (半量元肥半量五月三十日)

過磷酸石灰 十五 匁 (元 肥)

木 灰 百八十匁 (元 肥)

五月三十日追肥施用前苗ノ間引キヲ行ヒ間隔ヲ五六分以上トナシ尙插秧ノ際全ク分蘖セザル苗ハ除去セルモノトス

五、一步一合五勺播苗本田一步八十四株一本植

本試験各區ヲ通ズル本田一反歩當ノ肥料ハ左ノ如シ

肥料名	總量	元	肥	
			(七月中旬)肥	(七月下旬)肥
堆肥	10,000	250,000		
大豆粕	10,000	10,000		
燒酎粕	15,000	15,000		
菜種粕	15,000	15,000		
過磷酸石灰	5,000	5,000	7,500	
木灰	10,000		10,000	
硫酸加里	1,500	1,500		

本試験ノ成績ハ左表ノ如クニシテ收量ノ順位大體ニ於テ既往ノ成績ト一致セリ

試驗區別 反當玄米收量

- 一、標準區 三、六一六
- 二、普通苗六十三株一株三本植 三、六五三
- 三、六月十日假植苗七月一日一步六十三株植 三、六八三

- 四、一步一合五勺播苗本田一步六十三株二本植 三、五八七
- 五、一步一合五勺播苗本田一步八十四株一本植 三、四〇八

第七 育苗成法ニ關スル試驗

本試験ハ一株ニ挿秧スル苗ノ莖數ヲ等シクセル場合ニハ分蘗多キ苗ヲ育成シテ其本數ヲ減ズルト分蘗少ナキ苗ヲ育成シテ其本數ヲ多クスルトハ何レヲ可トスルカヲ驗センガ爲メ大正三年ヨリ繼續施行セルモノニシテ苗代肥料ヲ普通ノ二割増トシ本田肥料ヲ普通ノ五割増トシ深耕ノ肥沃地ニ於テ試驗セシニ其成績左表ノ如クナリキ之ヲ既往ノ結果ト對照スルニ收量ノ順位區々ニシテ一定セズ

- 試驗區別 反當玄米收量
- 一、四本分蘗苗一本植 三、三四八
 - 二、二本分蘗苗二本植 三、三六八
 - 三、分蘗セザル苗四本植 三、五二〇

第八 耕耨深淺對多收穫試驗

本試験ハ潤澤ナル肥料ヲ施シ各方面ヨリ多收穫ノ手段ヲ講ズルニ當リ深耕ノ効力程度ヲ知ランガ爲メ本年新設シタルモノニシテ苗代一步ノ耨播種量ヲ一合五勺トシ本田一

歩ノ株數ヲ六十三株一株二本植トシ苗代本田トモ普通肥料ノ約一倍半量ヲ施シ三寸耕五寸耕七寸耕ノ三區ヲ設ケ試驗セシニ耕耨ノ深キニ從ツテ漸次生育良好ナリシモ七月上中旬ノ天候不良ナリシ爲メ七寸耕區ハ稍晩出來ノ感アリシノミナラズ深耕ノ初年ナルヲ以テ幾分不健康狀態ヲ呈セルヲ以テ收量ノ結果ハ却ツテ生育狀況ト相反セリ

第九 苗ノ假植對移植期試驗

本試驗ハ水稻苗ノ假植及移植ノ適期ヲ知ランガ爲メ明治四十三年ヨリ繼續施行セルモノニシテ品種ハ晚稻神力ヲ用ヒ假植地ノ肥料ハ一步ニ付菜種粕百匁硫酸安母尼亞十二匁過磷酸石灰十五匁木灰百匁ニシテ假植ノ株間ハ三寸三分トセリ試驗ノ區別及其累年成績ハ左表ノ如クナリキ

試驗區別	反當				全上				以上平均
	四十二年	大正二年	大正三年	乙	大正五年	以上平均	以上平均		
甲、六月三日假植	三、五八八	三、五八〇	二、八五八	二、九八〇	三、〇三〇	三、〇三〇	三、〇三〇		
乙、六月十三日假植	三、五〇二	二、九四四	二、七八六	二、七八六	三、一〇二	三、一〇二	三、一〇二		
丙、六月廿三日假植	三、三二六	三、三二二	二、七九三	二、八四三	二、八四三	二、八四三	二、八四三		
丁、標準區(六月廿三日普通苗移植)	三、一七五	三、三六〇	二、五四二	二、七四二	二、五八三	二、五八三	二、五八三		
七月十三日植	三、二二八	三、三〇二	二、三二八	二、八〇七	二、八〇七	二、八〇七	二、八〇七		
七月二十三日植	三、二二七	三、一八〇	二、八五七	二、八七一	二、八二〇	二、八二〇	二、八二〇		
七月十三日植	三、二八九	三、四七五	二、八〇〇	二、八五七	二、八六五	二、八六五	二、八六五		
七月二十三日植	三、九〇二	三、九七七	二、五五五	二、八一四	二、六〇九	二、六〇九	二、六〇九		
七月二十三日普通苗移植	三、三二二	三、三三八	二、八七九	二、九五八	二、七九九	二、七九九	二、七九九		

試驗區別	反當				全上				以上平均
	四十二年	大正二年	大正三年	乙	大正五年	以上平均	以上平均		
甲、六月三日假植	三、五八八	三、五八〇	二、八五八	二、九八〇	三、〇三〇	三、〇三〇	三、〇三〇		
乙、六月十三日假植	三、五〇二	二、九四四	二、七八六	二、七八六	三、一〇二	三、一〇二	三、一〇二		
丙、六月廿三日假植	三、三二六	三、三二二	二、七九三	二、八四三	二、八四三	二、八四三	二、八四三		
丁、標準區(六月廿三日普通苗移植)	三、一七五	三、三六〇	二、五四二	二、七四二	二、五八三	二、五八三	二、五八三		
七月十三日植	三、二二八	三、三〇二	二、三二八	二、八〇七	二、八〇七	二、八〇七	二、八〇七		
七月二十三日植	三、二二七	三、一八〇	二、八五七	二、八七一	二、八二〇	二、八二〇	二、八二〇		
七月十三日植	三、二八九	三、四七五	二、八〇〇	二、八五七	二、八六五	二、八六五	二、八六五		
七月二十三日植	三、九〇二	三、九七七	二、五五五	二、八一四	二、六〇九	二、六〇九	二、六〇九		
七月二十三日普通苗移植	三、三二二	三、三三八	二、八七九	二、九五八	二、七九九	二、七九九	二、七九九		

結論

前表ノ結果ニ基ツキ本年度ニ於テ左記ノ通り結論セリ

一、水稻假植ノ時期ハ本植期ノ早晚ニヨリ斟酌ヲ要スベキモノナレバ時日ヲ以テ其適期ヲ指定シ難キモ本田移植期ヨリ約二十日前ニ假植スルヲ可トス

二、水稻苗ヲ豫メ別田ニ假植セシ場合ニアリテモ六月下旬以後ニ於テハ本田移植期ハ概シテ早キヲ可トス殊ニ七月十日ヲ過ギテ本植スルトキハ年ニヨリ著シク減收ヲ招クコトアリ

但シ假植期間二週間ニ充タサルトキハ早ク本植スルモ却テ生育ヲ害スルコトアリ

注意一、假植期間ノ長短ハ假植地ノ土質ト肥料トニヨリテ斟酌ヲ要ス即チ排水佳良ナ

ル砂質壤土ニシテ速効肥料ヲ施シタル場合ニ於テハ其日數稍短カクシテ足ルベク之ニ反シ粘土地ニテ粘類若シクハ之以上ニ速効肥料ヲ施セシ場合ニ於テハ稍長ク假植シ置カサルベカラズ

二 不得止事故ノ爲本田ノ移植期ヲ後レタル場合ニ於テハ元肥トシテ適量ノ速効肥料ヲ加用スベシ

第十 假植地株間廣狹試驗

本試驗ハ七月中心挿秧センガ爲メ豫メ稻苗ヲ別田ニ假植スルニ當リ適當ナル株間距離ヲ知ランガ爲メ大正二年ヨリ繼續施行セルモノニシテ假植地ノ肥料ハ普通苗代肥料ニ等シク品種ハ中稻多平選及晚稻神力ヲ用ヒ一株ノ本數ハ多平選ハ六本神力ハ三本トシ本田移植期ハ七月十三日及同月二十三日ノ兩度トス而シテ前者ハ稈麥跡ニ普通肥料ヲ施シテ栽培シ後者ハ藪作跡地ニ挿秧シ一步ノ株數ハ何レモ四十九株トシテ試驗セシニ稈麥跡本植ノモノハ假植株間ノ廣キニ從ツテ生育良好ナリシモ收量ハ生育狀況ト相反シ藪作跡地ニ挿秧セシモノハ假植株間ノ廣キニ從ツテ生育收量トモ概シテ優良ナリキ而シテ之ヲ既往ノ成績ト對照スルニ稈麥跡挿秧ノモノ收量ノ順位稍顛倒セル外大体ニ於テ一致セリ

第十一 螟虫一化期被害莖切取試驗

本試驗ハ二化螟虫第一化期ノ被害劇甚ナリシ場合水面上ヨリ其稻株ヲ刈取ルトキハ否ラザルモノニ比シ爾後稻ノ生育收量ニ如何ナル影響ヲ及ボスヤヲ驗シ併セテ刈取リノ適期ヲ知ランガ爲メ本年新設シタルモノニシテ品種ハ中稻雄町及晚稻神力ヲ用ヒ苗代一步ノ播種量ヲ一合五勺トシ苗代本田ヲ通ジテ全ク採卵ヲ行ハズ而シテ兩品種トモ全く刈取ラザルモノ、七月六日刈取同月十三日刈取同月二十日刈取ノ四區ヲ設ケテ試驗セシニ八月中旬迄ハ刈取期ノ早キニ從ツテ著シク生育佳ナルコトヲ判然區別シ得タリシモ第二化期ノ驅除ヲ行ハザリシ爲メ各區間ニ被害程度大差ナキニ至リ從ツテ其成績區々ニシテ收量増減ノ理由ヲ知ルニ由ナカリキ明年ハ二化期ノ驅除ヲ勵行シテ本試驗ヲ繼續セントス

第十二 藪作跡稻株間廣狹試驗

本試驗ハ藪作跡地ニ挿秧スベキ稻株間ノ廣狹ト玄米收量トノ關係ヲ驗センガ爲メ昨年ヨリ繼續施行シ本年更ニ一區ヲ追加セルモノニシテ品種ハ晚稻日ノ出選ヲ用ヒ六月二十三日株間三寸三分一株四本ツ、別田ニ假植セシ苗ヲ七月二十五日藪草ノ刈取跡地ニ移植スルニ當リ一步ノ株數ヲ四十八株六十株七十二株ノ三區ニ分チ試驗セシニ株數ノ

多キニ從ツテ僅カツ、ノ增收ヲ得タリ之ヲ前年ノ成績ト對照スルニ收量ノ順位顛倒セ

第十三 藺作跡稻品種試驗

本試驗ハ藺作跡地ニ適當ナル稻ノ品種ヲ選定センガ爲メ明治三十七年ヨリ繼續施行セ
ルモノニシテ本年ノ供試品種ハ龜治相德白笹雄町吉備穗朝鮮ノ六種ナリシガ收量ノ最
モ多カリシハ白笹ニシテ朝鮮及相德之ニ亞ギ大體ニ於テ前年ノ成績ト一致セリ

第十四 二期作試驗

本試驗ハ一ヶ年間ニ二回ノ稻作ヲナス方法ハ本縣下ニテ經濟的ニ之ヲ應用シ得ルヤ否
ヤヲ驗センガ爲メ昨年ヨリ繼續施用セルモノニシテ其耕種法ノ概要左ノ如シ

第一期作

- 一、種 類 衣笠早稻(高知縣產) 坊主(北海道產) 糯(北海道產)
- 二、苗代整地 普通苗代ニ同シ
- 三、苗代肥料 苗代一步ニ對スル肥料ノ用量左ノ如シ
 - 人 糞 尿 一貫三百匁(元肥)
 - 過 磷 酸 石 灰 十五匁(元肥)

木 灰 二百匁(元肥)

硫酸安母尼亞 五匁(四月下旬追肥)

四、播 種

種 三月中旬一步七合播トス

五、播種後管理

下種後四月二十日迄ハ晝ハ稍水ヲ淺クシ夜ハ幾分深クスベキモ全ク落
水セズ其後ハ普通苗代ト同一ノ管理ヲナセリ

六、本田ノ整地

移植ノ二週間前迄ニ荒地起シ及塊返シヲ行ヒ置キ移植數日前元肥ヲ施
シテ表土ニ混和シ移植當日灌水シテ代播キヲ行フ

七、移 植

五月十五日一步ニ付七十株一株五本ツ、播秧ス

八、本田肥料

肥料ハ總テ元肥トシタリ其反當施肥量左ノ如シ

腐熟堆肥 二百五十貫

大豆粕 十二貫

人糞尿 百貫

過磷酸石灰 四貫

草木灰 六貫

九、除 草 除草ハ三回トシ移植後二週間ノ後雁爪ニテ淺ク打テ爾後六月中旬迄ニ

二回手ニテ除草セリ
成熱期ノ氣温高キヲ以テ過度ニ乾燥セサルコトニ注意スル外普通ノ取
扱ヒニ等シ

第二期作

- 一、種 類 晩稻日ノ出選
- 二、苗 代 本場普通ノ耕種法ニヨルベキモ只播種期ヲ五月二十日トセシヲ以テ之ニ準ジテ整地及施肥ノ時期ヲ異ニセリ
- 三、苗ノ假植 假植地ニ對シテハ假植ノ數日前一步ニ付菜種粕百匁木灰百匁及過磷酸石灰十五匁ヲ施シ表土ニ能ク混和シ置キ七月五日株間三寸三分一株四本ツ、假植セリ
- 四、本田ノ整地 第一期作ノ收穫後直ニ硫酸安母尼亞ヲ除ク外ノ各肥料ヲ撒布シテ耕起シ馬鋤ニテ代播キヲ行ヒ移植ノ準備ヲナセリ而シテ代播キノ際硫酸安母尼亞ヲ施シテ表土ニ混和セリ
- 五、移 植 午後三時以後假植苗ヲ拔キ取り(根ニ付着セル土ヲ全部流ヒ落サザル様取扱ヒタリ)一步六十四株ノ割合ニ移植シ爾後約五日間ハ可成深水トシ

其後ハ普通ノ如ク取扱ヘリ
尙移植ノ際苗ノ徒長セルモノハ適宜葉先ヲ切斷セリ
六、肥 料 肥料ハ總テ元肥トシタリ其反當施肥量左ノ如シ

- 腐熟堆肥 二百五十貫
- 大豆 粕 十 貫
- 硫酸安母尼亞 三 貫
- 過磷酸石灰 四 貫
- 草木灰 六 貫

七、除 草 移植後十日毎ニ二回手ニテ除草ス
以上ノ外ハ總テ普通ノ耕種法ニ準シ取扱ヒタリ
前記ノ如キ耕種法ニテ栽培セシニ第一期作ニ對シテハ六月中旬ヨリ七月上旬ニ亘リ葉ノ過半ヲ摘ミ取り生育ヲ遲延スル程度迄螟虫ノ採卵ヲ行ヒシモ尙且虫害劇甚ヲ極メ收量ヲ減損セシコト少ナカラサリシノミナラズ七月下旬成熱スルモノナレバ時恰モ田圃ニ雀ノ啄ムベキ穀類ナキ時ナレバ網其他ノ案山子ヲ設ケタリシモ雀群悉ク本試驗地ニ集マリ被害甚シク殆ンド收穫皆無ノ慘狀ヲ呈セリ第二期作ニアリテハ昨年ハ反當約

二石餘ノ收穫ヲ得タリシモ本年ハ甚シク生育ヲ遅延シ穂首いもち病ニ侵サルハコト多カリシト秋冷ノ爲メ完全ニ成熟シ能ハザリシトニヨリ青米死米等ノ少許ヲ得タルノミニシテ之亦玄米收量トシテ數字ヲ掲グルノ價値ナカリキ

以上二ヶ年ノ成績ト大正三年豫備試験ノ結果トヲ綜合シテ考フルニ鳥虫ノ害ヲ防止スベキ特殊簡易ノ方法アリトセバ一毛作地ノ利用法トシテハ全ク應用ノ見込ナキニアラサレトモ第一期作ノ如キハ一般稻作ニ比シ不時ノ生育ヲナスモノナレバ遺憾ナク之ヲ驅除豫防スルハ事實上不可能ナルノミナラズ第二期作ハ八月上旬ニ至リ插秧スルモノナレバ假ニ秋季ノ天候佳良ナリトスルモ到底良米ヲ産スル見込ナク若シ又不幸ニシテ秋冷ヲ催スコト早カラシカ七月上旬ニ假植セシ苗ヲ用フルモ收穫極メテ僅少ナリ以上ノ如キ關係アルヲ以テ本縣ニ於テハ到底經濟的ニ二期作ヲ實行スルノ見込ナキモノト認メ本年限リニテ試験ヲ結了セリ

紫雲英ノ部

第一 刈取期試験

本試験ハ紫雲英刈取期ノ早晚ト其肥効トノ關係ヲ知ランガ爲メ本年新設セシモノニシ

テ紫雲英ノ品種ハ岐阜縣産大晩生種ニシテ稻ノ品種ハ晩稻日ノ出選ヲ用ヒ紫雲英ノ刈取期ヲ五月十五日、五月二十五日及六月五日ノ三期ニ分チ各期トモ其生産量ノ二分ノ一ヲ刈取後直ニ之ヲ栽培現地ニ耨キ込ミ試験セシニ刈取期ノ晚キニ從ツテ生育收量トモ漸次佳良ナリキ

第二 施用法試験

本試験ハ紫雲英ヲ刈取當時直ニ土中ニ耨キ込ミ置クト一旦乾燥貯藏シ置キ稻插秧ノ數日前土中ニ耨キ込ムトハ其肥効及稻ノ生育状態ニ如何ナル差異ヲ生スルヤヲ驗センガ爲メ昨年ヨリ繼續施行セルモノニシテ供試地ハ紫雲英ノ刈取跡地トシ稻ノ品種ハ晩稻日ノ出選ヲ用ヒ試験ヲ甲乙二種ニ分チ甲ハ反當五百貫ノ紫雲英ヲ施シ乙ハ同一千貫ヲ施シ兩區トモ更ニ刈取後直ニ施セシモノト一旦乾燥シテ貯藏シ置キ六月中旬施セシモノトノ二區ニ分チ試験セシニ何レモ六月中旬施用區ノ方遙カニ生育良好ナリシガ一千貫施用區ハ肥効過度ノ爲メ生草ノマ、施用區ニ比シ却テ收量ヲ減ゼリ

寒冷地試験ノ部

阿哲郡千屋村試験場

第一 品種試験

本試験ハ北部寒冷地方ニ適當ナル稻ノ品種ヲ選出センガ爲メ明治四十三年ヨリ繼續施行セルモノニシテ本年ノ供試品種ハ總テ十五種ナリシガ米質中等以上ニシテ收量ノ多カリシハ龜治、伯耆早稻、八反、穀良都等ナリキ而シテ既往ノ成績ヲ綜合シテ比較的優良ト認ムル品種ハ穀良都、福吉、八反、伯耆早稻等ニシテ品質不良ナルモ強健ニシテ多收ナルハ愛國赤毛トシ稍晩熟ナレトモ肥培ノ方法如何ニヨリテハ多收ノ見込アルモノハ龜治ナリトス

第二 品種豫備試験

本試験ハ特性ノ未ダ瞭カナラザル品種ヲ栽培シ其大体ノ性質ヲ調査シ品種試験ニ加フル價値アルモノヲ選出センガ爲メ大正三年ヨリ繼續施行セルモノニシテ供試品種ハ總テ二十種ナリシガ品質中等以上ニシテ收量ノ比較的多カリシハ福山、雄町、日本刀、長州荒木等ニシテ品質不良ナルモ強健多收ナリシハ矢戸早稻、因幡坊主等ナリキ

第三 播種期對播種量試験

本試験ハ播種ノ時期ト播種量トノ關係ヲ知り以テ播種ノ適期及之ニ對スル適當ナル播種量ヲ定メンガ爲メ本年新設セシモノニシテ試験ノ區別及成績ハ左表ノ如クナリキ

順位	一步播種量	播種期	一株本數	反當	米收量
一	合五勺	四月十日	二		三、二八七
二	全	全	二		三、一七五
三	全	四月三十日	二		三、二七一
四	合	四月十日	二		三、〇四〇
五	全	全	四		三、〇七二
六	全	全	二		三、一四四
七	全	四月二十日	二		三、一〇二
八	全	全	四		三、〇六四
九	全	四月三十日	四		三、〇六四
一〇	全	四月十日	六		二、七五七
一一	全	全	六		二、八八六

一五	一四	一三	一二
全	全	全	全
全	全	全	全
	三十日		二十日
六	四	六	四
全	全	全	調査ヲ欠ク

右ノ結果ト既往ニ於ケル播種期及播種量ニ關スル試驗成績トヲ綜合シテ案ズルニ寒冷地方ニ於テハ播種量ノ少ナキニ從ツテ成績佳良ナレトモ四月中下旬ノ間ニアリテハ播種期ノ早晚ハ收量ニ殆ンド影響ヲ及ボサザルモノ、如ク尙播種量ノ多少ト播種期トモ亦大ナル關係ナキモノト認ムルコトヲ得ベシ

第四 株間本數ト播種量トノ關係試驗

本試驗ハ寒冷地方ニ適當ナル水稻移植ノ株間ト一株本數トヲ知り尙播種量ノ株間本數ニ及ボス影響ヲ驗センガ爲メ明治四十三年ニ開始セシ株數對本數試驗ノ一部ニ昨年度ヨリ改正ヲ加ヘテ繼續施行セルモノニシテ試驗ノ區別及成績ハ左表ノ如クナリキ今之ヲ既往ノ結果ト對照スルニ收量ノ順位區々ニシテ一定ナラズ

試驗區別
 一、二合五勺播苗一本植 反當玄米收量 三、一五八

甲、長方形 一步八十株植 (東西七寸五分 南北六寸)	二全	三本植	三、一七六
	三全	六本植	三、二七〇
	四三合播苗三本植		三、〇九八
	五全	六本植	三、二六四
	六五合播苗六本植		三、一八三
	七全	十本植	三、一五六
	一、二合五勺播苗一本植		三、二一七
	二全	三本植	三、二二九
	三全	六本植	三、二二二
	四三合播苗三本植		三、〇九〇
乙、長方形 一步百二十株植 (東西七寸五分 南北四寸)	五全	六本植	三、一七〇
	六五合播苗六本植		三、一九七
	七全	十本植	三、二二五
	一步八十一株植	三合播苗三本植	二、九一二
	一步百二十一株植	三本植	三、一八五
丙、正 方 形	一步八十一株植	三合播苗三本植	二、九一二
	一步百二十一株植	三本植	三、一八五

第五 整地法試験

本試験ハ北部寒冷地方ニ於テ從來一般ニ行ハレツ、アル如ク灌水後數回牛耕及馬鍬掻キヲナシテ表土ヲ軟泥狀ナラシムルト灌水前大体ノ土塊粉碎ヲ行ヒ灌水後ハ單ニ代掻キニ止ムルトハ何レヲ可トスルヤヲ驗センガ爲メ明治四十三年ヨリ繼續施行セルモノニシテ試験ノ區別及試験開始以來ノ累年成績ハ左表ノ如シ

試験區別	米					以上平均
	反	當	玄	收	量	
一、灌水整地法(三回牛耕)	四十二年 二、〇五〇	四十四年 二、〇二〇	大正元年 二、五九二	全二年 二、五〇九	全三年 二、八九七	三、二六三
二、乾田整地法(二回馬鍬掻)	四十二年 二、〇七二	四十四年 二、〇七二	大正元年 二、七七一	全二年 二、四八九	全三年 三、〇〇九	三、二七八
						二、六二二

前表ノ結果ニ基ツキ本年度ニ於テ左記ノ通り結論セリ

結論

一、乾田ノ整地法ハ灌水後ニ於テ牛耕馬鍬掻等ヲ行フヨリモ灌水前大体ニ土塊ヲ粉碎シ灌水後ハ可成簡單ナル代掻キニ止ムルヲ可トス
 注意 一、灌水後土壤ヲ攪拌スルヨリ生ズル弊害ハ南部ノ締リ易キ土質ニ於テ殊ニ甚シク北部ノ浮游シ易キ土質ニ於テハ却テ灌水整地ヲ可トスル場合ナキニアラズ
 二、土質ノ如何ニ拘ラズ保水力ニ乏シキ土地ハ表土ヲ充分ニ攪拌シ故ラニ粘強ナ

ラシムルト同時ニ犁床ヲ以テ底土ヲ摩擦シ間隙ヲ塗抹シテ水ノ滲透ヲ防止スル必要アルベシ

第六 厩肥堆積法試験

本試験ハ厩肥ヲ堆積スルニ當リ單ニ少量ノ水分ヲ加ヘテ一、二回積ミ換ヘセシモノト風呂水米ノ洗汁其他時々生ズル汚水ヲ注加シ數回積ミ換ヘセシモノト稻作ニ對スル肥効ニ如何ナル差異ヲ生ズルヤヲ驗センカ爲メ大正三年迄行ヒタル厩肥堆積法試験ノ取扱方法ヲ變ジテ本年再設セシモノニシテ一反歩ニ施スヘキ原料厩肥ハ七百貫トシ兩區トモ一千四百貫ツ、ヲ一堆積トシ六ヶ月ニシテ完成セシメタリ試験ノ區別及方法ハ左記ノ如シ

一、普通堆積法

堆肥ノ固マラザル程度ニ水分ヲ加ヘ二回積換ヲ行フ

二、汚水注加緊密堆積法

醱酵ノ中止セサル限り可成多量ノ汚水ヲ注ギ三回切り返シヲ行フ
 以上ノ如キ區別ニヨリ試験セシニ兩區ノ生育狀況殆ンド差異ナク其收量モ亦僅カニ反當一升八合ノ差ヲ以テ第一區ノ方優位ナリシノミ

第七 紫雲英肥効試験

本試験ハ寒冷地方ニ對スル紫雲英ノ効力程度ヲ知ランガ爲メ大正三年ヨリ繼續施行セ
ルモノニシテ紫雲英ノ品種ハ岐阜縣産中晩生種ヲ用ヒ稻ノ品種ハ愛國種ヲ用フ試験ノ
區別左ノ如シ

一、標準肥料區

紫雲英ヲ栽培セザル土地一反歩ニ付左記ノ肥料ヲ施ス

堆肥 六百貫

硫酸安母尼亞 一貫五百匁

過燐酸石灰 五貫

木灰 十貫

石灰 三十貫

二、紫雲英ノ刈取跡地ニ石灰三十貫加用

紫雲英ノ收量ハ年ニヨリ一定ナラサレドモ六百貫餘ヲ普通トス而シテ此區ハ紫雲

英ノ刈株ト石灰三十貫ノミヲ肥料トセルモノナリ

三、紫雲英五百貫石灰三十貫施用區

紫雲英ヲ栽培セザル第一區ト同一ノ土地ニ反當五百貫ノ紫雲英ト三十貫ノ石灰ト
ヲ施ス

以上ノ如キ區別ニヨリ試験セシニ其累年成績ハ左表ノ如クナリキ

試驗區別	反當		以上平均
	大正三年	大正四年	
一、普通標準肥料區	三、二八七	三、二四四	三、二六五
二、紫雲英刈取跡ニ石灰三十貫加用	三、〇八一	三、一一〇	三、一八九
三、紫雲英五百貫石灰三十貫加用	三、三二七	三、九四五	三、四四九

前表ノ結果ニ基ツキ本年度ニ於テ左記ノ通り結論セリ

結論

- 一、北部寒冷地方ニ於テ岐阜縣産中晩生紫雲英ヲ栽培スルトキハ一反歩ニ付普通六七百貫ノ收量ヲ得
- 二、前項ノ如キ收量ヲ得タル場合ニ於テ紫雲英ノ跡地ニ稻ヲ栽培スルニハ七月上中旬數十貫ノ石灰ヲ加用セバ其根株ノミニテ相當ノ肥効ヲ奏ス
- 三、紫雲英ヲ栽培セサル土地ノ稻作ニ對シ他ヨリ莖葉ヲ持チ來リテ施スニハ大凡反當五百貫内外ヲ適度トス

四前項ノ如キ肥効ヲ奏スルガ故ニ寒冷地方ニ於テ紫雲英一反歩ヲ栽培スルトキハ二反歩乃至二反五畝歩ニ對スル潤澤ナル肥料ヲ生産シ各反當三石内外ノ玄米ヲ收ムルコトヲ得

五寒冷地方ニ於テ五月下旬施スベキ生紫雲英ノ肥効ハ〇・五%内外ノ窒素ヲ含有セル腐熟堆肥ト同等以上ト認ムルコトヲ得

注意一、寒冷地方ト雖モ紫雲英ノ種類ハ大晩生種ヲ可トス

二、寒冷地ニ栽培スベキ紫雲英ハ寒傷ノ虞アルガ故ニ南部ニ比シ播種量ヲ二三割増加スルヲ可トス

第八 多收穫栽培法試驗

本試驗ハ既往ノ試驗研究ニ基ツキ各方面ヨリ稻作增收ノ手段ヲ講ジ經濟的多收穫ノ方法ヲ驗センガ爲メ昨年ヨリ繼續施行セルモノニシテ品種ハ穀良都及愛國ノ兩種ヲ用ヒ最モ肥沃ナル深耕地ニ於テ試驗セリ試驗ノ區別及反當玄米收量ハ左表ノ如クニシテ前年ノ成績ト對照スルニ收量ノ順位全ク一致セリ

試驗區別	反當玄米收量
一、穀良都 反當堆肥七百貫、大豆粕五貫、硫酸安母尼亞一貫五百匁、過磷酸石灰五貫、木灰十貫、石灰三十貫ヲ施シ其他ハ普通ノ耕種法ニヨル	三、四二七

二、愛國 全上	三、四七六
三、穀良都 第一區ト同一ノ肥料ヲ施シ苗代一步一合五勺播トセシ苗ヲ本田一步八十四株一株二本植トス	三、五〇五
四、愛國 全上	三、五〇六

眞庭郡八束村試驗場

第一 品種試驗

本試驗ハ北部寒冷地方ニ適スル水稻ノ良品種ヲ選出セントスルニアリテ十五種類ニ就テ試驗セシニ米質中等以上ニシテ收量多カリシハ福吉、穀良都、八反ニシテ米質稍不良ナルモ收量多カリシハ矢戸早稻、愛國繁穗等ニシテ前年ト畧同様ノ結果ヲ示セリ

第二 品種豫備試驗

本試驗ハ特性ノ未ダ瞭カナラザル品種ニ就キ其大体ノ性質ヲ調査シ品種試驗ニ加フル價値アル品種ヲ選出セントスルニアリテ十一種ニ就キ試驗シタルニ本年ハ有望ト認ムベキモノヲ見出サズ

第三 播種量對一株本數試驗

本試驗ハ北部寒冷地方ニ於ケル播種量ノ適度ヲ知り俾セテ播種量ト一株本數トノ關係ヲ知ラントスルニアリテ本年ノ成績左ノ如シ

試驗區別 反當玄米收量

一步一合五勺播	全	一株二本植	三、一九二
	全	五本植	二、九八五
	全	十本植	二、八八〇
一步三合播	全	二本植	三、一四一
	全	五本植	三、〇六九
	全	十本植	二、八二四
一步五合播	全	二本植	三、一四七
	全	五本植	三、一二〇
	全	十本植	二、六二八

第四 株間本數試驗

本試驗ハ北部寒冷地方ニ適スル株間ト本數トヲ知り併セテ密植ヲ行フ場合ニ於ケル正
 方形植ト長方形植トノ利害ヲ判定セントスルニアリテ一步三合播ノ苗ヲ用キ試驗セル
 ニ本年ノ成績左ノ如シ

試驗區別 反當玄米收量

一步六十四株一株五本植(長方形植)	全	十本植(全)	三、〇一八
一步八十株一株五本植(全)	全	八本植(全)	三、〇〇六
	全	十本植(全)	二、九二五
一步百二十株一株五本植(全)	全	十本植(全)	三、〇六六
一步八十一株一株五本植(正方形植)	全	十本植(全)	三、〇五四
一步百二十株一株五本植(全)	全	十本植(全)	二、九三七

第五 多收穫栽培法試驗

本試驗ハ本場及千屋村試驗場ニ於ケル既往ノ試驗研究ニ基キ各種ノ手段ヲ盡シテ以テ
 多收穫ノ方法ヲ講セントスルモノニシテ穀良都ヲ用ヒ試驗セリ本年ノ成績左ノ如シ

試驗區別 反當收量

一步八十株三本植	三、一六二
一步百二十株四本植	三、六八一

第六 石灰効力試験

本試験ハ連年多量ノ厩肥柴草ノ類ヲ施用シ來リタル北部山間地方ノ田地ニ對スル石灰ノ効力ヲ驗シ併セテ連年石灰施用ノ結果土地ニ如何ナル影響ヲ及ホスヤヲ驗セントスルニアリテ四區ニ別チテ試験シタルニ前年ト同様石灰ノ効力顯著ナルヲ認めタリ即チ左表ノ如シ

試験區別 反當玄米收量

- 一、標準區 二、四八七
- 二、石灰二十貫加用 二、八九八
- 三、石灰四十貫加用 三、一八九
- 四、石灰六十貫加用 三、三二一

開墾地稻作試験ノ部

本試験ハ原野開墾ノ當初ヨリ相當ノ收穫ヲ擧クルノ方法ヲ研究セントスルモノニシテ久米郡加美村大字越尾字舟ヶ塔ニ於テ大正三年ヨリ繼續施行セリ而テ本年ノ新開地モ亦前年ト同様笹、柴草、生育不良ナル針葉樹等ヲ粗生セル山腹ノ傾斜地ニシテ有機物ニ乏

シキ瘠薄ナル赤色粘土ヨリ成リ酸度モ亦極メテ高シ

試験ハ新開地開墾二年目及三年目ノ三ヶ所ニ就キ土地ヲ一定シ同一試験ヲ行ヒタリ

第一 品種試験

本試験ハ開墾當初ニ於ケル田地ニ適スル強健ナル品種ヲ選出セントスルニアリテ當場ニ於ケル從來試験ノ結果比較的強健ナリト認めベキ六種ニ就キ試験セリ本年ノ成績左ノ如シ

品 種 名	反 當		
	開墾第三年目ノ土地	全 玄	米
早 稻 穀 良 都	一、八〇五	一、二七五	〇、七三八
全 愛 國	一、九七五	一、三三七	〇、九一二
中 稻 多 平 選	一、八八一	〇、九三〇	〇、八九九
全 都 治	一、四七四	一、一八三	〇、四二九
全 龜 治	二、二四七	一、五〇〇	一、五九一
全 樫 ノ 棒	一、七五五	一、五三〇	〇、五三三
全 收 量			初年目ノ土地

第二 肥料試験

本試験ハ開墾當初ニ於ケル田地ノ水稻肥料トシテ適當ナル窒素質肥料並ニ之ガ配合法

ヲ知ラントスルニアリテ反當窒素ハ第一區第二區ヲ除ク外ハ堆肥三百貫ノ外ニ窒素約一貫五百匁ヲ供試肥料ニテ施シ第一區ハ堆肥三百貫ヲ單用シ第二區ハ第三區ト同量ノ大豆粕ノミヲ單用セリ本年ノ成績左ノ如シ

試驗區別	反當		米		全初年目ノ土地
	開墾第三年目ノ土地	開墾第二年目ノ土地	米	收量	
一、堆肥單用區	0.815	0.999	0.780	0.780	0.838
二、大豆粕單用區	1.598	1.556	1.113	0.733	0.733
三、堆肥大豆粕配合區	1.626	1.113	0.710	0.783	0.783
四、堆肥硫酸アンモニア配合區	1.752	0.762	0.762	0.736	0.736
五、堆肥石灰窒素配合區	1.948	1.012	0.762	0.999	0.999
六、堆肥 鹼粕配合區	1.846	1.012	0.762	1.003	1.003
七、堆肥大豆粕硫酸アンモニア配合區	1.515	0.680	0.680	0.680	0.680
試驗區別	大正三年	大正四年	大正五年	以上三年平均	

尙開墾初年ニ於ケル累年ノ成績ヲ舉クレハ左ノ如シ

二、大豆粕單用區	0.817	0.668	0.733	0.733
三、堆肥大豆粕配合區	1.133	1.009	0.783	0.979
四、堆肥アンモニア配合區	0.512	1.113	0.733	0.733
五、堆肥石灰窒素配合區	1.111	1.133	0.999	1.133
六、堆肥 鹼粕配合區	1.109	1.133	1.003	1.133
七、堆肥大豆粕硫酸アンモニア配合區	0.880	1.133	0.680	0.877

右ノ成績ニ依レバ本試驗地ノ如キ酸度強キ土地ノ開墾初年ニ於ケル肥料ハ相當量ノ堆肥ニ石灰窒素ヲ配合施用スルヲ得策トスルモノ、如シ

備考 當場ニ於テ普通稻田ニ於ケル石灰窒素ノ施用法ヲ研究スルニ插秧數日前乾田ノ状態ニ施用スルヲ可トスルノ結果ヲ示セルモ本試驗地ニアリテハ水持ノ關係上開墾後田地ヲ乾燥状態ニナスコト能ハサルカ爲メ止ムナク水田ノ状態ニ施肥セリ然ルニ尙叙上ノ成績ヲ得タルヲ以テ見レバ乾田ノ状態ニ於テ施用シ得ハ其効更ニ大ナルモノアルベシ

第三 石灰用量試驗

本試驗ハ本試驗地ノ如キ酸度強キ新開墾地ニ於ケル石灰ノ効力及其施用量ノ適度ヲ知

ラントスルニアリテ左記ノ區別ニ依リ試験セリ而シテ第二區及第三區ハ元肥及追肥ノ
二回ニ第四區ハ元肥及追肥二回ノ三回ニ分施セリ本年ノ成績左ノ如シ

試験區別	開墾第三年目ノ土地		開墾第二年目ノ土地		全收量	初年目ノ土地
	反	當	反	當		
一、石灰ヲ施用サズ	1,112	0,807	0,111	0,236	0,247	0,247
二、石灰六十貫施用	1,515	0,838	0,236	0,782	0,782	0,782
三、石灰百貫施用	1,167	0,809	0,236	0,782	0,782	0,782
四、石灰百五十貫施用	1,167	0,809	0,236	0,782	0,782	0,782

尙開墾初年ニ於ケル累年ノ成績ヲ舉クレバ左ノ如シ

試験區別	大正三年		大正四年		大正五年		以上三ヶ年平均
	反	當	反	當	反	當	
一、石灰ヲ施用セズ	0,807	0,807	0,111	0,236	0,236	0,236	0,236
二、石灰六十貫施用	0,199	0,807	0,111	0,782	0,782	0,782	0,782
三、石灰百貫施用	0,850	0,807	0,199	0,782	0,782	0,782	0,782
四、石灰百五十貫施用	0,635	0,807	0,199	0,782	0,782	0,782	0,782

右ノ成績ニ依レバ本開墾地ノ如キ酸度強キ土地ノ開墾初年ニアリテハ石灰ノ効力顯著

ニシテ反當百貫乃至百五十貫ヲ施用スルヲ可トスルモノ、如シ

備考 石灰ノ効力叙上ノ如シト雖モ從來ノ經驗ニ依レバ石灰ヲ元肥トシテ插秧間際ニ施用スルトキハ植傷甚ダシク爲メニ石灰ノ効力ヨリモ被害ノ爲メ減收ヲ招ク虞レアルヲ以テ可成插秧前ニ施ス石灰ノ分量ヲ少クシ追肥ニアリテモ數回ニ分施スルヲ得策トス

第四 肥料配合試験

本試験ハ酸度強キ開墾地ニ施スベキ肥料ノ配合法ヲ知ラントスルニアリテ左ノ區別ニ依リ試験セリ本年ノ成績左ノ如シ

試験區別	開墾第三年目ノ土地		開墾第二年目ノ土地		全收量	初年目ノ土地
	反	當	反	當		
一、酸性配合	0,215	0,215	0,215	0,215	0,215	0,215
二、全上石灰加用	0,624	0,883	0,883	0,883	0,883	0,883
三、盤基性配合	1,182	0,767	0,767	0,767	0,767	0,767

尙開墾初年ニ於ケル累年ノ成績ヲ舉クレバ左ノ如シ

試験區別	大正三年		大正四年		大正五年		以上三ヶ年平均
	反	當	反	當	反	當	
一、酸性配合	0,215	0,215	0,215	0,215	0,215	0,215	0,215

二、全上石灰加用	〇、九二五	〇、九二五	〇、九二五	〇、九二五
三、鹽基性配合	〇、九二五	〇、九二五	〇、九二五	〇、九二五

右ノ成績ニ依レバ各年區々ニシテ一定セザレドモ生育中ノ狀況ヨリ見レバ酸性配合ノ不良ナルコト明カニシテ概シテ鹽基性ノ配合ヲナシタルモノハ生育他區ニ比シ稍順調ナルヲ以テ鹽基性配合ニ尙適當ノ石灰ヲ加用スレバ更ニ成績佳良ナルベシ

第五 燒土試驗

本試驗ハ大正四年ヨリ施行セルモノニシテ新開墾地ニ於ケル燒土ノ効力ヲ知ラントスルモノニシテ開墾ニ由リ生シタル竹木ノ根ヲ材料トシ墾土ヲ燻燒シタルモノニシテ左ノ三區ニ別チテ試驗セリ

試驗區別	反當	立	米	新開地ノ土地
一、標準區(燒土ヲ行ハス)			〇、九五六	〇、九四七
二、燒土ヲ行ヒ石灰木灰ヲ施サズ			〇、五五一	一、一五九
三、燒土ヲ行ヒ石灰木灰ヲ施ス			一、九八七	一、二五三

尙開墾初年ニ於ケル累年成績ヲ舉グレバ左ノ如シ

試驗區別	大正四年	大正五年	以上二年平均
一、標準區(燒土ヲ行ハス)	一、一三七	〇、九七	一、〇七
二、燒土ヲ行ヒ石灰木灰ヲ施サズ	一、〇八九	一、一五	一、一〇
三、燒土ヲ行ヒ石灰木灰ヲ施ス	一、二五九	一、二五	一、二五

右ノ成績ニ依レバ開墾初年ニアリテハ燒土ノ効力少ナカラザレドモ燒土法ヲ行ヒタル爲メ石灰及木灰ノ施用ヲ怠レバ却テ收量ヲ減スルモノ、如シ

蘭草ノ部

第一 施肥回数試驗

本試驗ハ大正二年度ヨリ繼續施行セルモノニシテ其目的ハ施肥ノ回数ト蘭草ノ收量及品質トノ關係ヲ知ラントスルニアリテ左ノ四區ニ別チテ試驗セリ

一、一回施用 元肥ニ總量ノ二割四月一日三割五月二十日六割ヲ施用ス

二、二回施用區 元肥ニ總量ノ一割四月一日二割五月一日三割六月一日四割ヲ施用ス

三、三回施用區 元肥ニ總量ノ一割四月一日二割五月一日三割五月二十日一割二步六月五日二割八步ヲ施用ス

四六回施用區元肥ニ總量ノ一割四月一日一割五步四月二十日一割五步五月五日二割
 五月二十日一割二步六月五日二割八步ヲ施用ス
 以上ノ方法ニ依リ各區トモ硫酸アンモニア大豆粕過磷酸石灰草木灰ヲ以テ窒素十一貫年
 ニ依リ十二貫ヲ施用セルコトアリ磷酸加里各五貫ヲ施用シ試驗シタルニ本年ノ成績ハ
 總收量ニアリテハ五回施用區長蘭ノ收量ニアリテハ四回施用區長蘭一斤ノ價格ニアリ
 テハ三回施用區何レモ最モ佳良ニシテ成績區々ナレドモ毎年ノ成績ヲ通覽スレバ四回
 施用區ノ成績常ニ優良ナルヲ示セリ三ヶ年間ノ平均成績ヲ舉クレバ左ノ如シ

試驗區別	總收量	長蘭收量	收穫物總價額	長蘭一斤ノ價格
一、三回施用區	三二六、〇〇〇	一九三、〇〇〇	一七三、〇〇〇	一、二七五
二、四回施用區	三〇〇、〇〇〇	一〇〇、〇〇〇	一〇〇、〇〇〇	一、二五〇
三、五回施用區	三二七、六六七	一八九、三三三	一〇〇、〇〇〇	一、一九三
四、六回施用區	三二九、二〇〇	一九八、〇〇〇	一〇〇、〇〇〇	一、一七八

以上平均成績ニ依リ左ノ如ク結論セリ

結論

一、硫酸アンモニア及大豆粕ノ如キ人造肥料粕類ト併用セル場合ニアリテハ四回ニ分

六 施スルヲ適當トス

一、施肥回数ヲ多クセル場合ハ生育軟弱ニシテ倒伏シ易ク從テ品質ヲ惡變ス

注意 別ニ調査スル處ニ依レバ人造肥料ヲ多量ニ施用スル場合ニアリテハ特ニ回数ヲ

増加スルノ必要アレドモ強粘土地ニ粕類ヲ施用スル場合ニアリテハ三回ニ施用ス

ルヲ得策トスル場合アリ

第二 肥料施用法試驗

本試驗ハ蘭草ニ對シ最良ノ施肥法ヲ査定セントスルニアリテ三十七年ヨリ繼續施行セ
 シガ從來ノ成績ニ鑑ミ大正元年及ヒ大正三年ニ於テ試驗事項ニ改廢ヲ加ヘ左ノ區別ニ
 依リテ試驗セリ

- 一、總施肥量ノ一割ヲ元肥ニ二割ヲ四月一日三割ヲ五月一日四割ヲ六月一日ニ施用ス
- 二、總施肥量ノ一割ヲ元肥ニ二割ツ、ヲ四月一日及五月一日ニ五割ヲ六月一日ニ施用
 ス(大正三年ヨリ廢止ス)
- 三、總施肥量ノ一割ツ、ヲ元肥及四月一日ニ二割ヲ五月一日ニ六割ヲ六月一日ニ施用
 ス(大正三年ヨリ廢止ス)
- 四、總施肥量ノ三割ヲ元肥ニ一割ヲ四月一日二割ヲ五月一日四割ヲ六月一日ニ施用ス

五、總施肥量ノ二割ヲ元肥ニ一割ヲ四月一日三割ヲ五月一日四割ヲ六月一日ニ施用ス(大正元年ヨリ加フ)

六、總施肥量ノ二割ツ、ヲ元肥及四月一日五月一日四割ヲ六月一日施用ス
以上ノ區別ニ依リ各區トモ大豆粕過磷酸石灰葉灰ヲ用キ窒素十貫磷酸加里各五貫ヲ施用シ試験シタルニ本年乾莖總量最モ多キハ第四區ニシテ第五區之ニ亞キ長蘭ハ第六區最モ多ク第二區之ニ亞グリ
更ニ試験開始以來ノ平均成績ヲ舉グレバ左ノ如シ
三十七年ヨリ大正二年ニ至ル十ケ年間平均成績

試驗區別	乾蘭總收量	長蘭收量	收穫物總價額	長蘭一斤價
第一區(一二三四ノ割合ニ施用ス)	三二二、四二八	二〇〇、七四〇	一〇九、七八〇	一、二一〇
第二區(一二二五ノ割合ニ施用ス)	三二七、二二〇	一九六、四四〇	一〇八、九八〇	一、一九〇
第三區(一一二六ノ割合ニ施用ス)	三二〇、〇〇〇	一九五、〇〇〇	一〇五、七五〇	一、二〇〇
第四區(三一二四ノ割合ニ施用ス)	三三六、二五〇	一九六、六三〇	一〇〇、一〇一	一、一七一

大正元年ヨリ大正四年ニ至ル四ケ年間平均成績

試驗區別

試驗區別	乾蘭總收量	長蘭收量	收穫物總價額	長蘭一斤價
第一區(一二三四ノ割合ニ施用ス)	三二八、一〇〇	一八〇、〇〇〇	一〇五、九五九	一、一八〇
第二區(一二二四ノ割合ニ施用ス)	三三三、二二五	一七五、九〇〇	一〇七、七八〇	一、二二五
第三區(一二三四ノ割合ニ施用ス)	三三二、三〇〇	一七三、〇〇〇	一〇五、七三〇	一、一六八
第四區(一二二四ノ割合ニ施用ス)	三三六、二五〇	一七五、九〇〇	一〇四、八七四	一、一八八

以上平均成績ニ依リ左ノ如ク結論セリ

- 一、蘭草ノ肥料ヲ粕類ニテ四回ニ(元肥、四月一日、五月一日、六月一日ノ四回)分施スル場合ニアリテハ元肥ヲ多量ニ施用セルモノハ株張良好ニシテ乾蘭ノ總收量多ケレドモ伸長不良ニシテ長蘭ノ收量比較的少シ
- 二、止肥ニ總施肥量ノ四割以上ヲ施用スルモ刈取迄ニ全部吸收シ盡サバ、ルヲ以テ蘭ノ收量少キノミナラス跡作稻ノ出來過ヲ來タシ玄米ノ收量ヲモ減ス
- 三、以上二項ノ關係ニ依リ蘭草ノ肥料ハ元肥ヨリ四番肥ニ至ル迄順次其量ヲ遞増スルガ如ク施用スルヲ可トス
- 四、普通ノ場合ニアリテハ元肥ニ總量ノ一割二番肥ニ二割三番肥ニ三割四番肥ニ四割ヲ施スガ如ク遞増スルヲ適當トス

注意一、別ニ行ヘル試験ニ依ヨレバ元肥及四番肥ハ土質ニ依リ其一部若シクハ全部ヲ硫酸アンモニアノ如キ速効肥料ニテ施用スルヲ可トス

二元肥ニ硫酸アンモニアヲ施用スル場合ニアリテハ總窒素量ノ一割ヲ越ヘザルヲ安全トス

三、四月上旬及五月上旬ノ生育不良ナル場合ニアリテハ二番肥及三番肥ニ二三貫ノ硫酸アンモニアヲ施用シ三番肥ノ際出來過キノ狀況アル場合ニアリテハ大豆粕ノ一部ヲ菜種粕ノ如キモノニ代ヘテ施用シ可成肥料成分ヲ減セザルヲ可トス

第三 硫酸アンモニア施用法試験

本試験ハ從來ノ試験成績ニ基キ更ニ原肥及止肥ニ施用スベキ硫酸アンモニアノ施用法ヲ研究セントスルモノニシテ窒素ノ全量ヲ大豆粕及硫酸アンモニアニテ等分ニ施シ元肥ニ總窒素量ノ一割ニ番肥ニ二割三番肥ニ三割止肥ニ四割ノ割合ニ分施シ大正二年ヨリ繼續試験セリ試験ノ區別並ニ本年ノ成績左ノ如シ

試験區別	乾藺總收量	長藺收量	長藺一斤ノ價
一、標準區(元肥及止肥硫酸アンモニア二番肥三番肥大豆粕)	337,000	110,000	1,700

二、四番肥ニ施スベキ硫酸アンモニアヲ二回ニ分施ス	368,000	111,000	1,680
三、元肥及四番肥ニ施スベキ硫酸アンモニアノ一部ヲ二番肥及三番肥ニ施スベキ大豆粕ト代ヘテ施用ス	315,000	109,000	1,800
四、硫酸アンモニア及大豆粕ヲ元肥ヨリ止肥迄一二三四ノ割合ニ分施ス	377,000	110,000	1,670

第四 株間距離試験

本試験ハ藺草栽培上株間ノ大小ガ其生育收量並ニ品質ニ如何ナル影響ヲ及ホスヤヲ驗センガ爲メ大正三年ヨリ繼續施行セルモノニシテ昨年ハ株間狭キニ從テ收量多リシモカ本年ハ稍其趣ヲ異ニセリ即左表ノ如シ

試験區別	乾藺總收量	長藺收量	長藺一斤ノ價
株間 四寸植	110,000	19,500	1,700
全 四寸五分植	118,888	21,000	1,700
全 五寸植	110,667	19,000	1,700
全 五寸五分植	115,000	21,500	1,700
全 六寸植	110,000	19,500	1,700

第五 堆肥施用法試験

本試験ハ藺草ニ對スル堆肥ノ効力ヲ驗セントスルニアリテ大正三年ヨリ繼續試験セリ

本年ノ成績ハ前年ト同様堆肥ヲ施用セシモノハ常ニ穩健ナル發育ヲナシ就中元肥ノ際三百貫ヲ加用セシモノ最モ佳良ナル成績ヲ示セリ即チ左表ノ如シ

試 驗 區 別	乾 蘭 總 收 量	長 蘭 收 量	長 蘭 一 斤 ノ 價
一、堆肥五百貫元肥二番肥施用	五二七、〇〇〇	二〇二、五〇〇	一、八五〇
二、堆肥三百貫元肥加用	五六六、〇〇〇	二〇四、五〇〇	一、九〇〇
三、堆肥三百貫二番肥加用	五三五、〇〇〇	一九九、五〇〇	一、八八〇
四、藁八十貫元肥加用	五四五、〇〇〇	二一三、五〇〇	一、八五〇
五、標準區(堆肥ヲ施用セズ)	五四〇、〇〇〇	二一五、〇〇〇	一、八八〇

第六 苗仕立法試験

本試験ハ本年ノ新設ニシテ苗仕立法ト蘭草生育收量並ニ品質トノ關係ヲ知ラントスルニアリテ本圃ニアリテハ各同一ノ栽培法ヲ行ヒ苗仕立法ヲ二年畑苗仕立法一年畑苗仕立法一年畑仕立法及八月苗仕立法ノ四區ニ分チテ試験シタルニ中途故障ノ爲メ一年畑仕立法及一年畑一年八月苗仕立法ハ其收量ヲ見ルニ至ラサリシモ二年畑苗ハ八月苗ニ比シ長蘭ノ收量多キノ結果ヲ得タリ

第七 模範的施肥法應用試験

本試験ハ本場ニ於テ多年研究セル蘭草施肥法ニ關スル試験成績中最モ優良ト認ムベキ施肥法ヲ更ニ蘭草ノ生産地ニ應用試験シ其適否ヲ査定スルト共ニ一般當業者ニ之ガ模範ヲ示サントスルニアリテ四十二年ヨリ開始シ三年毎ニ土地ヲ變更シテ施行セリ本年ハ左記粘土粘質壤土、砂質壤土及礫質壤土ニ於テ次キノ施肥法ニ依リ試験セリ
一、粘土都窪郡早島町大字前湯及吉備郡庭瀬町大字庭瀬及粘質壤土御津郡芳田村大字西市

肥 料 名	總 量	元 肥	二番肥(四月二日)	三番肥(五月二日)	四番肥(六月二日)
大豆 粕	八五、七一四	—	三四、二八六	—	—
硫酸アンモニア	二九、三一一	五、八六二	—	—	—
過磷酸石灰(二十成分)	一八、九四九	一、八九四	三、七八七	—	—
草木 灰	八一、〇三三	八、一〇三	一、八二〇	—	—
計	窒素十二貫 磷酸加里各五貫	—	—	—	—

二深キ砂質壤土(兒島郡福田村)

肥 料 名	總 量	元 肥	二番肥(四月二日)	三番肥(五月二日)	四番肥(六月二日)
大豆 粕	六二、八五七	—	三一、四二八	—	—

硫酸アンモニア	二六、八六九	五、三七四	二一、四九五
菜種粕	二二、一三三	—	二二、一三三
過磷酸石灰(二十成分)	一九、一七五	一、九一八	七、六七〇
草木灰	八三、五三三	八、三五三	二五、〇六〇
計	窒素十一貫磷酸加里各五貫	一六、七〇七	三三、四一三

三、砂質壤土(吉備郡日近村大字日近及礫質壤土(吉備郡足守町大字足守))

肥料名	總量	元肥	二番肥(四月二日)	三番肥(五月二日)	四番肥(六月二日)
大豆粕	五五、〇〇〇	—	三、四二八	—	—
硫酸アンモニア	二六、八六九	—	—	—	—
菜種粕	三三、一九九	—	—	—	—
過磷酸石灰(二十成分)	一九、一七五	一、九一八	—	—	—
草木灰	八三、五三三	八、三五三	一六、七〇七	二五、〇六〇	三三、四一三
計	窒素十一貫磷酸加里各五貫	八、三五三	一六、七〇七	二五、〇六〇	三三、四一三

備考 兒島郡福田村、吉備郡日近村、全足守町ニテハ以上ノ肥料ノ外元肥トシテ反當二百五十貫乃至三百貫ノ堆肥ヲ施用セリ

株間及一株ノ苗本數 一採ノ苗本數ハ六七本トシ粘土地粘質壤土地ハ五寸正方形植其他ハ五寸五分正方形植トス
食鹽ノ施用 五月二十日前後ニ於テ何レモ反當三貫内外ノ食鹽ヲ施用セリ
右ノ方法ニ依リ栽培セシ結果本年各地ノ成績左表ノ如シ

試驗地名	反當乾藎總量	長藎收量	長藎一斤ノ價
都窪郡早島町	三、七九七〇〇	二、六九七〇〇	一、八五〇
吉備郡庭瀬町	三、八九一〇〇	二、一八、二〇〇	一、七八〇
御津郡芳田村	三、三二、三二五	二、一三、〇〇〇	一、七〇〇
兒島郡福田村	三、三六、〇〇〇	二、一八、二八〇	一、七五〇
吉備郡日近村	三、五〇、九〇〇	二、四六、八二〇	一、八二〇
吉備郡足守町	三、四三、七二四	二、四六、六一七	一、六〇〇

本年藎草生育期中ノ氣候ハ冬季ノ溫度比較的高ク初期ノ發育最モ佳良ニシテ却テ繁茂ニ過キ五月以降ノ伸長充分ナラザリシノミナラズ止肥ノ効力少カリシ爲メ豫期ノ收穫ヲ擧クルニ至ラザリシモ早島町ノ如キ重粘ナル土地及日近村ノ如キ表土深キ土地ニアリテハ肥料ノ保蓄力強ク本施肥法ニ依リ能ク適合シ相當ノ收量ヲ擧グルヲ得タリ然レ

ドモ庭瀬町芳田村ノ如キハ四月中旬ニ於テ肥切レノ狀ヲ呈シ福田村ノ如キハ枯莖多ク三月下旬迄ノ發育佳良ナリシモノ程收量少キガ如キ傾向アリ茲ヲ以テ見レバ表土淺クシテ軟カナル粘土地又ハ砂質壤土ノ如キ土地ニアリテハ元肥ニ施スベキ窒素質肥料ハ速効性ノ硫酸アンモニアノミヲ施用スルハ蓋シ穩當ナラザルベク土質輕鬆ナルニ從ヒテ一部大豆粕ヲ配合シ礫質ノ土壤ニアリテハ絶對ニ粕類ノミヲ用ユルヲ可トスルノ感アリ然レドモ從來本設計ニ依リ大体ニ於テ好成绩ヲ得ツ、アリシ事實ニ對照セバ聊カ疑問ノ点ナキニアラズ更ニ慎重ノ研究ヲ要スベシ

薄荷ノ部

本試験ハ本年度ノ新設ニシテ都窪郡大高村大字四十瀬ニ於テ委託ニ附セリ

第一 三要素適量試験

本試験ノ目的ハ薄荷栽培上肥料三要素ノ適量ヲ知ラントスルニアリテ反當堆肥三百貫ノ外窒素ハ硫酸アンモニア及醃粕ヲ以テ各半量ツ、ヲ施シ磷酸ハ過磷酸石灰加里ハ木灰ヲ用キタリ本年ノ成績左ノ如シ
但シ堆肥ノ窒素ハ硫酸アンモニアノ窒素百ニ對シ三十磷酸ハ有効磷酸百ニ對シ六十

五加里ハ無機性ノ加里百ニ對シ二十ノ効力アルモノト見做シテ計算セリ

試験區別	反當乾莖收量	全上取卸油量
一、窒素二貫五百匁	一九四、一〇〇	二、七〇〇
二、全 三貫五百匁	一九二、六〇〇	二、九五〇
三、全 四貫五百匁	二〇二、五〇〇	三、〇〇〇
四、磷酸一貫五百匁	一九九、八〇〇	三、一五〇
五、全 二貫一匁	二〇一、〇〇〇	三、一八〇
六、全 二貫五百匁	一九八、三〇〇	三、〇〇〇
七、加里一貫五百匁	一九四、七〇〇	二、九一〇
八、全 二貫 匁	二〇一、九〇〇	三、〇六〇
九、全 二貫五百匁	二一七、八〇〇	三、三〇〇

第二 肥料配合ニ關スル試験

本試験ノ目的ハ薄荷ニ對シ各種ニ配合シタル肥料ヲ施シ各區共三要素量ヲ同一ナラシメ以テ薄荷ノ品質收量ニ如何ナル關係ヲ及ホスヤヲ驗セントスルニアリテ本年成績左ノ如シ

試驗區別	反當乾莖收量	全上取卸油量
一、菜種	一七八五〇〇	二、三四〇
二、菜種粕硫酸アンモニア配合區	一七七、六〇〇	二、七〇〇
三、菜種粕智利硝石配合區	一九二、三〇〇	二、八五〇
四、鰵粕硫酸アンモニア配合區	一九五、三〇〇	二、八五〇
五、鰵粕智利硝石配合區	二〇〇、四〇〇	二、八五〇
六、大豆粕硫酸アンモニア配合區	二一八、一〇〇	三、〇〇〇
七、大豆粕智利硝石配合區	二一五、四〇〇	二、八五〇

第三 人糞尿施用期試驗

本試驗ハ人糞尿ノ施用期ト薄荷ノ生育トノ關係ヲ知ラントスルニアリテ本年ノ成績ハ左ノ如シ

試驗區別	反當乾莖收量	全上取卸油量
一、標準	二〇七、〇〇〇	二、九四〇
二、人糞尿元肥二番肥各二十五貫	二〇四、三〇〇	二、九四〇
三、三番肥五十貫四番肥百貫施用	二〇一、六〇〇	二、九一〇
四、人糞尿元肥二番肥三番各四十貫四番肥八十貫施用	二〇一、六〇〇	二、九一〇

茶樹ノ部

茶樹ニ關スル試驗ハ英田郡巨勢村及全郡倉敷町ニ於テ委託ニ附セリ

第一 播種法對剪枝法試驗

本試驗ハ茶樹栽培上如何ナル播種法及剪枝法カ最モ適當ナルヤヲ査定セントスルニアリテ左記四區ニ別チ四十二年ヨリ繼續試驗シ大正三年ヨリ收穫ヲ開始セリ本年ノ收量並ニ收穫開始以來三ヶ年間ノ平均收量左ノ如シ

試驗區別	大正五年反當生葉收量	三ヶ年平均生葉收量
一、株播トナシ半球形ニ剪枝ス	三五、一六〇	二一、一六〇
二、輪播トナシ半球形ニ剪枝ス	三八、五二〇	二一、八四〇
三、條播トナシ蒲鉾形ニ剪枝ス	三五、一六〇	二二、一二〇
四、二條播トナシ蒲鉾形ニ剪枝ス	四三、二〇〇	二五、六六〇

第二 仕立法試驗

本試驗ハ英田郡地方ニ栽培セル舊株ノ茶樹ヲ仕立換ユルニ當リ如何ナル方法ニ依ルヲ最モ適當トスルヤヲ査定セントスルニアリテ從來法高刈仕立法基刈仕立法ノ三區ニ別

チ四十二年ヨリ繼續試験シタルニ試験開始當時ニアリテハ從來法ニ依リ仕立テタルモノ、收量最モ多カリシモ大正三年頃ヨリ仕立換ヲ行ヒタルモノ漸次勢力旺盛トナリ收量多ク本年ハ基刈仕立法ニ依ルモノ最モ優位ニアリ即チ左表ノ如シ

試験區別	大正五年 反當生葉收量					收葉開始以來五ヶ 年間平均生葉收量				
	一、從來法	二、高刈法	三、基刈法	四、	五、	一、從來法	二、高刈法	三、基刈法	四、	五、
一、從來法	九三、七五〇	一〇〇、九五〇	一〇二、八〇〇			九六、八一〇	九七、七四〇	一〇三、五六〇		
二、高刈法										
三、基刈法										

第三 剪枝法試験

本試験ハ英田郡地方ニ於ケル舊株ノ茶樹ニ對シ如何ナル剪枝法ガ最モ適當ナルヤヲ攻究セントスルニアリテ六區ニ別チテ四十二年ヨリ試験ヲ開始シ四十三年ヨリ收穫ヲ始メタリ本試験ノ累年成績左ノ如シ

試験區別	反當生葉收量					以上七ヶ年平均				
	四十二年	四十三年	四十四年	四十五年	四十六年	四十二年	四十三年	四十四年	四十五年	四十六年
從來法	九九、〇〇〇	一二六、〇〇〇	一一四、〇〇〇	一一一、〇〇〇	一一五、〇〇〇	一一三、〇〇〇	一二一、〇〇〇	一二九、〇〇〇	一三九、〇〇〇	一四七、〇〇〇
半球形剪枝法	八五、〇〇〇	一二三、〇〇〇	一〇五、〇〇〇	一〇九、〇〇〇	一一八、〇〇〇	一一七、〇〇〇	一二七、〇〇〇	一二九、〇〇〇	一三九、〇〇〇	一四七、〇〇〇
蒲鉾形剪枝法	五八、〇〇〇	一二七、〇〇〇	一〇〇、〇〇〇	八八、〇〇〇	一〇一、〇〇〇	一一一、〇〇〇	一二一、〇〇〇	一二九、〇〇〇	一三九、〇〇〇	一四七、〇〇〇

剪枝ニ鎌ヲ用ユ	平均		平均		平均		平均		平均	
	從來法	半球形剪枝法	蒲鉾形剪枝法	從來法	半球形剪枝法	蒲鉾形剪枝法	從來法	半球形剪枝法	蒲鉾形剪枝法	從來法
平均	八一、三〇〇	七一、〇〇〇	八四、〇〇〇	一一一、〇〇〇	一一一、〇〇〇	一一一、〇〇〇	一一一、〇〇〇	一一一、〇〇〇	一一一、〇〇〇	一一一、〇〇〇
平均	一一一、〇〇〇	一一一、〇〇〇	一一一、〇〇〇	一一一、〇〇〇	一一一、〇〇〇	一一一、〇〇〇	一一一、〇〇〇	一一一、〇〇〇	一一一、〇〇〇	一一一、〇〇〇
平均	一一一、〇〇〇	一一一、〇〇〇	一一一、〇〇〇	一一一、〇〇〇	一一一、〇〇〇	一一一、〇〇〇	一一一、〇〇〇	一一一、〇〇〇	一一一、〇〇〇	一一一、〇〇〇

以上累年並ニ平均成績ニ依リ左ノ如ク結論セリ

結論

- 一、剪枝ハ木缺ヲ以テスルモ鎌ヲ使用スルモ收量ニ大ナル影響ヲ及ボスコトナキモ鎌ヲ使用スル場合ニアリテハ多少深刈ニ陥リ易キヲ以テ漸次木缺ニ改良スルヲ得策トス
- 二、木缺使用ノ當初ハ枝ヲ一方ニ押シ寄スルノ氣味アリテ刈込後ノ樹形一方ニ傾キ易キヲ以テ銳利ナルモノヲ用キ使用ニ熟練スルヲ要ス
- 三、剪枝ハ裾張ヲ佳良ナラシムルガ如ク注意セバ其形狀ノ如何ニ依リ收量ニ大ナル影響ヲ及サズ

第四 肥料試験

本試験ハ英田郡地方ニ於ケル舊株ノ茶樹ニ對シ如何ナル肥料ガ最モ經濟的ニシテ有効

ナルヤヲ驗知セントスルニアリテ四十二年ヨリ繼續試驗セリ試驗ノ區別左ノ如シ

試驗區別

反當施肥量

全上所含三要素量

一、柴草區

柴草二百貫
堆肥二百貫
窒素二貫三百四十匁
磷酸(有効)六百六十匁
加里一貫九百十匁

備考 本區ハ地方在來ノ施肥量中比較的多量ニ施用セルモノヲ取リテ本試驗ノ比較標準トナセリ

二、人糞尿區

柴草二百貫
堆肥二百貫
人糞尿四百貫
過磷酸石灰四貫二百六匁
窒素三貫五百匁
磷酸一貫五百匁
加里二貫五百匁

三、硫酸アンモニア區

堆肥二百貫
硫酸アンモニア八貫百卅一匁
過磷酸石灰五貫三百七十九匁
窒素三貫五百匁
磷酸一貫五百匁
加里二貫五百匁

柴草二百貫
草木灰八貫八百匁

四、大豆粕區

堆肥二百貫
大豆粕二十三貫八百三匁
過磷酸石灰四貫八十七匁
窒素三貫五百匁
磷酸一貫五百匁
加里二貫五百匁

以上ノ各肥料ヲ用キ栽培シタル累年成績ヲ示セハ左ノ如シ

試驗區別	反當生葉收量					以上七ヶ年平均	人糞尿區ノ收量ヲ百トセル收量百分率
	四十二年	四十四年	元年	二年	三年		
柴草區	四〇、二〇〇	五八、二〇〇	五九、七五〇	七〇、八〇〇	九三、八〇〇	六八、四〇〇	六七、五
人糞尿區	七〇、一〇〇	六九、六〇〇	八三、四〇〇	九九、六〇〇	一三二、六〇〇	一一一、八〇〇	一〇〇、〇
硫酸アンモニア區	七六、二〇〇	八四、六〇〇	九〇、四八五	九四、八〇〇	一三八、六〇〇	一〇八、六〇〇	一〇〇、〇
大豆粕區	八二、八〇〇	八七、六〇〇	八〇、八四〇	九九、六〇〇	一一七、三二〇	一一一、六〇〇	一〇〇、〇

以上ノ成績ニ依リ左ノ如ク結論セリ

結論

- 一、從來茶樹ニ施用セル柴草ノ一部ヲ人造肥料粕類若シクハ人糞尿ノ類ニ代ヘ尙反當窒素約一貫匁ヲ増施セハ五割内外茶芽ノ收量ヲ増加ス
- 二、茶樹ニ對スル肥料トシテ硫酸アンモニア大豆粕及人糞尿ハ何レモ其効力大差ナキヲ

以テ主トシテ人糞尿ヲ施用シ其不足ハ比較的安價ナル大豆粕ヲ以テ補給スルヲ得策トス

第五 茶園處理法試驗

本試驗ハ英田郡地方ノ如キ傾斜急ナル山畑ニ於テ栽培セル舊株ノ茶樹ニ對シ最モ適當ナル茶園ノ處理法ヲ研究シ以テ茶樹改良ノ資ニ供セントスルニアリテ舊株ノ茶樹ニ就キ大正五年春ヨリ左ノ區別ニ依リ試驗セリ本年ハ茶園ノ整理ヲ行ヒタルノミテ未タ收量ヲ調査スルニ至ラズ

試驗區別

- 一、在來 法 (傾斜地ニ栽植セル儘別ニ整理ヲ加ヘズ)
- 二、段畠ニ整理ス (在來ノ傾斜地ヲ整理シ茶樹ヲ段ノ中央ニアラシムルガ如ク段畠ニ整理ス)

第六 肥料増施ト經濟トノ關係試驗

本試驗ハ從來英田郡地方ニ於テ栽培セル舊株ノ茶樹ニ對シ肥料ヲ増施シ經濟上ノ得失ヲ驗セントスルニアリテ傾斜地ニ其儘栽植セル舊茶園ヲ段畠ニ整理シテ試驗ニ供セリ而シテ本試驗ハ大正五年寒肥ヨリ左記區別ニ依リテ試驗ヲ開始セシノミニテ未ダ收量ヲ調査スルニ至ラズ

試驗區別

- 一、在來 肥料
- 二、窒素一貫五百匁加用
- 三、窒素二貫五百匁加用

煙草ノ部

第一 煙草模範作

本模範作ハ阿哲郡草間村ニ於テ委託試驗ノ結果優良ト認ムル諸種ノ事項ヲ綜合シ本試驗地ノ如ク瘠薄ニシテ早害多キ土地ニ對スル應用試驗ヲ行ヒ其適否ヲ査定スルト同時ニ一般ニ之カ模範ヲ示サントスルニアリ而シテ其耕種法中一般ト異ナレル主ナル點ヲ擧クレバ左ノ如シ

- 一、苗床ヲ揚床トナシタルコト
- 二、苗床ノ肥料ニ注意シタルコト
- 三、本圃ノ肥料ヲ左記ノ如ク増施シタルコト

肥料	名	反	當	總	量	全	元	肥	全	追	肥
----	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---

堆肥	100,000	100,000	100,000
人糞尿	100,000	100,000	100,000
大豆粕	10,000	6,000	4,000
菜種粕	10,000	4,000	6,000
硫酸アンモニア	6,000	4,000	2,000
過磷酸石灰	7,000	7,000	7,000
草木灰	10,000	7,000	10,000

計 窒素四貫百二十八匁 磷酸二貫三百六十匁 加里四貫十一匁

四、移植期ヲ早メ五月中旬トナシタルコト
 五、旱害ヲ豫防スル爲メ根元ニ麥桿ヲ覆ヒ中耕土寄ノ際ハ搔キ除キ作業結了後再ビ被覆セシコト

以上ノ如ク栽培ニ注意シタル結果一反歩當ノ收量及收支計算ノ比較左ノ如シ
 一、收量表

區別	模範	普通
收量	賠償金額	賠償金額
作	一貫多價額	一貫多價額

土葉	1,133	0,640	0,200	1,133	0,251	0,880
中葉	2,411	2,341	0,942	2,089	1,733	0,830
本葉	15,900	15,912	1,001	11,972	10,836	0,905
天葉	3,305	15,513	0,670	0,217	5,111	0,170
合計	47,753	44,406	2,813	41,433	33,921	0,826

二、收支計算

區別	模範	普通
苗床肥料代	1,719	1,719
本圃肥料代	14,649	8,732
人夫賃	17,266	17,266
合計	33,634	27,717
收入(賠償金)	43,770	33,921
差引粗收益	10,136	6,204

粟ノ部

第一 試作

本試作ハ本縣ニ於ケル粟栽培ノ適否ヲ知ランガ爲メ本年ヨリ新タニ施行セルモノニシテ採收セル阿片ヲ其筋ニ納付セシ結果左ノ如シ

- 一、反當阿片收量 二百五十匁
 - 二、百分中モルヒネ含量 一三・〇八
 - 三、反當賠償金額 二十七圓五十錢
- 外ニ粟粟ノ實五斗四升(一升二十五錢)十三圓五十錢

園藝部

蔬菜ノ部

春播蔬菜

第一 馬鈴薯品種試験

本試験ハ前年來繼續施行セルモノニシテ本年新タニ早生種三種ヲ加ヘタリ其成績左ノ如シ

品名	總收量	上薯重量	屑薯重量
一、長崎赤	三九七、二〇〇	三六七、二〇〇	三〇、〇〇〇
二、アーリー、ローズ	三三〇、七〇〇	三〇一、三〇〇	二九、四〇〇
三、アーリー、ビュートイー	三三三、〇〇〇	二九五、二〇〇	三八、八〇〇
四、アーリー、サラブレッド	三〇〇、〇〇〇	二八四、〇〇〇	一六、〇〇〇
五、長崎一號	三三一、〇〇〇	三三三、〇〇〇	三六、〇〇〇
六、ノーザン、スター	一〇四、〇〇〇	一五九、二〇〇	五五、二〇〇

七、ユ ー リ カ	三六〇、〇〇〇	三五六、〇〇〇	二四〇、〇〇〇
八、サー、ウオーターラレー	二二六、〇〇〇	一九二、〇〇〇	二四、〇〇〇
九、長 崎 十 一 号	二八七、六〇〇	二四二、〇〇〇	四三、二〇〇
一〇、ホワイト、シテイー	四八九、六〇〇	四三三、六〇〇	三六、〇〇〇
二、相 澤 一 号	五四九、六〇〇	五〇一、六〇〇	四八、〇〇〇
三、メ ー、ク キ ー ン	八〇二、八〇〇	七五三、六〇〇	四九、二〇〇
三、ウキンゾー、キヤツスル	四一〇、四〇〇	三六七、二〇〇	四三、二〇〇

右ノ中相澤一号、「メー、クキーン」ニウキンゾー、キヤツスル」ノ三種ハ本年新タニ北海道ヨリ移入シタルモノニシテ莖葉ノ發育頗ル旺盛收量亦多ク就中「メー、クキーン」ノ如キハ拔群ノ成績ヲ現ハセルモ斯卡ル現象ハ從來寒冷ノ地方ヨリ種薯ヲ移入セル場合ニ於テ常見ル所ナルヲ以テ更ニ連續栽培スルコト數年ヲ經ルニアラサレバ眞ニ其良否ヲ判定シ難シ而シテ從來繼續栽培セル品種中ニアリテハ「ホワイト、シテイー」ノ收量多ク品質亦良好ナルコト既往ノ成績ニ異ナラス

第二 馬鈴薯肥料試驗

本試驗ハ前年ニ繼續施行セルモノニシテ肥料用量ノ多少ニヨリ馬鈴薯ノ收量ニ如何ナ

試 驗 區 別	總 收 量	上 薯 重 量	屑 薯 重 量
一、本場普通肥料	三一九、二〇〇	二八一、五〇〇	三七、八〇〇
二、二 割 増	三八四、四〇〇	三三〇、三〇〇	五三、一〇〇
三、四 割 増	三二五、〇〇〇	二八五、六〇〇	三九、四〇〇
四、六 割 増	三〇九、五〇〇	二七一、三〇〇	三八、二〇〇
五、八 割 増	三七八、〇〇〇	三三三、〇〇〇	四五、〇〇〇
六、倍 量	四一五、八〇〇	三七五、二〇〇	四〇、六〇〇

第三 茄子品種改良試驗

本試驗ハ前年ヨリ繼續施行セルモノニシテ曾テ施行セル茄子品種試驗ニ於テ本縣産中長茄子ハ收量特ニ拔群ナルモ單ニ中長ト稱スルモノ、中ニハ莖葉果實ノ形態性質等一様ナラザルモノアリ依テ外觀ノ相違、稍顯著ナルモノヲ選別栽培シテ之カ優劣ヲ比較シ以テ本種ノ改良ヲ圖ラントスルモノニシテ本年ノ成績ハ左ノ如クナリキ

區別 收量

- 一、山形中長 一〇三二、二四〇
- 二、田味中長 一四二六、〇九六
- 三、本場中長 一五四二、三〇八
- 四、岡山中長 一三五九、四五六
- 五、肩太中長 一二七八、五三六

摘要

莖細シテ能ク分岐シ直上性ヲ有ス葉ハ細長果ハ長卵形ナリ花ノ着生稍早シ
 莖能ク開張分岐シ細細ナリ葉ハ細長果ハ卵圓形チナス花ノ着生前種ト共ニ稍早シ
 莖ハ直上性ヲ有スルモ山形中長ノ如ク甚シカラス枝チ分ツテ亦少ナク且細細ナラス葉潤大果ハ短棍棒狀チ呈ス
 莖葉枝極ノ状態本場中長ニ類スルモ枝稍開張ス
 莖強剛葉最潤大ニシテ枝ノ分岐少ナシ果ハ殆ト同筒形ニ近ク最も晩生ナリ

更ニ大正二年以降四ヶ年ノ成績ヲ舉グレバ左ノ如シ

品 種 名	大正二年 收 量					四ヶ年平均 一個平均 重量
	大正二年	全 三年	全 四年	全 五年	收 量	
山形中長	八二〇、五四七	一五八、〇九〇	一一九、三三〇	一〇三二、二四〇	一一二、五二七	一七、一
田味中長	九六九、七八九	一七六九、一八〇	一三八四、一一〇	一四二六、〇九六	一三八七、二九四	二一、六
本場中長	一〇九一、一一一	一六九八、五三〇	一八二六、六三〇	一五四二、三〇八	一五三五、一八三	二三、七
岡山中長	一〇〇一、一〇〇	一六八六、〇一〇	一七一八、〇一〇	一三五九、四五六	一四四一、一四七	二八、〇
肩太中長	一一一九、六八一	一三七五、一五〇	一六八八、四一〇	一二七八、五三六	一三六七、九四二	二六、三

右ノ成績ニヨレハ本場中長ハ其收量常ニ他種ニ勝リ其品質亦別ニ遜色ヲ認メス故ニ從來選出セル中長中ニアリテハ最も良系ノモノナリト雖モ強テ缺點ヲ指摘スレバ果ノ呈

色餘リ濃厚ナラサルコト果ノ先端尖リテ形狀不良ナルコト等ニシテ次年度ヨリハ専ラ本種ニ付之等諸點ノ改良ニ着手セントス

第四 茄子肥料試験

本試験モ前年來繼續施行セルモノニシテ明治四十一年ヨリ四ヶ年間繼續施行セシ茄子肥料試験ニ於テ本場普通肥料堆肥二百貫人糞尿六百貫菜種粕十五貫木灰十貫以外ニ窒素ハ一貫内外ヲ磷酸ハ一貫乃至二貫ヲ單獨ニ加用シタルモノ何レモ成績良好ニシテ加里ハ特ニ加用ノ必要ヲ認メサリキ依テ右ノ成績ニ基キ更ニ窒素及磷酸ヲ併用スルトキハ其收量ニ如何ナル影響ヲ及ボスヤヲ檢センカ爲メ大正元年以來普通肥料窒素一貫加用磷酸一貫加用磷酸二貫加用窒素一貫併用窒素一貫磷酸二貫併用ノ六區ヲ設ケテ試験セシニ本年ノ成績ハ左ノ如クナリキ

試驗區別	收 量	一個平均重量
一、普通肥料	一一七八、八四八	二六、七
二、窒素一貫加用	一二六五、七五二	二七、六
三、磷酸一貫加用	一五一三、九五二	二七、二
四、磷酸二貫加用	一四九七、二九二	二六、二

五、窒素一貫加用 一五八五、四二〇
 六、窒素一貫加用 一四九八、二四四
 更ニ大正元年以降五ヶ年ノ成績ヲ舉クレハ左ノ如シ

試驗區別

試驗區別	大正元年					五ヶ年平均
	收	一	二	三	四	
一、普通肥料	一六六一、七〇〇	九二九、二〇七	一六四四、三八〇	二〇九四、四七〇	一七七八、八四八	一四〇五、七二一
二、窒素一貫加用	一六〇九、七〇〇	一〇七五、七三三	一四一一、五三〇	二〇五〇、九三〇	一三六五、七五二	一四八二、七二七
三、磷酸一貫加用	一五五八、八〇〇	一〇六四、九二九	一四三四、四四〇	一九八二、八二〇	一五一三、九五三	一五一〇、九八八
四、磷酸二貫加用	一七五三、四〇〇	一六二二、九八〇	一三九六、九二〇	二〇〇九、一四〇	一四七九、二九二	一五六三、九四六
五、窒素一貫加用	一七八〇、七〇〇	一一二二、六四四	一七一、二二〇	一九一四、一〇〇	一五八五、四二〇	一六四〇、七九九
六、窒素二貫加用	一七六二、七〇〇	一一四一、二二二	一六七八、八一〇	一九八四、四三〇	一四九八、二四四	一六三三、〇八一

右五ヶ年ノ平均成績ニヨレバ窒素及磷酸ヲ併用セルモノハ窒素及磷酸ヲ單獨加用セルモノニ比シ更ニ收量ヲ増加シ就中普通肥料ニ窒素磷酸各一貫宛ヲ併用シタルモノ(第五區)ノ成績最モ良好ナリ更ニ又經濟上ヨリ各區ノ優劣ヲ査定センガ爲各區ノ賣上見積金高年々本場ニ於テ販賣セル時價ヲ標準トシ之レ岡山市場ノ時價ヲ斟酌シテ各旬日別ニ算出シタリヨリ肥料代ヲ控除セル五ヶ年平均殘高ヲ示セハ左ノ如シ

試驗區別

試驗區別	賣上見積金高ヨリ肥料代ヲ控除セル五ヶ年平均殘高				
	一	二	三	四	五
一、普通肥料	九七、七四二	九六、六四九	一〇二、七八四	一〇四、二〇八	一〇七、七六九
二、窒素一貫加用	九六、六四九	一〇二、七八四	一〇四、二〇八	一〇七、七六九	一〇六、九四九
三、磷酸一貫加用	九六、六四九	一〇二、七八四	一〇四、二〇八	一〇七、七六九	一〇六、九四九
四、磷酸二貫加用	九六、六四九	一〇二、七八四	一〇四、二〇八	一〇七、七六九	一〇六、九四九
五、窒素一貫加用	九六、六四九	一〇二、七八四	一〇四、二〇八	一〇七、七六九	一〇六、九四九
六、窒素二貫加用	九六、六四九	一〇二、七八四	一〇四、二〇八	一〇七、七六九	一〇六、九四九

前表ニヨレハ賣上見積金高ヨリ肥料代ヲ差引キタル殘高ニ於テモ窒素磷酸各一貫ヲ併用セル第五區ノ成績第一位ニアリ以上ノ成績ニヨリ左ノ如ク結論スルヲ得ベシ

一、茄子ハ多量ノ窒素肥料ヲ要スルモノニシテ之カ經濟的施用量ハ反當六貫五百匁内外ナリ

二、茄子ハ磷酸分ヲ要スルコト窒素ノ如ク大ナラスト雖モ普通ニ施用セラル、堆肥人糞尿菜種粕ノ如キモノ、ミニテハ幾分不足ノ感アリ故ニ反當五貫乃至十貫ノ過磷酸石灰ヲ加用シ磷酸分ノ反當用量ヲ二貫五百匁乃至三貫匁ニ達セシムベシ

三、茄子ニ對スル加里肥料ノ効果ハ窒素及磷酸ノ如ク顯著ナラズト雖モ立枯病青枯病

第五 菜豆品種試験

豫防ノ目的ヲ以テ植付ノ際茄ノ根元ニ一握宛ノ草木灰ヲ施用スルヲ可トス
本試験ハ前年ヨリ繼續施行セルモノニシテ其成績左ノ如クナリキ

品 種 名	軟莢收量	採收期	摘 要
一、カ ナ	207,890	自六、〇七 至七、二四	矮性 綠莢 長大扁平
二、エキストラ、アーリー、ジン	232,390	自六、〇七 至七、二四	全 長大扁平硬化早シ
三、德 島 三 度	117,040	自六、〇七 至七、二四	全 長扁平
四、琉 珀	315,690	自六、〇七 至七、二四	全 長扁平
五、皇 帝	241,910	自六、〇七 至七、二四	全 稍短大扁平便化早シ
六、ノアール、ド、ベルデーク	260,890	自六、〇七 至七、二四	全 狭小扁平
七、アール、ロン、フラデオレ	223,550	自六、〇七 至七、二四	全 狭長扁平
八、ナール、バリヂアン	338,640	自六、〇七 至七、二四	全 狭長暗紫斑アリ纖維多ク外觀品質共ニ不良
九、ルステイーク、ドートム甲	391,000	自六、〇七 至七、二四	全 稍短小扁平便化早シ
〇、ルステイーク、ドートム乙	275,400	自六、〇七 至七、二四	全 稍短小稍圓筒狀便化早シ
二、スイス、プラン、リニョ	243,780	自六、〇七 至七、二四	全 狭小扁平

第六 葱品種試験

本試験ハ本年ノ新設ニシテ其成績左ノ如クナリキ

品 種 名	收 量	摘 要
一、在 來 種	1044,000	全 綠莢 短小筒狀
二、全	356,320	全 蔓性 綠莢 短大扁平品質最良
三、島 根 縣 産 鶯	153,680	全 蔓性 綠莢 短大扁平品質最良
四、臺 灣 大 莢	191,930	全 蔓性 綠莢 甚長大圓筒狀
五、ケンタツキ、ウオンダー	306,000	全 蔓性 綠莢 長大扁平
六、黄 金 帝 王	359,380	全 蔓性 綠莢 短大扁平品質良
七、辻 村 号	229,840	全 蔓性 綠莢 短小筒狀
八、三、ボレー、ナートン、ドレ	211,470	全 黃莢 短小圓筒狀品質良
九、ボーレ、ナートン、デイゴアン	323,180	全 黃莢 狭長圓筒狀彎曲甚シ
一〇、カナダ變種 二ノ二	479,000	全 綠莢 長大扁平
一一、全	341,700	全 綠莢 長大扁平
一二、マーケット、ワックス變種 二ノ六	335,880	全 黃莢 稍圓筒狀
一三、全	356,320	全 蔓性 綠莢 短大扁平品質最良
一四、島 根 縣 産 鶯	153,680	全 蔓性 綠莢 短大扁平品質最良
一五、臺 灣 大 莢	191,930	全 蔓性 綠莢 甚長大圓筒狀
一六、ケンタツキ、ウオンダー	306,000	全 蔓性 綠莢 長大扁平
一七、黄 金 帝 王	359,380	全 蔓性 綠莢 短大扁平品質良
一八、辻 村 号	229,840	全 蔓性 綠莢 短小筒狀

二千住葱	九一八、〇〇〇
三根深白太葱	七九九、二〇〇
四、札 幌 百、目葱	五二八、〇〇〇
五、九 條 六 葱	九五六、四〇〇
六、下 仁 田 葱	三三〇、〇〇〇

秋播蔬菜

第一 馬鈴薯品種試驗

本試驗ハ春作ニ繼續施行セルモノニシテ秋季雨濕多カリシ爲カ生育頗ル不良其ノ成績左ノ如シ

品 種 名	總 收 量	上 薯 重 量	層 薯 重 量	種 薯 腐 敗 步 合	備 考
一、長 崎 赤	111,100	81,100	31,000	六、五	
二、アトリ、ロー、ス	35,500	26,500	29,000	五、二八	
三、アトリ、ビュート、イ	55,100	23,500	29,900	五、八二	
四、アトリ、サラフレツト	82,100	37,100	30,100	三、五一	

第一 馬鈴薯品種試驗

品 種 名	總 收 量	上 薯 重 量	層 薯 重 量	種 薯 腐 敗 步 合	備 考
五、長 崎 三 一 号	51,200	19,100	22,100	三、三九	種薯ノ腐敗歩合ハ本圃ニ定植セルモノ、腐敗歩合ニアラスシテ定植前豫メ種薯ヲ床ニ伏込ミ萌芽セシメタルモノニ付腐敗歩合ヲ調査シタルモノナリ
六、ノーザン、スター	35,900	9,800	26,100	四、七六	
七、ユ ー リ カ	78,000	51,100	26,200	一、三五	
八、サー、ウオスターラレー	96,900	57,500	29,800	二、四二	
九、長 崎 十 一 号	19,500	0,000	19,500	三、四九	
一〇、ホワイトシテイ	23,500	21,000	22,500	一〇、〇〇	
一一、相 澤 一 号	71,500	38,500	32,600	一、一一	
一二、メ ー ク キ ー ン	155,800	100,000	55,800	三、〇二	
一三、ウキンゾーキヤツスル	27,800	11,200	25,900	二、七六	

第二 馬鈴薯肥料試驗

本試驗ハ從來本場内圃場ニ於テ繼續施行セルモ常ニ白絹病ノ侵ス所トナリ成績ノ判定困難ナルヲ以テ本秋ヨリ馬鈴薯ノ主産地タル邑久郡朝日村大字久々井ニ移シ委託試験ニ附シタリ試験ノ目的ハ馬鈴薯ニ對スル本場普通肥料堆肥三百貫匁人糞尿四百貫匁過磷酸石灰五貫匁以外ニ三要素ノ何レカヲ加用スルノ必要アリヤ否ヤヲ檢シ併セテ肥料ノ經濟的施用量ヲ知ランカ爲窒素一貫加用窒素二貫加用(窒素ハ人糞尿ニテ施用)磷酸一

貫加用磷酸二貫加用(磷酸ハ過磷酸石灰ニテ施用加里一貫加用加里二貫加用加里ハ木灰ニテ施用)久々井地方慣用肥料(堆肥三百貫匁人糞尿五百貫匁大豆粕十五貫匁蠶蛹五貫匁)過磷酸石灰八貫匁木灰三十貫匁ノ八區ヲ設ケ長崎赤ニ付試験セシニ其成績左ノ如クナリキ

試験區別	總收量	上薯重量	屑薯重量	賣上價額	賣上價額ヨリ肥料代ヲ引去リタル殘金
一、本場普通肥料	二五八、〇〇〇	二二五、〇〇〇	四二、〇〇〇	二九、九一一	二〇、五六二
二、窒素一貫加用	二八四、五〇〇	二五八、〇〇〇	四八、〇〇〇	三五、一五三	二二、四〇三
三、窒素二貫加用	二八一、五〇〇	二三七、〇〇〇	四四、五〇〇	三五、〇〇六	二〇、八九六
四、磷酸一貫加用	二七六、〇〇〇	二二九、〇〇〇	四九、〇〇〇	三一、九九六	二二、〇九六
五、磷酸二貫加用	二九二、五〇〇	二四〇、〇〇〇	五二、〇〇〇	三五、九〇四	二二、四五四
六、加里一貫加用	二八六、〇〇〇	二四七、〇〇〇	四九、〇〇〇	三五、二七六	二二、二九七
七、加里二貫加用	三一〇、〇〇〇	二六二、〇〇〇	四八、〇〇〇	三六、六五六	二五、九五六
八、久々井地方慣用肥料	三四九、五〇〇	二七九、五〇〇	五〇、〇〇〇	三八、七七六	二二、六二六

第三 漬物用菜菔播種期對收穫期試驗

本試驗ハ前年來繼續施行セルモノニシテ播種期並ニ收穫期ノ早晚カ漬物用菜菔ノ品質ニ及ホス影響ヲ調査センカ爲播種期ヲ八月二十五日、九月一日、九月五日、九月十日ノ四回ニ分チ同一播種期ノモノヲ更ニ十一月二十五日、十二月五日、十二月二十五日ノ三回ニ分チテ採收スルモノ都合十二區ヲ設ケ田邊菜菔ヲ用ヒテ試験セシニ其成績左ノ如クナリキ

試驗區別	總收量		上薯重量		屑薯重量		根ノ重量	根ノ歩合	
	本數	重量	本數	重量	本數	重量			
八月廿五日播	十一月廿五日	五五九〇	一五三三、〇〇〇	四三八六	一一〇四、〇〇〇	一一〇四	一一九、〇〇〇	八三二、四八〇	六、二二
	十二月五日	五四一八	一五〇九、三〇〇	四二二二	一三五二、七八〇	一一〇四	一五六、五二〇	一五五、〇一〇	六、八六
	十二月廿五日	六一〇六	一六二八、八〇〇	三八七〇	一一九七、一一〇	二二二六	四二一、七二〇	一〇〇〇、九二〇	六、四三
九月一日播	十一月廿五日	五五九〇	一五三三、〇〇〇	四三八六	一一〇四、〇〇〇	一一〇四	一一九、〇〇〇	八三二、四八〇	六、二二
	十二月五日	五五九〇	一五三三、〇〇〇	四三八六	一一〇四、〇〇〇	一一〇四	一一九、〇〇〇	八三二、四八〇	六、二二
	十二月廿五日	六一〇六	一六二八、八〇〇	三八七〇	一一九七、一一〇	二二二六	四二一、七二〇	一〇〇〇、九二〇	六、四三
九月五日播	十一月廿五日	五五九〇	一五三三、〇〇〇	四三八六	一一〇四、〇〇〇	一一〇四	一一九、〇〇〇	八三二、四八〇	六、二二
	十二月五日	五五九〇	一五三三、〇〇〇	四三八六	一一〇四、〇〇〇	一一〇四	一一九、〇〇〇	八三二、四八〇	六、二二
	十二月廿五日	六一〇六	一六二八、八〇〇	三八七〇	一一九七、一一〇	二二二六	四二一、七二〇	一〇〇〇、九二〇	六、四三

螟虫害ノ蝕害ヲ被ムリ成績不明ニ了リタリ

第五 結球白菜株間廣狹試驗

本試驗ハ前年ニ繼續施行セルモノニシテ直隸及芝罘ノ二種ニツキ株間一尺五寸、一尺八寸、二尺一寸ノ三區ニ分チテ試驗セシニ其成績左ノ如シ

試驗區別	株數	重量	株平均重量
直隸 一尺五寸	3360	19200	57.1
直隸 一尺八寸	2800	14000	50.0
直隸 二尺一寸	2200	11000	50.0
芝罘 一尺五寸	3360	14950	44.5
芝罘 一尺八寸	2800	13660	48.8
芝罘 二尺一寸	2200	13370	60.8

備考 本試驗ハ九月二日下種セルモ旱天ノ爲發芽ヲ害シ生育甚不整ナリシヲ以テ九月二十二日ニ至リ遂ニ全部棄却シテ苗植ヲ行ヒタリ苗定植當時ニ於ケル活着状態ヲ見ルニ直隸ハ芝罘ヨリモ植痛ミ少ナカリキ

尙隣接地ニ於テ比較的發芽整一ナリシモノヲ同一肥培方法ニヨリ其儘生育セシメタル芝罘ノ反當收量株間一尺八寸ハ千七百三十二貫八百六十八匁ナリキ

第六 結球白菜施肥法試驗

本試驗ハ前年來繼續施行セルモノニシテ施肥ノ方法ガ結球性白菜ノ收量ニ及ホス影響ヲ檢センガ爲

甲堆肥三百貫過磷酸石灰五貫木灰十貫人尿三百貫ヲ元肥ニ施シ七百貫ノ人尿ヲ追肥トシテ六回ニ施用スルモノ(本場普通施肥法)

乙堆肥三百貫過磷酸石灰五貫木灰十貫人尿五百貫ヲ元肥トシテ施シ五百貫ノ人尿ヲ追肥トシテ三回ニ分施スルモノ

丙堆肥三百貫過磷酸石灰五貫木灰十貫人尿百貫ヲ元肥トシテ施シ九百貫ノ人尿ヲ追肥トシテ六回ニ分施スルモノ

三區ヲ設ケテ試驗セシニ其ニ成績左ノ如クナリキ

試驗區別	株數	總收量	一株平均重量
甲區	4085	17811.8	43.6
乙區	4085	17270.9	42.3
丙區	4085	19151.3	46.9

前年ニ於テハ丙區ヲ缺クモ人尿ノ如キ速効性肥料ハ大部分追肥トシテ施用セルモノ、

成績良好ナルコトニケ年トモ略一致セリ

第七 菜豆品種試験

本試験ハ春作ニ繼續施行セルモノナルモ土地整理ノ爲採收ヲ中止シ調査ヲ完了スル能ハサリキ

第八 豌豆品種試験

本試験ハ前年ヨリ繼續施行セルモノニシテ軟莢種五種ニツキ試験セシニ其成績左ノ如シ

品名	採收期	摘	要
一、佛國大莢	自五、一、八	莢長大ニシテ硬化遅ク品質良	
二、臺灣大莢	自五、一、八	莢前種ニ次テ長大前種ヨリモ硬化稍早シ	
三、廣嶋赤花	自五、一、八	普通	
四、札幌	自五、一、八	普通	
五、アメリカン、シユガー、ビー	自六、三、三	莢小肉粗硬ニシテ品質最モ劣ル	

備考 五月上旬ヨリ葉潜蠅ノ蝕害ヲ被ムリ生育ヲ阻害サレタリアメリカン、シユガー、ビーノ収量最モ少ナカリシハ被害最劇甚ナリシニ因ル

第九 葱頭移植期試験

本試験ハ前年來繼續施行セルモノニシテ移植期ノ早晚カ葱頭ノ品質並ニ收量ニ及ホス影響ヲ檢セシカ爲十二月下旬、十二月下旬、一月下旬、一月下旬、二月下旬、二月中旬、二月中旬ノ十回ニ分ケテ移植セシニ其成績左ノ如シ

移植期	總收量		上球		下球		抽莖		抽莖歩合
	個數	重量	個數	重量	個數	重量	個數	重量	
一、十二月中旬	九六〇〇	三三六、二〇〇	六〇一〇	二二二、〇〇〇	三六〇〇	一一〇、〇〇〇	三二二〇	八九、六〇〇	一、一
二、十二月下旬	九二〇〇	三〇二、八二〇	五〇〇〇	一七〇、五八〇	五六〇	八、二六〇	四四八〇	一一四、一八〇	一、八
三、一月上旬	九二〇〇	二九九、一八〇	五九二〇	一五二、八八〇	一三〇〇	二四、五〇〇	四二〇〇	一一一、八〇〇	一、五
四、一月中旬	八五〇〇	二六六、八四〇	四七六〇	一三二、九〇〇	一四〇〇	二七、五八〇	三三八〇	六六、五三〇	二、八
五、一月下旬	九五二〇	二四六、一一〇	四〇六〇	一三四、一一〇	一五二〇	二九、四〇〇	三九二〇	八二、六〇〇	一、一
六、二月上旬	八六八〇	二〇九、七二〇	三〇六〇	一〇〇、二〇〇	二二二〇	二二、五二〇	三三八〇	五六、〇〇〇	二、七
七、二月中旬	九一〇〇	二五二、一〇〇	三三六〇	一四三、二二〇	八四〇	一四、八〇〇	四九〇〇	九四、〇八〇	三、三
八、二月下旬	八二六〇	一八六、六二〇	二二二〇	七九、一〇〇	二二〇	七、二二〇	五三二〇	一〇〇、一〇〇	六、四
九、三月上旬	八二六〇	一八〇、八八〇	五二二〇	八三、三〇〇	一一〇	一五、六八〇	三九二〇	八一、九〇〇	四、七
一〇、三月中旬	八六八〇	一六五、七六〇	三三八〇	五五、〇二〇	九八〇	一三、七二〇	五三二〇	九七、〇二〇	六、一

右ノ成績ニヨレバ移植期遅ル、ニ從テ漸次收量ヲ減スルコト既往二ヶ年ノ成績ト略一致シ移植期ノ早晚ヨリ來ル抽量ノ多少ハ稍區々ノ觀アリト雖モ大体ニ於テ移植期遅キモノガ抽量シ易キ傾向ヲ有スルコトモ前年ノ成績ト一致セリ

備考 本試験ニ於テ抽量數非常ニ多キハ北海道産黃葱頭ヲ供用セルニヨルモノ、如シ別項葱頭採種地試験成績參照

第十 葱頭石灰木灰加用試験

本試験ハ本年ノ新設ニシテ從來葱頭カ土壤ノ酸性ヲ嫌忌スルノ性稍強キ傾向ヲ有スル感アルヲ以テ葱頭ノ肥料トシテ石灰又ハ木灰ノ如キモノヲ加用スルトキハ其生育收量ニ如何ナル影響ヲ及ホスヤヲ檢センカ爲反當二十貫四十貫五十貫ノ石灰又ハ木灰ヲ加用スルモノ及標準等計九區ヲ設ケテ試験セシニ石灰加用區ハ標準區ニ比シ生育甚不良ニシテ石灰ノ用量ヲ増加スルニ從ヒ其收量ヲ減セリ木灰加用區ニ至テハ生育ノ狀況標準區ニ比シ大ナル差異ヲ認メサルモ是亦其用量ヲ増加スルニ從ヒテ幾分減收ヲ免レサリキ

第十一 黃葱頭採種地試驗

本試験ハ本年ノ新設ニシテ試驗ノ目的ハ採種地ヲ異ニスル黃葱頭ニ就キ之カ優劣ヲ檢

セントスルモノニシテ本場採種在來黃葱頭及北海道採種黃葱頭ノ二種ヲ比較栽培セシニ其成績左ノ如クナリキ

試驗區別	總收量		上球		下球		抽量	
	個數	重量	個數	重量	個數	重量	個數	重量
一、本場採種黃葱頭	1170	333.6kg	1030	303.0kg	0	0	770	111.2kg
二、北海道採種黃葱頭	1030	333.6kg	880	182.3kg	280	31.9kg	510	118.1kg

備考 右供試品種カ全ク同一品種ナリヤ否ヤ不明ナルモ其敷風土ヲ異ニスル地方ヨリ取寄セタル種子ハ本試驗ノ如ク抽量甚シキモノ又ハ生育旺盛ニ失シテ球ノ肥大不良ナル場合等多ク既往ニ於テモ外國ヨリ輸入シタル種子等ニハ屢同様ノ傾向アルヲ認メタリ

第十二 甘藍品種試驗

本試験ハ前年來繼續施行セルモノニシテ早中晩ノ十二品種ニツキ試驗セシニ其成績左ノ如クナリキ

品種名	收量		一個平均重量	結球歩合	採收期	摘	要
	個數	重量					
一、アールリエスト	11200	311.000	1.75kg	9.1	自五、〇〇至六、〇〇	長圓錐形	採收初期ノモノハ破裂球
二、ハービンジャー	1200	110.450	1.17kg	6.6	自五、〇〇至六、〇〇	短圓錐形	採收初期ノモノハ破裂球

果樹ノ部

第一 桃品種試験

備考「アーリーサンマー」以下ノ晩生種ハ菌核病ノ被害ニヨリ著シク収量ヲ減シ「ア
 リー、スプリング」ハ過半抽葢セリ

三、	ランダー、エンド、ツル	二四〇〇	四九、五〇〇	一九一	八、八九	自五、一三八	短圓錐形
四、	オー、ル、ハート	二六〇〇	四〇、四〇〇	二九五	一〇、〇〇	自六、〇二八	紡錐形
五、	アーリー、ジャシー、ウ エークフキールド	二二二〇	七、七、二七五	三四八	八、三三	自六、〇一三	卵圓形
六、	アーリー、チャーレスト ン、ウエークフキールド	一九二〇	八、六、三、一〇〇	四一一	七、七八	自六、〇一三	心臟形
七、	アーリー、スプリング	二二〇〇	二、五、五、九〇〇	六〇九	二、五〇	自六、〇〇一	稍扁圓形
八、	サクセツ、シヨ	二二六〇	一〇、八、九、三〇〇	八六五	八、六七	自六、〇二八	扁圓形
九、	アーリー、サンマー	一〇二〇	六、二、三、一六〇	六一一	六、〇七	六、一三	扁圓形
一〇、	オータム、キング	一〇二〇	六、一、六、二二〇	六〇五	六、二五	自六、二二二	稍扁圓形
一一、	マーケツトキング	五〇〇	三、九、四、〇八〇	七三〇	三、六七	自七、〇二二	扁圓形
一二、	札	二二六〇	六、七、三、七四〇	五三五	八、七五	七、〇八	扁圓形

從來繼續栽培セルモノ並ニ本年新植ヲ行ヒタルモノ等合計五十四種ニシテ其成績左ノ
 如シ

品名	採收期	一樹平均収量		品質	袋掛數ニ 對スル收 果歩合	樹齡	備考
		個數	重量				
魁	至自 六、二八	五三	一、三、一〇	中	八、三	七	
スニード	至自 六、二八	一一	四〇五	中	七、五	四	
レッド、バード、クリング	至自 六、二八	一三	三六七	中	八、一	三	本縣下ニ栽培スル土倉号ト 同種ナルコト分明セリ
ヴキクト	至自 七、〇八	一一〇	三、六八四	中	九、二	一一	
アムスデン、ジュオン	至自 七、〇八	九三	二、九六八	中ノ上	七、〇	一一	
アドミラル、デユーウエー	至自 七、〇八	一一〇	三、五三三	中	七、九	一一	黄肉
アルト(在來)	至自 七、〇八	七五	一、八一一	中ノ上	七、七	六	「アムスデンジュオン」ニ酷 似セリ
メーラー、クリング	至自 七、〇八	七〇	一、九九四	中	七、七	七	
トライ、アンフ	至自 七、一五	一〇六	三、二九九	中	四、八	七	黄肉
クロフオード	至自 七、二九	一〇八	三、六五二	中	五、二	六	「アーリー、リパース」ニ酷 似ス
カールマ	至自 七、二九	五九	二、二五八	上	三、七	二	樹勢衰弱
和歌山大統領	至自 七、二〇	一九	六、七五	上	八、四	三	

白	マリスチヨイス	全	袋掛ヲ行ヒタルモ落果セリ	中	一、五	七
白	フイツツゼラルド	全	上	上	七	七
グ	マンモース、ヒースクリン	全	上	上	六	六
ユ	ユニーダクリン	未結果セス			三	三
大	旭	全			二	二
一週	西	全			二	二
天津ニ類スル白肉桃	生	全			一	一
實		全			一	一

第二 桃肥料試験 其一

本試験ハ前年來繼續施行セルモノニシテ桃ニ對スル三要業ノ配合竝ニ石灰ノ施用カ果實ノ品質收量ニ及ホス影響ヲ檢センカ爲御津郡馬屋下村ニ於テ八年生離核水蜜桃ニツ

キ一區八本宛ヲ用ヒテ試験セシニ其成績左ノ如クナリキ

試験區別	七月下旬收量	八月上旬收量	八月中旬收量	總收量	袋掛數ニ對スル收果歩合	一個平均重量
一、菜種粕單用	個數 四九〇 重量 一七、七九	個數 四八七 重量 一五、六三一	個數 四三三 重量 一、二九八	個數 一〇一 重量 三三、七二八	八、九八	三、四一
二、過磷酸石灰加用	個數 四四五 重量 一五、七二八	個數 四三二 重量 九、三一五	個數 四〇〇 重量 二、二八三	個數 七二五 重量 二五、四八一	九、六五	三、四一
三、木灰加用	個數 七二二 重量 二四、六一一	個數 五〇七 重量 一〇、四八六	個數 一〇 重量 一、〇二九	個數 一〇二九 重量 三五、四八一	八、八四	三、四一
四、過磷酸石灰加用	個數 一五四 重量 三三、五三九	個數 二七九 重量 九、六三六	個數 七 重量 二、四〇〇	個數 一四三八 重量 四七、四一五	九、四八	三、二九
五、木灰加用	個數 五〇七 重量 一八、五七一	個數 二四一 重量 七、九三八	個數 一〇 重量 三、六二二	個數 七五八 重量 二六、八七一	八、六九	三、五、六

右ノ成績ニヨレバ第三區第四區ハ第一區ニ比シ數量多ク殊ニ熟期促進ノ傾向アルコト從來ノ成績ト一致セルモ第二區及第四區カ第一區ニ比シ著シク收量ヲ減セルハ寧ロ意外ナル而シテ各加用區トモ果實ノ地色白色ニ汚ハ紅斑鮮カニシテ外觀第一區ニ勝リ第二第三第四第五區間ノ差ハ僅少ナルモ強テ區別スレバ第二區ハ第三第四第五區ニ比シ幾分劣ルモノ、如シ其味ニ至テモ亦能ク外觀ト一致シ加用區ハ何レモ第一區ニ比シ甘味濃厚ニシテ肉緊リ磷酸及加里分ノ加用ニヨリ品質ヲ上進スルコトノ大ナルヲ認メタリ尙石灰分ノ加用ハ何等品質收量ノ上ニ見ルヘキ變化ナキコト從來ニ異ナラス

第三 桃肥料試験 其二

本試験ハ前年來繼續施行セルモノニシテ肥料ノ配合施用ノ方法并ニ石灰ノ加用カ果實ノ品質收量及落果歩合ノ多少ニ如何ナル影響ヲ及ボスヤヲ檢センカ爲御津郡馬屋下村ニ於テ六年生上海水蜜桃ニツキ一區八本宛ヲ用ヒテ試驗セシニ其成績左ノ如クナリキ

試験區別	八月中旬收量		八月下旬收量		總收量		袋掛數ニ對スル收果歩合	一個平均重量
	個數	重量	個數	重量	個數	重量		
一、菜種粕單用	二八〇	一一、三六八	—	—	二八〇	一一、三六八	七、八七	四〇、二
二、過磷酸石灰加用	三二〇	一五、〇〇八	三	—	三二三	一五、〇一〇	七、〇二	四一、〇
三、骨粉加用	二五〇	一〇、九九〇	—	—	二五〇	一〇、九九〇	七、三五	四二、〇
四、過磷酸石灰加用	三三九	二五、七二〇	—	—	三三九	二五、七二〇	七、七〇	四〇、八
五、骨粉加用	三二一	一五、二九五	—	—	三二一	一五、二九五	七、一〇	四一、〇

備考 第三區及第五區ハ骨粉ノ窒素含有量ニ相當スルダケ菜種粕ノ施用量ヲ減シタリ第五分施區ニアリテハ追肥ハ六月上旬袋掛後ニ施用シタリ
右ノ成績ニヨレバ第三區ヲ除クノ外何レモ第一區ヨリ收量ヲ増加セリト雖モ右收量ノ多少ハ袋掛後ニ於ケル收果歩合ノ良否ニヨルモノニアラズシテ主トシテ袋掛前ニ於ケル結實ノ良否ニ左右セラレタルモノナリ即チ本年ハ開花當時雨天多ク一般ニ桃ノ結實甚不良ニシテ上海ノ如キハ半年ノ五分作ニ達セス殊ニ開花期ノ遅レタルモノニ於テ一

層甚シカリシカ如シ故ニ本試験ノ成績モ全然肥料ノ配合種類並ニ施肥方法ノ相違ニヨリテ前表ノ如キ收量ノ差異ヲ生シタルモノト解スルハ穩當ナラサルベシ而シテ第二區以下各區果實ノ品質ガ第一區ニ勝レルコトハ前記離核水蜜桃ニ對シテ行ヒタル肥料試驗ノ成績ト能ク一致セリ

第四 桃肥料試驗 其二

本試験モ亦前年來繼續施行セルモノニシテ前試驗ト略同一ノ目的ニテ前試驗ト同所ニ於テ六年生上海水蜜桃ニツキ一區五本宛ヲ用ヒテ試驗セシニ其成績左ノ如クナリキ

試験區別	八月中旬收量		八月下旬收量		總收量		袋掛數ニ對スル收果歩合	一個平均重量
	個數	重量	個數	重量	個數	重量		
一、菜種粕單用	四七一	一八、九五四	—	—	四七一	一八、九五四	七、七二	四〇、二
二、過磷酸石灰加用	五〇〇	一六、〇一〇	二	—	五〇二	一六、〇一〇	七、八九	四一、〇
三、骨粉加用	三八六	一六、四一四	一〇	—	三九六	一七、〇二四	八、四二	四三、〇
四、過磷酸石灰加用	三八八	一五、四七六	—	—	三八八	一五、四七六	七、三五	四二、一
五、骨粉加用	三九四	一五、〇四七	—	—	三九四	一五、〇四七	七、九六	四三、七

備考 本試験第三、第五區ハ骨粉加用ノ爲特ニ菜種粕ノ分量ヲ減スルコトナカリキ尙本試験ハ各區トモ冬季中耕ノ際反當三十貫ノ石灰ヲ施用シタリ

右ノ成績ニヨレバ磷酸加里質肥料加用各區ハ菜種粕單用區ニ比シ收量ヲ減セルモ位置ノ關係ニヤ第一區ヨリ第五區ニ至ルニ從ヒテ漸次收量ヲ減セルニ徴スレバ全ク肥料ノ影響ニヨルモノト斷スベカラザル點アリ只茲ニ多少ノ注目スベキ點ハ既往二ケ年トモ第四區ノ收果歩合カ常ニ不良ナルコトニシテ本年モ亦同様ノ現象ヲ呈セリ惟フニ菜種粕分施(二等分)ノ爲結實ノ初期ニ於テ却テ營養ノ不足ヲ告ケ爲ニ落果歩合ヲ多カラシムルモノニハアラサルカ而シテ第五區モ亦同様ノ傾向ヲ免レザルモ骨粉ノ施用ニヨリ幾分窒素分ノ不足ヲ緩和シ得ルニハアラサルカ更ニ今後ノ研究ヲ要ス而シテ其品質ニ及ホス影響ハ大体前試驗ト同様ニシテ第一區ハ味甚淡泊ニ第二、三、四、五ノ各區ハ味濃厚ニシテ就中第四區ハ滋味ナク最モ良好ナリキ

第五 洋梨品種試驗 (實生梨砧)

明治四十三年接換ヲ行ヒタルモノ大部分ヲ占メ爾來接換又ハ新植ヲ行ヒ目下蒐集セル品種ハ六十九種ニシテ本年結實セルモノ、成績左ノ如シ

品名	採收期	一樹平均收量		品質	樹齡	備考
		個數	均重量			
アンドンレ、デポールト	七月上旬	一七	三、八一	中	七	裂ケ易シ
クラップス、フェボリット	七月中旬	七	二、一三	上	七	裂ケ易シ

ドクトル、ジュール、ギユイヨ	七月下旬	二二	六、三三	上	七	本種ハ「ドクトル、ジュール、ギユイヨ」ト同物ナリ 隔年結果ノ現象強シ 隔年結果ニ陥リ易シ 連年能ク結果ス
ダナス、ボーヴェー(京都府)	七月下旬	七	三、二八	上	三	
オリエンタル	八月中旬	六	二、一七	上	七	
エフ、キー、ポアール	八月中旬	七	三、〇〇	中	七	
フレミツシユ、ビユータイ	八月下旬	八	四、二六	上	七	
ローレンス	八月下旬	一五	五、三〇	上	七	
バートレット	八月下旬	一四	六、四二	上	七	
ポーレ、アルデイ	八月下旬	六	三、一七	中	七	
ホワイト、ドワイエンス	九月上旬	四	一、四七	上	七	
ポーレ、ルブラン	九月中旬	一	七、二五	中	七	
ビエール、ツラツス	九月中旬	二	一、二七	中	七	採收後果皮黒變シ後熟完全 ナラサルモノ多シ 隔年結果ノ現象強シ
ルイズ、ボンヌ、ド、ジェルシー	九月中旬	二	一、一三	上	七	
アレキサンドリ(好本号)	九月下旬	三	一、七二	上	四	
ンツイヤール	九月下旬	一〇	七、一九	上	六	
グルー、モルツ	九月下旬	一	六、九〇	上	六	
デュシエス、ダングレーム	九月中旬	八	六、八九	上	三	

ボーレ、デイエル	九月下旬	一五	九四七	六三、〇	上	七	連年能ク結果ス
ドワイエンス、デュ、コムス	九月下旬	五	三二一	六四、〇	上	七	
ボーレ、クレイルヂョー	九月中旬	七四	四、一七	五五、六	中	七	
ア、イ、ダ、ホ	九月中旬	一九	八六八	六四、〇	中	七	
ラ、フ、ラ、ン、ス	九月下旬	三七	一、六四二	四四、〇	上	七	
カーディナル、ヂョルヂ、ダ ンポアーズ	十月中旬	四五	二、六五三	五九、〇	中	七	落果シ易ク隔年結果ノ現象 強シ尻腐病ノ被害多シ
ル、レ、ク、テ、イ、エ	十月中旬	六	四〇二	六七、〇	上	七	
ト、ラ、イ、ア、ン、フ	十月下旬	七	五〇三	七一、七	上	七	
小 山 号	十月下旬	二九	一、四七七	五〇、〇	下	七	肉溶ケ難シ
ウキンター、ネリス	十月下旬	三二	一、三五九	四二、五	上	七	隔年結果ニ陥入り易シ
ビー、バ、ー、リ、ー	十月下旬	四二	二、〇一八	四八、〇	中	七	連年能ク結果ス
パツス、クラツサン	十月上旬	八五	七、五三四	八九、〇	中	七	連年能ク結果ス
シューゼット、ド、バヴェー	十月上旬	一〇六	四、一二三	三九、〇	上	七	
スーヴニール、ド、ジュール、 ギヤンドン	十月下旬 十二月下旬	二	一〇八	四六、〇	上	七	連年結果不良

右ノ品種中收量並ニ品質ヨリ觀テ比較的有望ト認ムヘキモノハ「ドクトル、ジュール、ギユ

イヨ「バートレット」「デュシエス、ダングレーム」「ボーレ、クレイルヂュー」「パツス、クラツサン」
等ニシテ此他「ローレンス」「ホワイト、ドワイエンス」「ウインタート、ネリス」「ラ、フランス」ノ如
キモ仕向先ニヨリテハ望ナシトセス
尙先年來結實シツ、アル品種中「オノンダガ」六年々尻腐病ノ被害特ニ激甚ニシテ常ニ一
個モ完全果ヲ採收スル能ハス
前年ノ結果樹ニシテ本年結實セザルモノハ「ロートン」「バウンド」ノ二種ナリ
此他樹齡若クシテ未結果期ニ入ラサルモノハ左ノ如シ
ボーレ、デツファール (高接四年生) ボン、デゼー (高接四年生)
ボーレ、デュブイゾン (高接三年生) ボーレ、ダマンリー (全 上)
ボーレ、ダンジヨール (全 上) ボーレ、バシユリエー (全 上)
パーシタル (高接二年生) プーソツク (全 上)
ブランデイ、ワイン (全 上) キエトレ (高接三年生)
シトロン、デ、カルム (全 上) デ、ラ、ウイエルエイネ (全 上)
デアアボンス、シードリング (全 上) ウキンター、バートレット (全 上)
イースター、ボトレ (高接四年生) フェイム (高接三年生)

ガーバース、ハイブリッド(高接二年生)
 リンカン (全 上)
 オザーク (全 上)
 ロスネー (全 上)
 セツケル (全 上)
 スイオドウア、ウイリアム(全 上)
 丸最号 (全 上)

クーンズ (高接三年生)
 オリギエ、ド、セール (全 上)
 プレシダン、ドルアール (高接二年生)
 スーヴニール、デュ、コンケレ(高接三年生)
 スナイダー (高接三年生)
 ウルパニスト (全 上)
 不明種 (高接二年生)

第六 榲桲砧嫁接洋梨品種試験

榲桲砧ニ嫁接シタル洋梨各品種成績ノ良否ヲ檢センカ爲大正三年度ニ於テ二十四種大正四年度ニ於テ二十四種ヲ栽植シタリ其品種名左ノ如シ

アンドレ、デポールト ポーレ、デツファール クラツプス、フェポリツト
 エフ、イー、ポアール オリエンタル パートレット
 ポーレ、ダマンリー ボン、デゼー ポーレ、アルデイ
 ルイズ、ボンヌ、ド、ジェルシー ホワイト、ドワイエンス フレミツシユ、ビユータイ
 デュシエス、ダングレーム グルー、モルソー オノンダガ

ラ、フランス ポーレ、デイエル ドワイエンス、デュ、コムス
 スーヴニール、ジュール、ギヤンドン シューゼツト、ド、バヴェー ウインター、ネリス
 イースター、ポーレ バツス、クラツサン ドワイエンス、ダランソン

以上大正三年栽植 右ノ内「バートレット」「エフ、イー、ポアール」「グルー、モルソー」ノ三種ハ小
 數ノ結果ヲ見タリ

ポーレ、ジアン、ヴァンジエールト ポーレ、ダヴリル シャール、エルネスト
 ポーレ、ブラウン コムト、ルリユール ブリツクリング
 コンフエレンス デイレクテユール、アルデイ エミル、デイス
 フオンダント、ドートーヌ フオンダント、テイリオ フィグイェオア
 マリー、ルイズ、ドユツクル ミケルマス、ネリス マルグリツト、マリライ大々
 スヴェル、フルグイェ ビツトマストン、ダンチエズ プレシダン、バラブ
 ロージヴェルト ヴォーセル スピーナ、デイ、カルビ
 サンタ、クロース ウイルダー、アトリール アスパシー、オークール
 以上大正四年栽植

第七 洋梨袋紙試験

本試験ハ前年來繼續施行セルモノニシテ袋紙ノ耐久力ヲ調査スルト同時ニ袋紙ノ種類ガ果實ノ品位ニ及ボス影響ヲ檢センガ爲澁引日笠紙薄茶ロール紙白色ロール紙硫酸紙新聞紙ノ五種ヲ用ヒ洋梨九種ニツキ試験セシニ其成績ノ大要左ノ如シ

前年來使用セシ柿色ロール紙澁色ロール紙ハ歐洲戰亂ノ爲購入スル能ハサリシヲ以テ之ヲ除キ新ニ薄茶ロール紙ヲ加ヘタリ

甲袋ノ耐久力 本年ハ梅雨季ニ於テ降雨連日ニ亘リ爲ニ袋ノ耐久力ヲ損セルコト大ナリシモ從來ノ如ク暴風ノ襲來ナカリシヲ以テ比較的順調ニ調査スルヲ得タリ今早中晩各種ニ對スル平均破損歩合ヲ示セバ左ノ如シ

袋紙ノ種類	採收前破損數	採收當時破損數	計	大袋(半紙大)一枚價
澁引日笠紙	10,570	2,980	3,455	6,680
薄茶ロール紙	3,600	3,380	6,558	2,000
白色ロール紙	5,000	2,300	4,290	0,600
硫酸紙	1,370	2,900	4,160	1,800
新聞紙	1,740	3,940	5,490	0,800

乙果實ノ品位ニ及ボス影響 洋梨ノ品種ニヨリ多少ノ差アリト雖モ一般ニ左ノ如キ傾

向ヲ認メタリ

一、澁引日笠紙 果面凹凸ヲ生シ易ク且滑澤ナラス又銹ヲ現ス事多ク其色ハ一般ニ淡キモノト異ナルガ如シ而シテ「クラツサン」ニ於テ特ニ其傾向ノ大ナルヲ認メタリ

二、薄茶ロール紙薄茶片ツヤ模造紙 前者ヨリ銹及果面ノ凹凸少ク寧ロ新聞紙ニ類スル點アリ外觀日笠紙ニ比シ遙カニ良好ナリ

三、白色ロール紙 硫酸紙ニ類シ果面平滑ニシテ銹少ナキモ銹色濃厚ナル爲品位劣ル

四、硫酸紙 銹最モ少ク果皮平滑ニシテ光澤ヲ有シ色亦進ムモ銹色濃厚ニシテ外觀ヲ不良ナラシム但シ「ダングレーム」「クレイルジュー」「クラツサン」等ニアリテハ銹色稍淡ク外觀良好ナリ尙硫酸紙ヲ被ヒタル果實ハ果皮果肉共ニ緊リ他ノ袋紙ヲ用ヒタルモノト異ナルガ如シ而シテ「クラツサン」ニ於テ特ニ其傾向ノ大ナルヲ認メタリ

五、新聞紙 硫酸紙又ハ白色ロール紙ノ如キ紙質半透明ノモノヲ用ヒタル果實ノ如クニ果面滑澤ナラスト雖モ澁引日笠紙ノ如ク凹凸甚シカラス銹ハ一般ニ多キ方ナルモ其色淡ク外觀ハ寧ロ良好ナリ

丙、果實ノ發育ニ及ボス影響 澁引日笠紙ヲ用ヒタルモノハ果實ノ發育ヲ遲延セシムルノ傾向ヲ認メタルモ袋紙ノ種類ニヨリ最後ノ發育ニ及ボス影響ニ至リテハ強テ差異

ヲ認メズ
 丁落果ノ多少ニ及ホス影響 日笠紙薄茶ロール紙新聞紙等ハ落果歩合稍多キ傾向アリ
 特ニ薄茶ロール紙及新聞紙ハ袋掛後間モナク落果スルモノ多シ
 右ノ成績ニヨレハ溢引日笠紙ハ耐久力强キモ其價不廉ナルト果實ノ外觀ヲ損スルヲ缺點アリロール紙ハ破損シ易ク硫酸紙亦不廉ナルノ嫌アリ而シテ新聞紙ハ耐久力ニ於テ日笠紙硫酸紙白色ロール紙ニ比シ劣リシモ其價ノ廉ナルト果實ノ外觀良好ナルヲ利益アレバ早中熟種ニ對シテハ新聞紙ヲ用フルヲ得策トセン

第八 洋梨摘斷時期試験

本試験ハ前年來繼續施行セルモノニシテ洋梨ニ對スル摘斷ノ効果並ニ摘斷ノ時期ガ花芽ノ成生ニ及ボス關係ヲ檢センガ爲標準ニ摘斷五月下旬摘斷六月中旬摘斷ノ三種ニ分チ洋梨十二種ニツキ試験セシニ大略左記ノ如キ事實ヲ認ムルヲ得タリ
 一、摘斷區ハ不摘斷區ニ比シ花芽ノ成生良好ナリ殊ニ「ローレンス」「ダングレーム」「ビエール、ツーラツス」「バートレット」「クラツサン」「ドクトル、ジュール、ギユイヨ」「小山号」等ニ於テ顯著ナリ
 二、「ドクトル、ジュール、ギユイヨ」「ダングレーム」「バートレット」ノ如キ長果枝ヲ生シ易キ品種ニアリテハ摘斷部ニ花芽ヲ生シ長果枝ノ長サヲ短縮シ得ルノ利アリ而シテ摘斷部

ニ生セル花芽ノ結果狀態ヲ調査スルニ他ノ短中果枝ト何等異ナラサル結果ヲ見タリ
 三、摘斷時期ト品種トノ關係ヲ見ルニ左ノ如キ區別アルヲ認メタリ
 五月下旬ヲ可トスルモノ
 ローレンス
 ビエール、ツーラツス
 ボーレ、ルブラン
 小山号
 五月下旬六月中旬共差異ナキモノ
 オノングガ、
 バツス、クラツサン
 フレミツシユ、ビユータイ
 ルイズボンス、ド、ジェルシー
 四、摘斷ヲ行フトキハ中果枝ノ成生ヲ多カラシムルノ効果アリ隨テ「クラツサン」「ダングレーム」ノ如キ特ニ中果枝ニ良果ヲ結ブ品種ニアリテハ結實ニ及ホス影響一層大ナルモノアルベシ

第九 洋梨摘果時期試験

本試験モ前年來繼續施行セルモノニシテ洋梨ニ對スル摘果期ノ早晚ガ花芽ノ成生ニ如何

ナル影響ヲ及ホスヤヲ檢センガ爲洋梨八種ニツキ左記ノ區別ニヨリ試驗セリ

- 一、開花前花芽數ノ約三分ノ一ヲ殘ラズ摘蓄スルモノ
- 二、落花後直チニ花芽數ノ約三分ノ一乃至二分ノ一ノ幼果ヲ殘ラズ摘去スルモノ
- 三、袋掛前一回普通ニ摘果スルモノ

備考、第一及第二ハ何レモ袋掛前普通ノ摘果ヲ行ヒタリ

成績ノ大要左ノ如シ

- 一、シユージェット、ドバグエー、バートレット、クラツサン、ローレンス、ダングレームニア
リテハ早時摘果ノ花芽成生上有効ナルヲ認メタルコト前年ニ同シ
- 二、バートレット、ローレンスノ如キ副芽ノ伸長シ易キ品種ニアリテハ早ク摘果スルトキ
ハ副芽ノ伸長數ヲ増加セシムル傾向ヲ認メタリ然レドモ「バートレット」ニアリテハ副
芽伸長枝ノ約五割ハ五寸内外ノ中果枝ヲ形成シ却テ良好ナル結果ヲ齎シタリ
- 三、クレイルジュー、エフ、キー、ボアール、アルデイ等ニアリテハ特ニ早時摘果ノ効果ヲ認
メス尙クレイルジュー「ニアリテハ從來早時摘果ニヨリテ短果枝ノ枯死ヲ防止シ得ル
コトヲ認メタルモ本年ノ成績ニヨレバ各區共枯死數六割内外ニ及ヒ特ニ其差ヲ認ム
ル能ハザリキ

第十 洋梨採收期試驗

本試驗ハ前年來繼續施行セルモノニシテ洋梨各品種採收ノ適期ヲ知ルト同時ニ採收期
ノ早晚カ後熟日數ノ長短ニ及ホス關係ヲ檢シ以テ輸送販賣上ノ參考ニ供セントスルニ
アリ供試果實ハ本場果樹園產(山麓ノ平地)ノモノヲ用ヒタルモ尙參考ノ爲當業者ヨリ山
地產ノモノヲ購入シテ使用シタリ成績ノ概要左ノ如シ

甲、本場果樹園產

アンドレ、デボールト

採收 月日	採收 日數	後熟 日數	平均 日數	後熟 日數	平均 日數	後熟 日數	平均 日數
7.3	6月29	20	414	395	0.75	21.4	26
20	20	20	414	395	0.46	20.7	26.0
427	414	395	0.46	20.7	26.0	7	5
395	395	0.46	20.7	26.0	7	5	5
0.75	0.46	20.7	26.0	7	5	5	5
21.4	20.7	26.0	7	5	5	5	5
26	26.0	7	5	5	5	5	5
7	7	5	5	5	5	5	5
5	5	5	5	5	5	5	5

7.6	7.9	7.12	7.15
20	20	20	20
478	506	565	544
457	489	555	533
0.44	0.34	0.18	0.20
23.9	25.3	28.3	27.2
26	28	37	34
6	6	4	4
3	3	3	2
果實一様ニ發育セシモ果 梗尚離レズ肩部及腹部ニ カケ青味褪消シ前回ヨリ ハ稍進ミタルガ如シ	果實固有大サニ達セシ モ外觀其他前回ノ如シ	果實大ニ發育セリ果梗稍 容易ニ離ル帶黄淡綠色白 粉ヲ装ヒ前回ヨリハ色進 ミタリ	全上大果ハ淡黄綠色進ミ 稍遅キ感アリ既ニ果心腐 敗ニ傾ケル果アリ
果梗ノ先端ノミ萎縮シ果 肉質緻密トナリ滋味ヲ減シ 固有ノ香味ニ近キモ尚甘味 稍不足シ酸味強キカ	全上一般ニ青味強キモ皮 面滑澤ナリ	果皮果梗共ニ萎縮セズ果 皮ノ色ハ稍黄色ヲ増シタ ルノミ滑澤ナリ	淡黄綠色萎縮セズ
肉質稍緻密解ケ多汁トナリ 滋味ナク酸味アルモ甘味ナ リテ良好ナリ固有ノ香味ナ シ	肉質稍緻密解ケ多汁トナリ 滋味ナク酸味アルモ甘味ナ リテ良好ナリ固有ノ香味ナ シ	肉質粗トナリシモ甘味及香 味有ス而モ採收期遅レタ ルア觀リ	

右ノ成績ニ依レバ本種ノ採收適期ハ七月九日前後ナルカ如シ

一、採收期ト果ノ發育及外觀ノ採收期ノ早晚ニヨリ果ノ大サニ大ナル差アリ尚採收期早
キモノハ後熟果ノ光澤ナク鈍黄色ナルモ適期ニ近ツクニ從ヒ光澤良好トナル

二、採收期ト後熟日數及食期ノ其差大ナリ

三、採收期ト品質ノ採收早キモノハ滋味及酸味強ク肉質粗ナリ而シテ遅キモノハ肉質粗
且脆弱トナル

7.10	7.15	7.20	7.25
10	10	10	10
263	277	320	398
251	270	310	383
0.45	0.25	0.31	0.38
26.3	27.7	32.0	39.8
31.0	34.0	34.0	50.0
6	5	5	5
3-4	4	3	3
發育良好、円形ニ近ク肥大 セリ帶黄淡綠色ハ粉ヲ装ヒ中 ニハ紫紅斑ヲ表ハセルアリ 果梗ノ離脱ハ容易ナラズ	果梗稍容易ニ離レ果ノ發育良 好円形ニ近キモノ多シ果皮淡 黄綠色光澤アリ外觀ヨリ見 ルハ採收適期ニ達セルガ如シ	果梗容易ニ離レ各果固有ノ シ前狀ニ達セリ白黄綠色ヲ呈 シ前回ヨリ色淡ク進メリ	全上、果實一層大白粉厚ク 外觀良好
後熟當時ノ状態	後熟當時ノ状態	全上	全上
品	品	品	品
質	質	質	質
肉質稍緻密多汁甘味尚 足ラサルモ大体ニ良好	肉質稍緻密ニシテ溶解シ 甘味アリ尚香氣ヲ有セル ナリ	肉質能ク溶ケ多汁香氣ア リ甘味酸味適度良好ナリ 但シ甘味稍不足ノ感アル モ天候ノ爲ナラン	肉質緻密トナリ能ク溶ケ 多汁甘味能ク微酸及香氣 アリ固有ノ味ナリ

クラツプス、フエボリツト

本種採收ノ適期ハ七月二十日ヨリ二十五日迄ノ間ナリ

本種ハ短果枝ニ生セル果實常ニ發育良好ニシテ圓形ナルヲ見ル

ドクトル、ジュール、ギユイヨ

採日	8.15	8.7	7.30	7.25	7.20	7.15	採日
個數	20	30	30	30	30	30	個數
重量	1.345	1.905	1.780	1.572	1.474	1.274	重量
後熟歩合	1.350	1.866	1.736	1.518	1.431	1.231	後熟歩合
平均重量	0.11	0.21	0.25	0.34	0.29	0.34	平均重量
果大	66.5	63.5	59.3	52.4	49.1	42.5	果大
後熟日數	98	83	78	62	67	50	後熟日數
期食	5	6	6	6	6	7	期食
採收當時ノ状態	4	5	5	5	9	4	採收當時ノ状態
後熟當時ノ状態	果皮淡黄緑色果梗容易ニ離ル	果梗容易ニ離ル、ヲ待ツテ採收スルヲ可トス	果梗容易ニ離ル、ヲ待ツテ採收スルヲ可トス	果梗容易ニ離ル、ヲ待ツテ採收スルヲ可トス	果梗容易ニ離ル、ヲ待ツテ採收スルヲ可トス	果梗容易ニ離ル、ヲ待ツテ採收スルヲ可トス	後熟當時ノ状態
品	全上	全上	全上	全上	全上	全上	品
質	肉質極メテ粗ナルモ甘味強シ、汁液ハ寧ロ少シ、尙纖維	肉質極メテ粗ナルモ甘味強シ、汁液ハ寧ロ少シ、尙纖維	肉質極メテ粗ナルモ甘味強シ、汁液ハ寧ロ少シ、尙纖維	肉質極メテ粗ナルモ甘味強シ、汁液ハ寧ロ少シ、尙纖維	肉質極メテ粗ナルモ甘味強シ、汁液ハ寧ロ少シ、尙纖維	肉質極メテ粗ナルモ甘味強シ、汁液ハ寧ロ少シ、尙纖維	質

右ノ績成ニ依レバ本種ノ採收適期ハ七月二十五日前後ニシテ果皮ノ綠色褪消シテ白黄

採日	8.7	8.1	採日
個數	20	20	個數
重量	643	590	重量
後熟歩合	625	564	後熟歩合
平均重量	0.28	0.44	平均重量
果大	32.2	29.5	果大
後熟日數	37	—	後熟日數
期食	7	8	期食
採收當時ノ状態	4	6	採收當時ノ状態
後熟當時ノ状態	果梗容易ニ離ル、外観同ジ	果梗容易ニ離ル、外観同ジ	後熟當時ノ状態
品	全上	全上	品
質	肉質極メテ粗ナルモ甘味強シ、汁液ハ寧ロ少シ、尙纖維	肉質極メテ粗ナルモ甘味強シ、汁液ハ寧ロ少シ、尙纖維	質

色ヲ加ヘ果梗容易ニ離ル、ヲ待ツテ採收スルヲ可トス
 一、採收期ト果實ノ發育 大ナル差異アリ採收期遅キ程其重量ヲ増加スルコト極メテ大
 サリ之レ本種ハ最後迄果ノ發育ヲ繼續スル爲ナラン
 二、採收期ト後熟日數及食期 採收期早キモノハ後熟日數稍長キモ食期ニハ大ナル差異
 ナキガ如シ
 三、採收期ト品質 採收早キモノハ肉質粗ク且纖維ヲ感シ甘味不足シ尙僅カニ苦味ヲ覺
 エ遅キモノハ肉質粗且特ニ脆弱トナリ多汁ナラザルニ至ル

オリエンタル

採日	8.10	8.5	採日	8.20	8.14
個數	20	20	個數	20	20
重量	848	945	重量	755	790
後熟減量	817	895	後熟減量	745	774
歩合	0.37	0.53	歩合	0.13	0.20
平均重量	42.0	47.0	平均重量	32.3	39.5
果大	48	59	果大	44	52
後熟期	7	9	後熟期	6	6
食期	4	4	食期	5	5
採收當時ノ状態	全上	果梗稍容易ニ離ル、果皮淡褐、黄緑色ヲ呈シ一面ニ錆ヲ散在セリ	採收當時ノ状態	前回ニ全ジ	果梗容易ニ離レ、色亦前回ヨリ進ミタリ
後熟當時ノ状態	全上	果皮黄褐色ヲ呈シ果梗稍萎縮セルアリ僅カニ青味ヲ有ス	後熟當時ノ状態	全上	果梗ノミ稍萎縮セリ、黄褐色ヲ呈シ、光澤アリ、完全セバ褐黄色全ク青味ヲ失フ
品質	一様ニ後熟シ、淡黄褐色、濃ク僅カニ青味ヲ帯ベルアリ果梗ノ端稍萎ム、光澤ハ少シ	果肉良好、多汁甘味アルモ酸味強ク且澁味アリ、長形ノモノ澁味強シ	品質	全上、良好、特ニ甘味強シ	全上、良好ナリ

以上ノ成績ニ依レバ本種採收ノ適期ハ八月七日ヨリ中旬ニシテ果皮帶黄淡綠色トナリ白粉ヲ装ヒタル後採收スルヲ可トス本種ハ採收期早ケレバ澁味ヲ有スルモ甘味強キヲ以テ稍遠隔ノ地ニ輸送セントスル場合ハ八月月上旬採收スルモ可ナリ

エフ、イー、ポアール

採日	8.15	8.10	採日	8.20	8.15
個數	5	5	個數	20	20
重量	293	275	重量	980	85.0
後熟減量	283	268	後熟減量	945	819
歩合			歩合	0.36	0.36
平均重量	56	61	平均重量	49.0	43.0
果大			果大	68	51
後熟期			後熟期	7	7
食期			食期	3	4
採收當時ノ状態	全上尚色進ミ白粉ヲ装ヘ	果ノ發育良果梗容易ニ離レ果皮帶黄緑色尚青シ	採收當時ノ状態	全上	果梗容易ニ離ル、果皮淡褐、黄緑色ヲ呈シ一面ニ錆ヲ有ス
後熟當時ノ状態	採收後八日目三箇ハ淡黄褐色トナリ光澤アリ肉質柔軟溶ケルモ粗澁多シ汁少ク汁ナラズ極メテ淡泊ナリ	味強キニ而モ果心腐敗シタルカ如シ味香氣高キモ既ニ採收遅レタルカ如シ	後熟當時ノ状態	全上	鈍キ黄褐色稍青味ヲ止メタルアリ錆多キ故光澤不良ナリ
品質	肉質粗、果肉一様ニ後熟セズ、堅キ部アリ甘酸ノ度宜敷キモ採收期遅レタル感アリ	肉質脆ク、果肉一様ニ後熟セズ、堅キ部アリ甘酸ノ度宜敷キモ採收期遅レタル感アリ	品質	全上良好	全上良好

右ノ成績ニ依レバ本種ノ採收適期ハ八月十日乃至十五日ノ間ナリ尚本種ハ果形不揃ニシテ長短二種ノ果實アリ長形ノモノハ一般ニ固有ノ味ヲ表ハスモ短形ノモノハ香味淡泊ナル傾向アリ

フレミツシユ、ビユートイ

本年ハ結果極メテ少カリシ爲果實ハ早ク發育シタル爲カ普通採收期ニ採收セルモ何レ

モ後熟状態不良試験ノ成績ヲ知り難シ

ローレンス

月採 日	採 取 個 数	重 量	後 熟 歩 合	均 平	個 重 量	日 後 熟 期	採 收 時 ノ 状 態	後 熟 時 ノ 状 態	品 質
8.10	20	781	749	39.5	48	4	發育良果、皮未ダ容易ニ離 レズ、果皮帯黄緑、肩部淡褐 色ヲ帶フ	帯緑、淡黄色、光澤ナシ、果 梗ノ端萎縮セリ	肉質緻密能ク溶ケ多汁甘味 アリ、良好但シ本種トシテハ 甘味稍不足ノ感アリ、尚僅カ ニ澁味ヲ感ズ
8.15	20	755	734	0.28	47	6	果梗稍容易ニ離ル、果ノ發 育良、果皮帯黄綠色	全 上	肉質甚緻密溶解シ、多汁甘味 強ク固有ノ香味ナリ
8.20	20	724	720	0.05	54	6	果梗容易ニ離ル、外觀全上	全 上	全 上
8.25	20	720	707	0.18	43	4	全 上	全上、綠色稍強シ	全上良好特ニ甘味強シ
8.30	20	747	730	0.24	66	3	果梗容易ニ離レ、當時落果 スルモノアリ、稍黄色ヲ増セリ	熟度稍不揃ナリ、果皮縁黄 色	果肉稍粗ナリ、甘味強ク多汁 塊粒ヲ感ズ
9.5	20	655	632	0.35	50	3	全 上	全 上	全上、尚塊粒ヲ増加セリ

以上ノ成績ニ依レバ本種採收ノ適期ハ八月二十日前後ナリ
 一、本種ハ採收期ノ早晚ニヨリ果實ノ大サニ大ナル差異ヲ見ズ、八月中旬既ニ固有ノ大サ
 ニ達ス
 一、採收期遅ル、時ハ尚綠色ノ多キ内ニ後熟シ、外觀不良ナルノミナラス、食期短カク且塊
 粒ヲ増シ又甘味ハ寧ロ餡ノ如キ味トナル故ニ一般ニ採收ハ早キニ利アリ

バートレット

月採 日	採 取 個 数	重 量	後 熟 歩 合	均 平	個 重 量	日 後 熟 期	採 收 時 ノ 状 態	後 熟 時 ノ 状 態	品 質
8.15	30	1,339	1,304	0.26	44.6	7	果梗ノ離脱稍容易ナリ、果 ノ發育良、果皮淡黄綠色、 色亦進ミタリ	縮スルニ後熟シ、果梗ノ端萎 縮スルモ、果皮ハ萎マズ、果 皮帯緑、淡褐色ヲ呈シ、稍 餘程良キ味ナリ	肉質稍粗ナルモ溶解シ、多 汁、甘味アルモ酸味稍強シ、 但シ
8.20	30	1,363	1,324	0.29	53	8	全 上	全 上	光澤ヨシ、肉質稍緻密トナリ ハ、甘味強ク微酸アリ、前 回ヨリ
8.25	30	1,460	1,435	0.17	64	7	果ノ大サ普通トナリ、果梗 容易ニ離レ、果皮帯黄緑、 色外観良好トナレリ	全上果皮淡褐色、黄色ヲ呈シ 光澤良好ナリ	全 上
8.30	30	1,467	1,446	0.14	59	5	全上、尚色進ム	全 上	肉質柔軟多汁、甘味強ク、特 有ノ香氣ヲ有シ、良好ナリ

8.20	月採 日收	9.5	8.30	8.25
20	數個	10	10	20
690 _g	量重	530	617	1.164
659 _g	量重 後熱 歩合	517	604	1.133
0.45	均平 個重量	0.25	0.21	0.27
38.5	果大 日數	53.0	61.7	58.2
44 _g	後熱 期食	62	78	84
8	採收當時ノ状態	6	6	7
5	後熟當時ノ状態	3	4	4
果皮稍容易ニ離レ發育良 果梗帶褐淡黄綠色ヲ呈ス	後熟當時ノ状態	果梗容易ニ離レ、锈一面 ニ多ク外觀不良ナリ	果梗極メテ容易ニ離ル、 外觀全上	果梗容易ニ離レ、發育良 果皮淡黄綠色、果皮锈多 シ尙肩部褐色ヲ帶ブ
略ボ一様ニ後熟シ帯綠黄 褐色肩部淡色ナリ果梗萎 縮シ光澤ナシ	品	全上	全上	全上青味ヲ留ムルモノ少 ナク光澤前回ヨリ稍良シ
肉質稍粗ク溶解スルモ未ダ 多汁ト云ヒ難ク甘味ハ強 シ、稍塊粒アリ	質	肉質脆弱トナリ甘味強キモ 尙酸澁味アリ稍劣ル	全上好良	肉質稍緻密トナリ甘味多汁 而シ本種トシテハ最良ノ香 味ヲ表セリ

以上ノ成績ニ依レバ本種採收ノ適期ハ八月下旬ナリ
一、採收期ト品質 採收期早キモノハ多汁ナラズ且滋味強ク又遅レタルモノハ果肉脆弱
トナリ口當リ極メテ不良ナリ故ニ採收ノ適期ヲ得ル事肝要ナリ
本種ハ後熟日數短カク且後熟後ノ日持不良ナレバ遠地ノ輸送困難ナリ
ホワイト、ドワイエンヌ

8.20	8.15	月採 日收	9.15	97
20	20	數個	30	30
1.164	1.144 _g	量重	1.500	1.528
1.100	1.087 _g	量重 後熱 歩合	1.487	1.503
0.46	0.50	均平 個重量	0.09	0.16
58.2	57.2	果大 日數	50	50.9
75	72 _g	後熱 期食	72	62
7	7	採收當時ノ状態	5-6	7
4	4	後熟當時ノ状態	5	5
全上	多シ 果梗ノ離脱容易發育良好 果皮帶褐淡綠瘡痂斑點 メ光澤不良	後熟當時ノ状態	全上	全上
全上	果肉純白美シ	品	全上	全上
全上肉質モ良好トナリ稍緻 密トナリ脆カラズ甘味強ク 良好ナルモ澁味ヲ有ス	ハ云ヒ難シ	質	肉質稍粗、脆ク塊粒ヲ混シ 溶解完全ナラズ甘酸共ニ強 ク可ナルモ肉質不良ナリ	全上好固有ノ味ナリ

以上ノ成績ニ依レバ本種採收ノ適期ハ八月下旬ヨリ九月初迄ナルカ如シ採收期ニ遅ル
、時ハ肉質粗トナリ且果心ノ周圍迄完全ニ溶解セザルモノヲ生シ尙塊粒ヲ混スルコト
アリ本種ハ外部ヨリ過熟トナル
ボーレ、アルデイ

9.20	9.15	9.8	9.2	8月27	採日 月日	9.8
10	10	10	10	10	數個	5
460	498	496	515	536 _g	量重	248
447	483	487	497	511 _g	後熟 重量歩合	235
0.28	0.30	0.18	0.35	0.48	歩合	0.52
46.0	49.8	49.6	51.5	53.6	均平 一個重量	45.8
50	55	53	67	66 _g	果大	64
7	9	7	9	11	日數 後熟	12
7	11	6	7	11	期食	11
地ニ 果梗容易ニ 一面ニ 鏽アリ	全 上	全 上	果梗容易ニ 鏽アリ、 一面ニ 鏽アリ、 帶褐緑	發育良、 果梗容易ニ 鏽アリ、 呈ス、 一面ニ 鏽アリ	採收當時ノ 状態	全 上
全 上	全 上	果梗稍萎縮セリ、 褐色ヲ呈ス、 一回ノモノニ 比スレバ、 鮮ヤカナリ	全上、 果皮萎マズ	鈍キ黄褐色ヲ呈シ、 果皮共ニ 萎縮セリ、 光澤ナシ	後熟當時ノ 状態	果梗大ニ萎縮セリ、 果皮褐 黄色鏽点及 雲状青斑アリ
全上、 稍劣ル感アリ	全上、 本種トシテハ 最良ト 認ム	肉質柔軟多 汁、 香味ヲ有ス、 纖維ハ多シ	肉質稍緻密トナリ、 多シ、 酸味アリ、 好シ	肉質稍粗ナレトモ、 能ク溶ケ、 味ヲ有セリ	品 質	全 上

9.2	8月25	採日 月日	9.5	8.30	8.25
5	10	數個	20	20	20
273	646 _g	量重	740	760	625
260	621 _g	後熟 重量歩合	?	694	?
0.48	0.39	歩合	?	0.17	-
54.6	64.6	均平 一個重量	37.0	35.3	31.3
68	72	果大	54	46	37
11	11	日數 後熟	7	6	7
8	6	期食	5	5	5
全 上	發育良、 果梗容易ニ 鏽アリ、 呈ス、 一面ニ 鏽アリ、 斑紋状ヲ ナスアリ	採收當時ノ 状態	全 上	果梗極メテ 容易ニ 鏽レ、 進ミ、 淡黄褐色 トナル	果梗容易ニ 鏽ル、 果皮帯 黄緑、 肩部 褐色ヲ 帶フ
全 上	濃黄色ヲ呈ス、 肩部ハ 淡黄色 シ、 果梗萎縮ス	後熟當時ノ 状態	全 上	熟度稍不揃ナリ、 呈シ、 光澤ナシ	果皮帯 黄緑、 光澤ナシ
肉質粗ニシテ、 甘味アルモ、 味ヲ有シ、 不良	肉質粗、 硬ク、 甘味不十分ニ シテ、 香氣ノミハ 高シ	品 質	脆キ感アリ、 塊粒アリ	肉質稍粗ニシテ、 ハ云ヒ難シ	全 上

本年ハ結果少カリシ爲果實ノ發育順調ナラズ且進ミ居リシ爲カ成績不明ナリ其關係フ
レミツシユビユーテイニ於ケルト同様ナリ
ボーレ、ルブラン

以上ノ成績ニ依レバ九月十五日前後ヲ以テ採收ノ適期トス採收期ノ早晚ト後熟日數及日持トノ關係ヲ見ルニ大ナル差異ナキヲ見ル
ルイズ、ボンヌド、ジエルシー、

採日	採日	採日	採日	採日	採日
9.30	9.20	9.15	9.8	9.2	9.2
20	20	20	20	20	20
1,079	854	906	848	850	850
1,064	839	880	839	825	825
0.14	0.18	0.29	0.11	0.29	0.29
54.0	42.7	45.3	42.4	42.5	42.5
71	50	60	52	54	54
6-12	8	10	10	11	11
9-6	13	9	6	8	8
果大ナルモ凹凸多シ、果皮淡黄 色ヲ呈ス	全上	果梗容易ニ離レ果皮淡黄 色ヲ呈ス	全上	果梗稍容易ニ離ル可ナリ ノ發育ヲナス帯褐色中 ニハ薄黒キ斑ヲ表ハセル モノアリ	果梗稍容易ニ離ル可ナリ ノ發育ヲナス帯褐色中 ニハ薄黒キ斑ヲ表ハセル モノアリ
果梗萎縮セズ果皮褐色 ヲ呈シ、一様ニ後熟ス 食期ノ始メ帯緑ナリ	全上	果梗萎縮セズ果皮褐色 ヲ呈シ、一様ニ後熟ス 食期ノ始メ帯緑ナリ	全上	果梗萎縮セリ果皮、褐色 ヲ呈シ、一様ニ後熟セリ	果梗萎縮セリ果皮、褐色 ヲ呈シ、一様ニ後熟セリ
肉質稍粗ナルモ、溶解シ多 汁甘味ニ富ミ、微酸アリ澁 味少ナシ以前ノモノヨリ 肉質劣ルモ香味ハ差ナシ	全上稍甘味不足シ前回ニ劣 ルカ如シ	肉質緻密トナリ多汁甘味強 ク澁味及微酸アリ良好固有 ノ味アリ	肉質未タ稍粗、前回ヨリ多 汁甘味強キモ、酸味澁味ア リ本種トシテ尙不十分ナリ	肉質稍粗ニシテ甘味多汁ナ レトモ酸味及澁味ヲ有シ未 ダ良好ト云フヲ得ズ	肉質稍粗ニシテ甘味多汁ナ レトモ酸味及澁味ヲ有シ未 ダ良好ト云フヲ得ズ

以上ノ成績ニ依レバ九月二十日前後カ採收ノ適期ナルガ如シ一般ニ小果ナル爲本種固
有ノ優良ナル香味ヲ表ハセルモノ少シ

グループ、モルソー

採日	採日	採日	採日	採日
10.5	9.25	9.15	9.5	9.5
20	20	20	20	20
1,465	1,794	1,784	1,679	1,679
1,442	1,774	1,760	1,653	1,653
0.16	0.11	0.14	0.26	0.26
73.3	89.7	89.2	84.0	84.0
112	128	134	113	113
12	10-13	12-14	8-13	8-13
8	7	7	5-7	5-7
全上	全上	全上	全上	全上
全上	全上	全上	全上	全上
肉質稍粗多汁甘味アルモ微 酸及澁味稍強シ(小果ノ爲 ナラン)前回ヨリ稍劣ル	全上	全上・固有ノ味ナリ	肉質稍緻密甘味強ク多汁ニ シテ微酸能ク溶ケ良好ナリ	果梗容易ニ離レ發育良好果梗稍萎縮セリ果皮白黄 白味アル淡緑色ヲ呈ス光色最モ鮮カナリ

既ニ固有ノ大サニ發育スルヲ以テ其後ハ特ニ肥大生長ヲナサマルガ如シ

ボーレ、デイエル

9.10	9.5	9.15	9.5
20	20	5	5
1,842	1,630	265	344
1,800	1,593	260	334
0.23	0.23	0.02	0.29
92.1	82.5	53.0	70.0
123	98	82	81
14	10	9	10
6	6	7	6
全上、果梗ハ容易ニ離ル	好果梗稍容易ニ離レ、發育良シ、淡褐黄綠色ヲ呈シ、锈多シ	全上	果梗容易ニ離レ、稍普通ノ發育ヲナセトモ、早害ニカ、リ居レリ、帶黄綠色ニ薄キ锈ヲ生ス
全上	後熟當時ノ状態	全上	後熟當時ノ状態
全上	品	全上	品
全上、中ニハ硬部アルモノアリ	肉質稍緻密多汁、甘味強ク、果一様ニ溶解シ、香氣アリ	全上	肉質稍緻密、甘味多汁、酸味ヲ有シ、良好ナリ

果實少カリシ爲完全ニ試験ヲ行フコト能ハサリキ

ドユシエス、ダングレーム

9.30	9.25	9.20	9.65
5	20	20	20
380	1,628	2,000	1,569
370	1,599	1,958	1,523
0.26	0.18	0.21	0.29
76.0	81.4	100.0	78.5
104	120	125	103
11-14	9-15	10-13	15
8	8	8-14	6-12
全上、果面小凹多ク且锈多シ、之レ終リナレバナリ	全上、色進ミタリ	全上、多數採收品中ヨリ取リシ爲果大ナリ	全上
全上	全上	全上	全上
全上	全上、稍肉質粗ナリ	全上、良好	全上固有ノ味ナリ、凹凸多キ果實ハ硬部アリ

以上ノ成績ニヨレバ本種ハ九月上中旬ヲ採收ノ適期ト認メラル而シテ他ノ早種ニ比シ採收ノ適期間長シ故ニ販賣上便ナリ果ノ發育ハ九月上中旬既ニ固有程度ニ達ス本種ハ時ニ果肉中溶解セサル部分アリ而シテ其ノ多少ハ採收期トノ關係ニツキ見ルニ遅キモノハ稍多キ傾アルモ其他果實肥大ノ状態ニ依ルコトアリ概シテ凹凸多キ果ニ不溶解部ノ多キ傾向ヲ認メタリ

ボーレ、クレイルジユト

採日	9.10	9.15	9.20	9.25	9.30	10.7	採日	9.10	9.15	9.20	9.25	9.30	10.7
個數	20	20	20	20	20	20	個數	20	20	20	20	20	20
重量	1.382g	1.516	1.341	1.348	1.191	1.000	重量	1.382g	1.516	1.341	1.348	1.191	1.000
後熟歩合	1.355g	1.490	1.312	1.327	1.174	.985	後熟歩合	1.355g	1.490	1.312	1.327	1.174	.985
平均重量	0.2	0.17	0.22	0.16	0.14	0.15	平均重量	0.2	0.17	0.22	0.16	0.14	0.15
個重量	69.1	75.8	67.5	67.4	58.6	50.0	個重量	69.1	75.8	67.5	67.4	58.6	50.0
日數	86g	95	77	80	78	59	日數	86g	95	77	80	78	59
後熟期	16	15	13	12	11-13	11	後熟期	16	15	13	12	11-13	11
採收當時ノ状態	8-12	12-17	9-14	9	7-9	7	採收當時ノ状態	8-12	12-17	9-14	9	7-9	7
後熟當時ノ状態	全上	全上	全上	全上	全上	全上	後熟當時ノ状態	全上	全上	全上	全上	全上	全上
品	果皮淡黄褐色ヲ呈シ、肉質稍粗ニシテ、柔軟ナレト	果皮淡黄褐色ヲ呈シ、肉質稍粗ニシテ、柔軟ナレト	果皮淡黄褐色ヲ呈シ、肉質稍粗ニシテ、柔軟ナレト	果皮淡黄褐色ヲ呈シ、肉質稍粗ニシテ、柔軟ナレト	果皮淡黄褐色ヲ呈シ、肉質稍粗ニシテ、柔軟ナレト	果皮淡黄褐色ヲ呈シ、肉質稍粗ニシテ、柔軟ナレト	品	果皮淡黄褐色ヲ呈シ、肉質稍粗ニシテ、柔軟ナレト	果皮淡黄褐色ヲ呈シ、肉質稍粗ニシテ、柔軟ナレト	果皮淡黄褐色ヲ呈シ、肉質稍粗ニシテ、柔軟ナレト	果皮淡黄褐色ヲ呈シ、肉質稍粗ニシテ、柔軟ナレト	果皮淡黄褐色ヲ呈シ、肉質稍粗ニシテ、柔軟ナレト	果皮淡黄褐色ヲ呈シ、肉質稍粗ニシテ、柔軟ナレト
質	肉質稍粗ニシテ、柔軟ナレト	肉質稍粗ニシテ、柔軟ナレト	肉質稍粗ニシテ、柔軟ナレト	肉質稍粗ニシテ、柔軟ナレト	肉質稍粗ニシテ、柔軟ナレト	肉質稍粗ニシテ、柔軟ナレト	質	肉質稍粗ニシテ、柔軟ナレト	肉質稍粗ニシテ、柔軟ナレト	肉質稍粗ニシテ、柔軟ナレト	肉質稍粗ニシテ、柔軟ナレト	肉質稍粗ニシテ、柔軟ナレト	肉質稍粗ニシテ、柔軟ナレト

以上ノ成績ニ依レバ九月二十日前後ヲ以テ採收ノ適期ト認ム
本種モ亦九月中旬既ニ固有ノ大サニ達シ以後特ニ果ノ發育スルヲ認メズ

採日	9.15	9.20	9.25	9.30	採日	9.15	9.20	9.25	9.30
個數	20	20	20	20	個數	20	20	20	20
重量	936g	843	843	510	重量	936g	843	843	510
後熟歩合	888g	793	948	487	後熟歩合	888g	793	948	487
平均重量	0.51	0.59	0.36	0.45	平均重量	0.51	0.59	0.36	0.45
個重量	46.8	42.2	49.2	51.0	個重量	46.8	42.2	49.2	51.0
日數	59g	50	70	60	日數	59g	50	70	60
後熟期	26	21-30	23	24	後熟期	26	21-30	23	24
採收當時ノ状態	6-9	7	5-7	4-7	採收當時ノ状態	6-9	7	5-7	4-7
後熟當時ノ状態	全上	全上	全上	全上	後熟當時ノ状態	全上	全上	全上	全上
品	果皮黄褐色ヲ呈シ、肉質稍粗ニシテ、柔軟ナレト	果皮黄褐色ヲ呈シ、肉質稍粗ニシテ、柔軟ナレト	果皮黄褐色ヲ呈シ、肉質稍粗ニシテ、柔軟ナレト	果皮黄褐色ヲ呈シ、肉質稍粗ニシテ、柔軟ナレト	品	果皮黄褐色ヲ呈シ、肉質稍粗ニシテ、柔軟ナレト	果皮黄褐色ヲ呈シ、肉質稍粗ニシテ、柔軟ナレト	果皮黄褐色ヲ呈シ、肉質稍粗ニシテ、柔軟ナレト	果皮黄褐色ヲ呈シ、肉質稍粗ニシテ、柔軟ナレト
質	肉質稍粗ニシテ、柔軟ナレト	肉質稍粗ニシテ、柔軟ナレト	肉質稍粗ニシテ、柔軟ナレト	肉質稍粗ニシテ、柔軟ナレト	質	肉質稍粗ニシテ、柔軟ナレト	肉質稍粗ニシテ、柔軟ナレト	肉質稍粗ニシテ、柔軟ナレト	肉質稍粗ニシテ、柔軟ナレト

採收期早キモノハ食期ノ初メニハ肉質粗ク多汁ナラザルモ、充分後熟スル時ハ多汁トナリ良好トナル之ニ反シ採收期遅レタルモノハ、若キ間ハ可ナルモ、充分後熟スル時ハ粗脆トナリ甚タシク肉質ヲ損ス

ラ、フランス

10.10	10.5
10	10
532	487
508	465
0.45	0.45
53.2	48.7
65	62
23	28
9	6
全上	全上、只色稍進ミタルト 果梗容易ニ離ル
全上	全上
全上	肉質稍粗、多汁ナルモ甘味 稍乏シキ方ナリ七日目ニハ 果肉古縮ノ如ク變セリ

以上ノ成績ニ依レバ九月二十五日前後ガ採收ノ適期ナルガ如シ而シテ果實ハ九月中旬
既ニ固有ノ大サニ達ス
採收期遅ル、時ハ特ニ肉質ヲ損ス後熟日數ハ採收期ノ早晚ニヨリ差少シ
本種ハ一般ニ食期短カキヲ以テ販賣上不便ナラン

ウ井ンター、ネリス

10.15	10.5	採收 月日 數個	10.10	10.5
10	10	量重	10	10
444	462	後熟 量重	532	487
435	451	歩減 量重	508	465
0.20	0.24	歩減 均平	0.45	0.45
44.4	46.2	均平 個重	53.2	48.7
-	58	果大	65	62
13	15-19	後熟 日數	23	28
9-17	10-14	期食	9	6
ニ全ジ	果梗容易ニ離ル外観前回	採收當時ノ状態	全上	全上
萎マズ	稍黄褐色ヲ帶ビ色幾分鮮 ヤカトナリシ外變化ナシ	後熟當時ノ状態	全上	全上
果梗ハ萎縮セシモ果皮ハク微酸アリ尋常ノ味ナリ	肉質良好、多汁甘味アリ微酸 ヲ有シ良好、澁味ヲ感ジ稍 淡泊ナリ	品	全上	全上
	肉質柔軟多汁ニシテ甘味強 ク外回ヨリモ酸味ヲ減ズ良 好ナリ	質		

11.4	10.25
20	10
924	472
908	462
0.17	0.21
46.4	47.2
54	50
15	17
8-41	17
全上	全上
全上	全上
全上	全上

カーディナル、チヨーチ、ダンボアズ

10.18	10.10	採收 月日 數個	10.10	10.5
20	20	量重	10	10
1.330	1.483	後熟 量重	532	487
1.282	1.452	歩減 量重	508	465
0.36	0.21	歩減 均平	0.45	0.45
66.5	74.0	均平 個重	53.2	48.7
82	93	果大	65	62
25	20	後熟 日數	23	28
10	13	期食	9	6
全上	果梗容易ニ離レ、發育良 好淡黄綠色ノ果面ニ濃キ 錆ヲ被ムル	採收當時ノ状態	全上	全上
全上	果皮黄褐色ヲ呈シ果梗萎 縮セリ	後熟當時ノ状態	全上	全上
良好	肉質柔軟多汁甘味ナレモ澁 味強シ中ニハ澁味少キモノ アリ味不良	品	全上	全上
良好	肉質柔軟多汁ニシテ甘味強 ク外回ヨリモ酸味ヲ減ズ良 好ナリ	質		

以上ノ成績ニ依レバ十月下旬ヲ以テ採收ノ適期トスルガ如シ
二回ニ分チ採收シタルノミナレバ適期ヲ知ル能ハザルモ右二回ノ内ニテハ十月十八日
ノ方良好ナリ然レモ何レモ澁味強シ

而シテ充分後熟シ過熟ノ徴ヲ生ズル頃ニ至レバ肉質稍粗トナル傾アルモ滋味ヲ減シ食スルニ足ヲ見ル

シウゼツト、ド、バヴエー

採收日	採收日	採收日	採收日	採收日	採收日
10月20日	10月20日	10月20日	10月20日	10月20日	10月20日
20	20	20	20	20	20
1.205g	1.205g	1.205g	1.205g	1.205g	1.205g
1.146g	1.146g	1.146g	1.146g	1.146g	1.146g
0.46g	0.46g	0.46g	0.46g	0.46g	0.46g
60.3	60.3	60.3	60.3	60.3	60.3
83	83	83	83	83	83
48	48	48	48	48	48
8-27	8-27	8-27	8-27	8-27	8-27
果實固有大サニ達シ、一面濃銹ヲ蒙ル	果實固有大サニ達シ、一面濃銹ヲ蒙ル	果實固有大サニ達シ、一面濃銹ヲ蒙ル	果實固有大サニ達シ、一面濃銹ヲ蒙ル	果實固有大サニ達シ、一面濃銹ヲ蒙ル	果實固有大サニ達シ、一面濃銹ヲ蒙ル
後熟當時ノ状況	後熟當時ノ状況	後熟當時ノ状況	後熟當時ノ状況	後熟當時ノ状況	後熟當時ノ状況
品	品	品	品	品	品
質	質	質	質	質	質

以上ノ成績ニ依レバ十一月初ヲ以テ採收ノ適期トス

パツス、クラツサン

採收日	採收日	採收日	採收日	採收日	採收日
10月20日	10月20日	10月20日	10月20日	10月20日	10月20日
20	20	20	20	20	20
2.267g	2.267g	2.267g	2.267g	2.267g	2.267g
2.188g	2.188g	2.188g	2.188g	2.188g	2.188g
0.35g	0.35g	0.35g	0.35g	0.35g	0.35g
113.4	113.4	113.4	113.4	113.4	113.4
144	144	144	144	144	144
48	48	48	48	48	48
9-16	9-16	9-16	9-16	9-16	9-16
果實固有大サニ達シ、一面濃銹ヲ蒙ル	果實固有大サニ達シ、一面濃銹ヲ蒙ル	果實固有大サニ達シ、一面濃銹ヲ蒙ル	果實固有大サニ達シ、一面濃銹ヲ蒙ル	果實固有大サニ達シ、一面濃銹ヲ蒙ル	果實固有大サニ達シ、一面濃銹ヲ蒙ル
後熟當時ノ状況	後熟當時ノ状況	後熟當時ノ状況	後熟當時ノ状況	後熟當時ノ状況	後熟當時ノ状況
品	品	品	品	品	品
質	質	質	質	質	質

以上ノ成績ニ依レバ十一月初旬ガ採收ノ適期ナルカ如シ
而シテ十月下旬ニアリテモ實ハ既ニ固有ノ大サニ達シ品質亦良好トナレルモ後熟日數及食期短カシ時期遅ル、ニ從ヒ二者共ニ長クナリ只十一月十一日採收ノモノハ食期ハ却ツテ短縮セリ之後熟當時氣温上昇セル爲ナラン

ビー、バリー

採收日	採收日	採收日	採收日	採收日	採收日
10月20日	10月20日	10月20日	10月20日	10月20日	10月20日
20	20	20	20	20	20
1.205g	1.205g	1.205g	1.205g	1.205g	1.205g
1.146g	1.146g	1.146g	1.146g	1.146g	1.146g
0.46g	0.46g	0.46g	0.46g	0.46g	0.46g
60.3	60.3	60.3	60.3	60.3	60.3
83	83	83	83	83	83
48	48	48	48	48	48
8-27	8-27	8-27	8-27	8-27	8-27
果實固有大サニ達シ、一面濃銹ヲ蒙ル	果實固有大サニ達シ、一面濃銹ヲ蒙ル	果實固有大サニ達シ、一面濃銹ヲ蒙ル	果實固有大サニ達シ、一面濃銹ヲ蒙ル	果實固有大サニ達シ、一面濃銹ヲ蒙ル	果實固有大サニ達シ、一面濃銹ヲ蒙ル
後熟當時ノ状況	後熟當時ノ状況	後熟當時ノ状況	後熟當時ノ状況	後熟當時ノ状況	後熟當時ノ状況
品	品	品	品	品	品
質	質	質	質	質	質

11.11	11.4	10.28
20	20	20
884	1,091	1,104
848	1,064	1,073
0.41	0.26	0.28
44.2	54.6	55.2
63	82	100
66	33	40
47	24-56	14-56
實小ナリ	全上、採收終リナレバ果實小ナリ	全上
ク萎縮セリ	全上、果梗及肩部甚タシ	全上
全上	全上、肩部皺ナシ、後熟後ハ皺ヲ生セリ	全上

以上ノ成績ニ依レバ本種ハ十月二十日ヨリ十一月十一日迄約二十日間ノ内何レノ時期ニ採收スルモ差支ナキガ如シ

乙、當業者ヨリ購入シタル山地産果實
ドクトル、ジユール、ギユイヨ

7.20	7.16	月採日
39	42	數個
1,482	1,442	量重
1,431	1,394	後熱減量歩合
0.34	0.33	均平一個重量
38.0	34.3	果大
52	42	日數
8	8	後熟期
3	5	採收當時ノ状態
リニハ黄色ノ強キモノモア	果實發育セルモ、大小區帯緑淡褐色黄色ニシテ進ミタリ	後熟當時ノ状態
果實發育セルモ、大小區帯緑淡褐色黄色ニシテ進ミタリ	果實發育セルモ、大小區帯緑淡褐色黄色ニシテ進ミタリ	品
果實發育セルモ、大小區帯緑淡褐色黄色ニシテ進ミタリ	果實發育セルモ、大小區帯緑淡褐色黄色ニシテ進ミタリ	質

8.15	8.7	7.30	7.25
24	15	31	35
1,510	1,000	1,500	1,486
1,490	977	1,490	1,445
0.13	0.23	0.07	0.28
62.9	66.7	48.4	42.5
78	80	74	65
5-6	7	7	6-7
3	4	4	3
果皮淡黄色、白味アリ	果實甚大ニシテ果皮極薄、鮮ヤカナル褐色ヲ呈シ、光澤アリ、良好果梗稍萎ル	果形大トナリシモ、外觀帯緑淡褐色黄色ヲ呈シ、薄キモ光澤アリ、萎縮セズ	果實發育セルモ、大小區帯緑淡褐色黄色ニシテ進ミタリ
一般ニ淡色トナレリ	鮮ヤカナル褐色ヲ呈シ、光澤アリ、良好果梗稍萎ル	帯緑淡褐色黄色ヲ呈シ、薄キモ光澤アリ、萎縮セズ	果實發育セルモ、大小區帯緑淡褐色黄色ニシテ進ミタリ
果梗ノミ萎ム	鮮ヤカナル褐色ヲ呈シ、光澤アリ、良好果梗稍萎ル	帯緑淡褐色黄色ヲ呈シ、薄キモ光澤アリ、萎縮セズ	果實發育セルモ、大小區帯緑淡褐色黄色ニシテ進ミタリ
淡黄褐色ニシテ斑状ニ淡	鮮ヤカナル褐色ヲ呈シ、光澤アリ、良好果梗稍萎ル	帯緑淡褐色黄色ヲ呈シ、薄キモ光澤アリ、萎縮セズ	果實發育セルモ、大小區帯緑淡褐色黄色ニシテ進ミタリ
肉質柔軟カキモ、脆ク粗ニシ	鮮ヤカナル褐色ヲ呈シ、光澤アリ、良好果梗稍萎ル	帯緑淡褐色黄色ヲ呈シ、薄キモ光澤アリ、萎縮セズ	果實發育セルモ、大小區帯緑淡褐色黄色ニシテ進ミタリ
テ且多汁トハ云ヒ難ク甘味	鮮ヤカナル褐色ヲ呈シ、光澤アリ、良好果梗稍萎ル	帯緑淡褐色黄色ヲ呈シ、薄キモ光澤アリ、萎縮セズ	果實發育セルモ、大小區帯緑淡褐色黄色ニシテ進ミタリ
強ク酸味ナク劣ル採收期遅	鮮ヤカナル褐色ヲ呈シ、光澤アリ、良好果梗稍萎ル	帯緑淡褐色黄色ヲ呈シ、薄キモ光澤アリ、萎縮セズ	果實發育セルモ、大小區帯緑淡褐色黄色ニシテ進ミタリ
レタリ此ノモノモ後熟ノ末	鮮ヤカナル褐色ヲ呈シ、光澤アリ、良好果梗稍萎ル	帯緑淡褐色黄色ヲ呈シ、薄キモ光澤アリ、萎縮セズ	果實發育セルモ、大小區帯緑淡褐色黄色ニシテ進ミタリ
期ニ至レバ多汁トナル	鮮ヤカナル褐色ヲ呈シ、光澤アリ、良好果梗稍萎ル	帯緑淡褐色黄色ヲ呈シ、薄キモ光澤アリ、萎縮セズ	果實發育セルモ、大小區帯緑淡褐色黄色ニシテ進ミタリ

右ノ成績ニ依レバ本種ノ採收適期ハ七月二十五日前後ナルカ如シ

一、採收期ト果ノ發育 大ナル差異アリ採收期遅キ程其重量ヲ増加スルコト大ナリ

二、採收期ト後熟日數及食期 採收期ノ早キモノハ後熟日數ニ於テハ稍長キモ後熟後ノ日持即チ食期ハ大ナル差ナキガ如シ

三、採收期ト品質 採收早キモノハ肉質粗ク且纖維ヲ感スルコト多ク甘味亦不足シ且僅カニ苦味ヲ感ス遅キモノハ肉質粗且脆弱トナリ多汁ナラサルニ至ル故ニ寧ロ早キ方可ナリ

パトレット

採日	採日	採日	採日	採日	採日	採日
9.15	9.5	8.30	8.25	8.20	8.15	8.15
24	27	26	32	36	38	38
1.464	1.482	1.392	1.449	1.500	1.365	1.365
1.445	1.464	1.366	1.436	?	1.340	1.340
0.13	0.12	0.19	0.09	—	0.18	0.18
61.0	54.9	53.5	45.3	41.6	35.9	35.9
71	77	66	—	56	44	44
3-4	6-8	7	7-9	9	8-9	8-9
3-4	4	4	5	4	5	5
ノ上、特ニ色進ミタルモ六個アリ	果ノ大サ外観全前加ヘタ	果實能ク肥大シ能ク揃フ	果實ノ發育良色進ミ淡黄淡褐ヲ帶ブルアリ	果ノ大サ普通果皮平滑差異ヲ認メズ	果實未タ小サク果皮平滑ニシテ袋紙ノ關係上淡褐ヲ呈セルアリ	果實未タ小サク果皮平滑ニシテ袋紙ノ關係上淡褐ヲ呈セルアリ
好ナリ	美ハシキ淡黄色ヲ呈シ光澤アリ	滑澤淡褐色ヲ呈シ青味	萎縮セズ	果實淡褐色外観良好ニシテ果實ノ萎縮シ果皮ニシテ果實ノ萎縮シ果皮ニシテ	全部ニシテ後熟シ果實ノ萎縮シ果皮ニシテ	全部ニシテ後熟シ果實ノ萎縮シ果皮ニシテ
肉脆ク果心ノ方硬シ	多汁ニシテ酸味少ク甘味多シ	味微酸アリ	味微酸アリ	味微酸アリ	味微酸アリ	味微酸アリ

備考 第五回九月五日第六回九月十五日採收ノモノハ採收後數日ナラズシテ能ク着色シ而モ果肉ハ尙堅ク粗ニシテ品質不十分ナルモノアリ且此種ノ果ハ更ニ一二日後熟後ノ日持良好ナラズ

一 採收期ト果ノ發育 其早晚ニヨリ大ナル差アリ
 二 採收期ト後熟日數及食期 採收期ノ早キモノハ後熟日數ニ於テ稍長キモ食期ニ於テハ大ナル差ナシ
 三 採收期ト品質 採收期遅キモノハ特ニ肉質粗脆トナリ且果心ノ周圍溶解セザルモノ多シ

本試験ニ供シタル果實ノ後熟日數ガ本場産果實ニ比シ稍長キハ注目スベキ事實ニシテ前者ハ山地ニ生産シ後者ハ山麓ノ平地ニ産セルモノニシテ排水良好ナル山地ニ産シタル果實ハ能ク遠路ノ輸送ニ堪ユルノ素質ヲ有スルモノ、如シ

好本号

採日	採日	採日	採日	採日	採日	
9.25	9.20	9.15	9.10	9.5	9.18	
20	19	19	21	20	17	
1.527	1.495	1.525	1.548	1.490	.975	
1.486	1.434	1.465	1.486	1.454	953	
0.27	0.41	0.39	0.4	0.24	0.23	
76.4	78.7	80.3	73.7	74.5	57.4	
105	89	107	102	97	70	
12-17	14-23	17-19	19-24	11-16	6-13	
9-19	10-14	10	7-10	9-14	6-8	
尚全 上果皮比較 的平滑ナリ	淡黄緑色地ニ 雲紋状ニ濃 キ錆ヲ被ムリ 中ニ黄褐ヲ 表ハセルアリ	全上	全上、大サ 外観共ニ差異 ナシ	果實固有ノ大 サニ達セシ モ稍不揃淡 黄緑色ニ稍 濃キ錆ヲ有 スルモノアリ 色ハ稍進ミ タリ	前同ニ比シ更 ニ大サヲ加 ヘ整齊果面 ノ凹凸少シ 黄緑色ニシテ 下半部ニ淡 褐ノ錆ヲ有 シ向陽面白 色トナクモ ナレリ	發育完全普通 ノ大サニ達 シタルモ前 面起伏多シ 淡黄緑色ヲ 呈シ白味アリ
全上一般ニ 稍淡色ナリ 中ニ肉質稍 粗ナル感アル モ多汁ニシテ 味ハ酸味ナ クナリ	全上	呈シ後熟シ 淡黄緑色ヲ アリ果梗ノ 萎縮少シ	淡黄褐色ヲ 呈シ僅カニ 青味アリ 錆多キ者ハ 不良果梗ハ 萎縮セリ果 皮ハ異状ナ シ	褐黄色ニ稍 青味ヲ留メ 外観ハ良好 ナラズ果梗 萎縮スルモ 果皮萎縮セ ズ	鈍黄褐色、僅 カニ青味アリ 味ヲ止メ果 梗ノミ僅カ ニ萎凋ス	外観全上 果皮果梗萎 縮セズ
品	品	品	品	品	品	品
肉質稍粗ナル 感アルモ多汁 ニシテ味ハ酸 味ナクナリ	品質全上良好 ナルモ一般ニ 不溶解部ヲ有 スル果多シ	果肉同様ニ 後熟シ肉質 良好多汁 甘味強ク固 有ノ味ナリ	全上此ノ内 ニハ各回中 最モ良好ナル 香味ヲ有ス ル果アリ	果肉能ク溶 ケ極メテ多 汁ニシテ塊 粒ヲ感スル モノナリ	全上、固有 ノ香味ヲ有 ス	全上前回ノ モノアリ稍 甘味ヲ有ス

ハ氣温ノ關係ナランカ尙第五回ノモノハ採收終リニシテ一般ニ果實小ナリ之等モ後熟日數ニ影響セシナルベシ

デユシエス、ダングレーム

採日	採日	採日	採日	採日	採日
9.25	9.20	9.15	9.10	9.5	9.18
20	19	19	21	20	17
1.527	1.495	1.525	1.548	1.490	.975
1.486	1.434	1.465	1.486	1.454	953
0.27	0.41	0.39	0.4	0.24	0.23
76.4	78.7	80.3	73.7	74.5	57.4
105	89	107	102	97	70
12-17	14-23	17-19	19-24	11-16	6-13
9-19	10-14	10	7-10	9-14	6-8
尚全 上果皮比較 的平滑ナリ	淡黄緑色地ニ 雲紋状ニ濃 キ錆ヲ被ムリ 中ニ黄褐ヲ 表ハセルアリ	全上	全上、大サ 外観共ニ差異 ナシ	果實固有ノ大 サニ達セシ モ稍不揃淡 黄緑色ニ稍 濃キ錆ヲ有 スルモノアリ 色ハ稍進ミ タリ	前同ニ比シ更 ニ大サヲ加 ヘ整齊果面 ノ凹凸少シ 黄緑色ニシテ 下半部ニ淡 褐ノ錆ヲ有 シ向陽面白 色トナクモ ナレリ
全上一般ニ 稍淡色ナリ 中ニ肉質稍 粗ナル感アル モ多汁ニシテ 味ハ酸味ナ クナリ	全上	呈シ後熟シ 淡黄緑色ヲ アリ果梗ノ 萎縮少シ	淡黄褐色ヲ 呈シ僅カニ 青味アリ 錆多キ者ハ 不良果梗ハ 萎縮セリ果 皮ハ異状ナ シ	褐黄色ニ稍 青味ヲ留メ 外観ハ良好 ナラズ果梗 萎縮スルモ 果皮萎縮セ ズ	鈍黄褐色、僅 カニ青味アリ 味ヲ止メ果 梗ノミ僅カ ニ萎凋ス
品	品	品	品	品	品
肉質稍粗ナル 感アルモ多汁 ニシテ味ハ酸 味ナクナリ	品質全上良好 ナルモ一般ニ 不溶解部ヲ有 スル果多シ	果肉同様ニ 後熟シ肉質 良好多汁 甘味強ク固 有ノ味ナリ	全上此ノ内 ニハ各回中 最モ良好ナル 香味ヲ有ス ル果アリ	果肉能ク溶 ケ極メテ多 汁ニシテ塊 粒ヲ感スル モノナリ	全上、固有 ノ香味ヲ有 ス

採收期ト果ノ大サ	10.7	9.30	9.25	9.20	9.15	9.10	月採 日收
	20	18	21	22	21	21	21
1.500	1.517	1.474	1.556	1.523	1.489	1.489	量重
1.450	1.470	1.422	1.501	1.458	1.407	1.407	後熱 重量 歩合
0.36	0.31	0.35	0.32	0.43	0.55	0.55	均平
75.0	84.3	70.2	70.7	72.5	70.9	70.9	一個 重量
88	96	91	85	99	100	100	果大
14-24	13-25	14-22	17-22	22-29	27-30	27-30	日後 數熱
6-15	9-14	6-9	9-13	9-13	10-15	10-15	期食
全上	果實極メテ能ク發育シ能ク 緑色ヲ呈セリ	全上	面平滑良好	果ノ發育全上、果皮淡黄 緑色ヲ呈セリ	果ノ發育全上、果皮淡黄 濃キ錆アリ	果ハ固有大サニ發育シ 比較的整齊ナリ淡黄緑色 ニシテ滑澤満面ニ褐色 錆ヲ有セリ	採收當時ノ状態
全上、果皮萎縮セズ淡色 ノモノ及暗色ノモノアリトス	全上、最後ニ追熟セシモ ノハ果梗果皮共ニ萎縮セ リ	淡褐色光澤良シ後熟少キ モノハ色淡シ多シ之ハ 日持不良又味不良ナリ	全上果皮萎縮セズ	淡黄褐色前回ヨリハ鮮ヤ カナリ、果梗萎縮スルモ 果皮萎縮セズ只最後ニ追 熟セシモノハ肩部萎縮セ リ	果皮淡褐色稍鈍シ尙僅 ク萎縮シ肩部亦萎縮セリ カニ青味アリ果梗甚ダシ ク萎縮シ肩部亦萎縮セリ	後熟當時ノ状態	
以上、肉质ノ粗ナルヲ缺点 トス	全上、香味ハ却テ稍若キ内 多好ニシテ充テ分ク且臭味 フ多シトナルモ脆ク且臭味 生ズ	肉质柔軟ナルモ脆キ感アリ 甘味アルモ前回ノモノ、如 多シナラズ稍劣レリ充分後 熟セバ多汁トナル	以上良好 最モ多ク採收適期ト認ム	肉质柔軟多汁ナリ甘味強ク 固存ノ味ナリ多少ノ溢味ヲ 感ズ	果肉良、多汁甘味アリ稍澁 味ヲ有スルモ、良好尋常ノ 味ナリ	品 質	

9.30	20	1.530	1.486	0.29	765	96	12-25	9-15
採收期ト果ノ大サ	本種ハ九月上旬ニ至レバ殆ント固有ノ大サニ達シ其後ハ特ニ肥	大セルガ如シ故ニ採收期ノ早晚ニヨリ果實ノ大サハ大ナル差異ヲ生セズ	二採收期ト品質	九月上旬既ニ固有ノ大サニ達スルガ如ク品質モ亦九月上旬既ニ良好	トナルモ適當ナルハ九月十日前後ナルガ如シ而シテ採收期遅キモノハ肉质粗トナリ	且溶解部ヲ増シ尙果心ノ周圍甚タ脆弱トナリ易キ傾アリ	三採收期ト後熟日數	九月中ニアリテハ採收期ノ早晚ニヨリ後熟日數ニ差ナキカ如シ
而モ採收期遅キモノ却テ後熟期間ノ長キコトアリ是氣候ノ關係ナラン	四採收期ト食期	之亦後熟日數ト全様ノ關係ヲ有ス而シテ採收期遅キ九月下旬ノモノ	ハ樹ノ内部ニ結果セルモノニシテ殊ニ果形小サク錆多キモノ、如キハ甚タシク長期	ノ保存ニ堪ヘ而モ品質ハ不良ナルカ如キ現象ヲ呈セルアリ之等ハ異状アル果實ト見	ルベシ			
ボーレ、クレイルジュー								
9.30	20	1.530	1.486	0.29	765	96	12-25	9-15
果ノ大サハ増加セズ、凹	果ノ大サハ増加セズ、凹	果ノ大サハ増加セズ、凹	果ノ大サハ増加セズ、凹	果ノ大サハ増加セズ、凹	果ノ大サハ増加セズ、凹	果ノ大サハ増加セズ、凹	果ノ大サハ増加セズ、凹	果ノ大サハ増加セズ、凹
面ハ褐色ヲ呈セリ	面ハ褐色ヲ呈セリ	面ハ褐色ヲ呈セリ	面ハ褐色ヲ呈セリ	面ハ褐色ヲ呈セリ	面ハ褐色ヲ呈セリ	面ハ褐色ヲ呈セリ	面ハ褐色ヲ呈セリ	面ハ褐色ヲ呈セリ
持モ良シ	持モ良シ	持モ良シ	持モ良シ	持モ良シ	持モ良シ	持モ良シ	持モ良シ	持モ良シ

ルガ如シ

二採收期ト品質 九月中旬固有ノ大サニ達スルガ如ク品質モ亦九月中旬既ニ良好トナルモ其適期ハ九月二十日前後ナルカ如シ而シテ採收期遅キモノハ肉質粗トナリ多汁ナラズ遅キモノハ追熟ノ初期未タ肉質稍堅キ内カ良好ナリ尙之等ハ後熟後果梗黒變シ肩部ニ腐敗ヲ及ボシ日持不良トナル

三採收期ノ後熟日數 採收早キモノ及遅キモノ却テ日持良シ而シテ採收遅キモノカ却テ日持良キハ氣候ノ爲ナラン

キーファア

採收月日	個數	重量	後熟歩合	平均	果大	日數	期食	採收當時ノ状態	後熟當時ノ状態	品質
10.7	23	1,475	1,439	0.24	64.1	78	18-22	14-20	好トナレリ	ルコト少シ
9.30	25	1,457	1,410	0.32	58.3	73	22	17-20	好トナレリ	ルコト少シ
9.22	25	1,468	1,425	0.33	58.7	—	23	12-21	好トナレリ	ルコト少シ

採收月日	個數	重量	後熟歩合	平均	果大	日數	期食	採收當時ノ状態	後熟當時ノ状態	品質
10.30	18	1,530	—	85.0	114	21	15-17	果實ノ大サヲ増シ且果面ニシテ後熟シ濃キ褐色ヲ呈ス	好トナレリ	ルコト少シ
10.22	21	1,487	0.35	70.8	108	18	17-22	果實ノ大サヲ増シ且果面ニシテ後熟シ濃キ褐色ヲ呈ス	好トナレリ	ルコト少シ
10.15	21	1,465	0.38	69.8	99	20	19-21	果實ノ大サヲ増シ且果面ニシテ後熟シ濃キ褐色ヲ呈ス	好トナレリ	ルコト少シ

一採收期ト果ノ大サ 十月上旬迄ハ果ノ發育未タ不十分ナルモ中旬後ニハ固有ノ大サニ達ス而シテ採收早キモノハ果面ニ小凹凸多ク外觀粗澁ナリ而モ採收遅キモノモ亦小凹凸ヲ生ズ是或程度迄充分肥大セシ後再ビ發育スル爲ナランカ

二採收期ト色澤 第一第二回ノ如ク採收期早キモノハ色澤常ニ淡ク後熟果ノ色不良ナルモ其後ハ濃キ褐色トナリ光澤ヲ有シ良好トナル尙採收期早キモノハ擦レ傷黒條ヲ生シ易ク後熟後早ク外觀ヲ損ズ

三採收期ト品質 早キモノハ肉質粗ニ且果心ノ周圍溶解セサル傾アリ之レニ反シテ遅キモノハ全シク肉質脆クシテ粗ク同様果心ノ周圍堅ク不良尙採收期遅ル、ニ隨テキ

四果收期ト後熟日數及食期大ナル差ヲ見サルモ一般ニ採收期早キモノ稍長シ
以上ニヨリ本種ノ採收適期ハ十月十日前後二週間位ナラン

第十一 東洋梨品種試驗

大正三年度ニ於テ從來栽培セルモノヲ整理シ更ニ新植又ハ接換ヲ行ヒタルモノ二十一
種大正四年度ニ於テ新植シタルモノ二種本年度ニ於テ新植セルモノ四種合計二十七種
ニシテ栽培品種並ニ結果樹ノ收量左ノ如シ

品 種 名	樹齡	一樹平均收量		採收期	摘 要
		個數	重量		
市原早生	三	一〇	一、八二二	自八月五至八月二七	日持不良甘味ニ乏シ
吾妻錦	高接四	二九	一、七六四	自八月二八至八月二八	永ク樹上ニ置クモ味ヲ損セス日持亦良好ナリ
長十郎	三	二八	一、五八〇	自八月二八至八月二八	
今村夏郎	三	三	一九五	自八月二七至八月二七	
廿世紀	三	一六	六四五	自八月二八至八月二八	
富野	高接四	三五	一、九五八	自八月二六至八月二六	
明	三	七	四四六	自八月二七至八月二七	

馬次郎	高接四	一六	一、七八六	自九月二〇至九月二七	
笠川丸	四	三九	二、五〇四	自九月二七至九月二七	
日ノ丸	三	二	二二八	自九月二七至九月二七	
天ノ川	二	二	二二八	自九月二七至九月二七	
總州錦	二	二	二二八	自九月二七至九月二七	
三州次	高接四	一三	二、二二四	自九月二七至九月二七	
今村秋	三	一	一七〇	自九月二七至九月二七	
晚三吉	三	一	一七〇	自九月二七至九月二七	
博多青	一	一	一、三四七	自九月二〇至九月二九	
土佐錦	一	一	一、三四七	自九月二〇至九月二九	
土佐錦ニ類スルモノ	一	一	一、三四七	自九月二〇至九月二九	
改良太白	一	一	一、三四七	自九月二〇至九月二九	
支那種一號	高接四	四	三二八	自九月二〇至九月二七	
全二號	四	四	三二八	自九月二〇至九月二七	
全三號	四	四	三二八	自九月二〇至九月二七	

瑞穂玉

黄魁

景ノ岳

ガノ!

グライムス、ゴールデン

ステーメン、ワインザツプ

ブラツクベン、ダギス

ロムビユータイ

クーパーズ、アーリー

デリシアス

柿 栽培スルモノ十四種ニシテ未ダ結果期ニ入ラザルモノ大部分ヲ占ムルモ明治四十

三年栽植ニカ、ル富有柿、明治四十五年栽植ニカ、ル平核無ノ如キハ成績何レモ良好

ニシテ富有一樹平均三貫八百〇九匁八十七個平核無ハ一貫二百五十五匁(二十六個)ノ

結果ヲ見ルニ至レリ此他横野(三年生)稻山(三年生)四ツ溝(三年生)次郎(六年生)數回移植ノ

爲生育遅延等何レモ僅少ノ結實ヲ見タリ栽培品種左ノ如シ

富有 中野有 次郎 花 御 所

富 加 羅 羅 兵衛 衛 丸 形 西 條

稻 山 横 野 平 核 無

早生 寺社 碁 盤 柿 會津身不知

三葉 隱 四ツ溝 大

枇杷 栽培品種ハ佐々木白廣東大批杷、寺治、茂木、田中、及品種不明ノモノ等ニシテ無名種
及茂木ノ外樹齡若ク加フルニ餘寒酷烈ノ爲結果甚タ不良ナリキ
櫻桃、栽培品種ハ黄玉、朝日、平和(以上十年生)奈翁、大紫、(ビガロー、プラン)以上四年生、日ノ
出珊瑚(以上三年生)等八種ニシテ朝日、平和、黄玉、(ビガロー、プラン)等僅少ノ結果ヲ見タル
モ成績一般ニ良好ナラズ

第十五 強耐性砧木用葡萄根群状態調査

當場ニ於テ蒐集セル強耐性砧木用葡萄ノ根群發育ノ状態及強耐力ノ程度ヲ調査セシニ
其概要次ノ如シ
アラモン、リユーベストリス、ガンザン雜種一號
根群ノ發達極メテ良好枝根ハ太クシテ多シ鬚根亦極メテ多ク網狀ヲナシ水平ニ伸長ス
「フキロキセラ」ノ被害少ク結節何レモ微小ナリ
ベルランデイエリー、リパリア、デヨーテ、モンチブリエ雜種三十四號
根群ノ伸長水平ニ近ク枝根極メテ細長互ニ錯綜シ鬚根亦極メテ纖細ニシテ全ク前者ト
相反ス「フキロキセラ」ノ被害少ク結節亦殆ト不分明ナリ
ベルランデイエリー、リユーベストリス雜種二百十九號 A

前種ニ類シ枝根細長ニシテ多キモ鬚根ハ寧ロ少キ方ナリ「フキロキセラ」ノ被害少ナキモ
 結節ハ前二者ヨリ稍大ナリ「リバリア」リユールベストリス雜種百一号ノ十四
 根群ノ發育良好水平ニ伸長シ枝根ハ太クシテ之ヨリ多クノ鬚根ヲ生ス根群ハ一般ニ短
 カキ方ナリ「フキロキセラ」ノ被害稍多キモ結節ハ小ナリ
 「リユールベストリス」セント「デヨール」
 根群ハ水平ニ伸長シ枝根ハ細長ナリ鬚根ハ株ニヨリ多キモノト少キモノトヲ發見セリ
 被害亦株ニヨリテ多少アリ鬚根多キモノハ被害稍多キ傾向ヲ認ム結節稍大ナリ
 「リバリア」リユールベストリス雜種三千三百九号
 根群ノ發育良好ナラス枝根ハ細長ニシテ鬚根少ナシ「フキロキセラ」ノ被害少ナク結節小
 ナリ本種ハ枝條ノ發育甚纖弱ナリ
 「リバリア」リユールベストリス雜種三千三百〇六号
 根群ノ發育極メテ良好ニシテ水平ニ伸長シ枝根極メテ能ク分岐シ鬚根亦甚多シ故ニ相
 錯綜シテ網狀ヲナス根群ノ發育ハ本種最モ良好ナリ「フキロキセラ」ノ被害極メテ少ク結
 節亦微小ニシテ分明セズ白濁東大田中品類

ソロニス

根群ノ發育強カラザルモ枝根極メテ多ク且ツ纖細ナリ鬚根多キコト前種ニ類ス「フキロ
 キセラ」ノ被害少ク結節微小ニシテ殆ト分明セス
 強耐砒木一号
 根群ノ發育極メテ良好ナルモ鬚根ハ却テ少シ「フキロキセラ」ノ被害多ク殊ニ結節極メテ
 大ナリ而シテ地表ニ近キ根ハ殆ト全部其侵害ヲ被ルモ下層ノ根ハ一般ニ少シ
 強耐砒木二号
 根群ノ發育中等ニシテ枝根稍太ク且長キモ其數少ク鬚根ハ短カクシテ少シ故ニ根群錯
 綜セス「フキロキセラ」ノ被害多キモ結節ハ小ナリ
 強耐砒木三号
 根群ノ發育良好ニシテ水平ニ伸長シ枝根多ク大サ中等鬚根亦甚多ク「フキロキセラ」ノ被
 害前種ヨリモ輕微ニシテ結節小ナリ
 強耐砒木六号
 根群ノ發育中等枝根細長ニシテ多キモ鬚根ハ多カラズ被害少ク結節極メテ小ナリ
 強耐砒木七号

根群ノ發育中等枝根太クシテ分岐シ稍多シ鬚根ハ中位ニシテ短ク被害少キモ結節ハ稍大ナリ根ハ特ニ褐色ヲ呈シ鮮ヤカナリ

備考 番号ヲ以テ示セルハ農商務省農事試驗場園藝部ヨリ配付ヲ受ケタルモノナル

モ原名不明ナリ

栽培地ハ四紀新層ニ屬スル砂質壤土ナリ

以上ノ調査ニ基キ強耐力ヲ點數ヲ以テ示セハ次ノ如シ

評點ハ米國ノ例ニ倣ヒ全ク被害ナキモノヲ二十點トセリ

アラモン、リュートベストリス、ガンザン雜種一號 一七

ベルランデイエリー、リバリア、デヨーヂ、モンテイペリエー雜種三十四號 一七

ベルランデイエリー、リュートベストリス、雜種二百十九號 A 一五

リバリア、リュートベストリス、雜種百一號ノ十四 一二

リュートベストリスセント、デヨーヂ 一五

リバリア、リュートベストリス、雜種三千三百九號 一四

全 三千三百六號 一九

ソロニス 一七

強耐砒木

全 一號 〇

全 二號 五

全 三號 一六

全 四號 〇

全 六號 一四

全 七號 〇

以上ノ内十五點以上ノモノハ普通ノ土壤ニ於テ砒木用ニ供シテ差支ナカルベシ

強耐砒木

病理昆蟲部

病害ノ部

第一 ネーブルオレンジ痘果病豫防試験

本試験ハ前年ニ繼續シ進ンデ次ノ事項ヲ研究セリ

甲、袋掛時期ト發病トノ關係

乙、採果時期ト發病トノ關係

丙、果實重量ノ變化ト發病トノ關係

丁、結果枝ノ強弱ト發病トノ關係

戊、誘發的病原ニ關スル試験

己、柑橘園ノ狀態ト發病トノ關係

右各試験ノ結果得タル成績ノ大要ヲ記セバ次ノ如シ

甲、袋掛時期ト病發トノ關係

本研究ハ前年ノ成績ヲ確メンガ爲メ有底硫酸紙ヲ使用シ左ノ各時期ニ毎回全一樹ヲ(八本)供用シ特ニ袋外シ區ヲ設ケテ試験セリ成績次ノ如シ

試験區別	病發		採集後三十五日目調査
	採集日調査	採集後九日目調査	
一、八月月上旬袋掛	11.0%	5.0%	6.0%
二、八月下旬袋掛	11.0%	4.0%	5.0%
三、九月中旬袋掛	6.0%	4.0%	5.0%
四、十月上旬袋掛	2.0%	4.0%	5.0%
五、十月下旬袋掛	2.0%	3.0%	5.0%
六、八月月上旬袋掛	10.0%	5.0%	6.0%
七、八月月中旬袋外シ	6.0%	5.0%	6.0%
八、標	14.0%	6.0%	7.0%

右成績ニヨレバ本病ハ袋掛ノミニヨリ絶對ニ豫防シ得ラルモノニアラズ當幾分袋掛ハ

本病ニ有効ナルガ如キモ一層試験ヲ重ネザレバ判明シ難シ

乙、採果時期ト發病トノ關係

早中晩ノ三期ニ區別採集シ(各回トモハ樹別々ナリ)貯藏後ノ發病狀況ヲ調査セルニ早期

採果區三四%適期採果區八六%晩期採果區七八%ノ發病歩合ヲ示セリ

丙、果實重量ノ變化ト發病トノ關係
早中晩ノ三期ニ區別採集セルモノ各々十個宛ヲ供用シ一個毎ニ隔日重量ヲ測定シ發病狀況ヲ檢セシニ果實ノ重量ノ變化ハ何等本病ト關係ナキヲ認メタリ

丁、結果枝ノ強弱ト發病トノ關係
強健ナル結果枝ニ結果セルモノハ一般ニ弱枝ニ結果セルモノニ比シ果皮厚ク果面粗雜ニシテ色澤可良ナルヲ以テ本病ノ發生モ兩枝ニヨリ差異ナキヤヲ知ラントシ各枝八個宛ヲ供試シ濕乾兩室ニ分チテ貯藏シ發病狀況ヲ調査セリ其ノ成績左ノ如シ

濕室	強枝ニ結果セルモノ		弱枝ニ結果セルモノ	
	供試數	病果數	供試數	病果數
乾室	四	二	四	二
濕室	四	六	四	二
全	八	八	八	四

右成績ニヨレバ供試果數僅少ノ爲メ俄ニ斷ジ難キモ結果枝ノ強弱ハ本病發生ニ關係深キヤ明カナリ尙一層試驗ヲ重ネテ確定セントス
戊、誘發的病原ニ關スル試驗
本病ノ誘發的原因ヲ知ランガ爲メ次ノ如キ試驗ヲ行ヒタリ

一、八月上旬

ネーブル柑皮油ヲ搾リカク
温州柑皮油ヲ搾リカク
二、三日ニシテ搾リカケシ部分ハ淡黄色ニ變テ漸次表皮ハこるく質トナリ九月下旬頃全ク平癒ス

ネーブル柑皮油ヲ搾リカク
前同ノ場合ト全様大部分十月下旬ニ平癒ス

温州柑皮油ヲ搾リカク
全 右

葉尖ニテ突キタルモノ
異狀ナシ

爪ニテ果皮ヲ傷ケタルモノ
傷部ハ木質ニ變ジタルモ他ニ異狀ナシ

風害ニ疑シ早朝
日中搾リカケタルモノニ異ラズ

ネーブル柑皮油ヲ搾リカク
全 右

温州柑皮油ヲ搾リカク
前同ノ場合ト全様

風害ニ疑シ早朝
全 右

ネーブル柑皮油ヲ搾リカク
前同ノ場合ト全様

温州柑皮油ヲ搾リカク
傷部木質ニ變ジタルノミテテ異狀ナシ

風害ニ疑シ早朝
二、三日ニシテ油胞間但纖々、收縮セルモ其後異狀ナシ

ネーブル柑皮油ヲ搾リカク
二、三日ニシテ淡黄色ニ變ジタルモ最後迄木質ニ變セズ

四、十月下旬全

右 (未熟果)

風害ニ擬シ早朝 (黃熟果) 日中ノ場合ト全様
ネーブル柑皮油ヲ搾リカク (未熟果) 全 右

五 自八月上旬
至十月下旬

ネーブル柑皮油ヲ同一個所ニ八月上旬、九月中旬
十月上旬、十月下旬ノ四週連續シテ搾リカク
温州柑皮油ヲ右ト全様搾リカク

全 右 其ダシク被害ヲ受ケ本質ニ變ジ採果當時ハ剥皮セルモ其後異狀
ナシ 果面光澤可良ニシテ美シク成熟セルモ貯藏後四五%ノ被害果ヲ
生ゼリ

六 九月中旬 綿ニテ果面ヲ包皮シ有底硫酸紙ヲ掛ク

己柑橘園ノ状態ト發病トノ關係

本縣ニ於ケル主ナル柑橘園ニ付キ畧ボ同年齡樹ニ結果セルネーブルオレンジ五拾個宛
ヲ畧同期ニ採集シ當場ニ於テ同一状態ノ許ニ貯藏シ其ノ發病狀況ヲ調査セリ其ノ成績
次ノ如シ

採集地	土質	施肥反當三要素量	平均果皮厚	發病歩合
邑久郡笠加村	入江 澄江 砂質壤土	四、三	二、五	一、五〇%
邑久郡鹿忍町	長尾 柳平 砂質壤土	一、〇	二、〇	二、一〇
淺口郡大島村	石井與十郎 粘質壤土	四、〇	四、五	一、八〇
小田郡城見村	松浦 岩藏 粘質壤土	四、〇	二、〇	一、〇〇
兒島郡郷内村	谷田經太郎 粘質土	四、八	六、〇	一、一〇

右調査ヨリ察スルニ本病ハ果皮厚キモノニ發病少ク果皮薄キモノニ發病多シ

右諸試驗調査ニヨリ確實ト認ムベキ成績ヲ列舉スレバ次ノ如シ

一 柑皮油ノ浸出ハ本病ノ原因誘因トナルコトナシ

二 結果枝ノ強弱ハ本病發生ニ大關係ヲ有ス

三 果皮ノ厚薄ハ本病ノ發生ニ關係深ク粘質土ニ生産セルモノ、弱枝ニ結果セルモノ、窒素
質肥料過多ノモノ等ノ如キ果皮ノ薄弱ナルモノハ然ラザル果皮厚キモノニ比シ發病
激甚ナリ

四 本病病斑ハ黃熟後間モナク發生シ始メ採收後十五六日ノ間最モ發生多ク採收後四十
日目頃以後ハ發病病斑擴大等甚ダ稀ナリ

五 果實ノ重量變化ト本病發生トハ何等關係ナシ

第一 葡萄軸枯病豫防試驗

本病ハ葡萄ノ成熟セントスル頃房軸ノ一部褐色ニ變シ枯死スルモノニシテ甲州葡萄及
歐洲種葡萄ニ發生最モ多シ

本試驗ハ前年來赤磐郡吉岡村ニ於テ甲州葡萄ニ就テ施行セルモノニシテ既往ノ成績ニ
鑑ミ藥劑ニヨル豫防方法ニ幾分ノ變更ヲ加ヘ更ニ栽培方法ト本病トノ關係ヲ檢センカ

爲栽培法試験ヲ加ヘ左ノ如ク試験シタリ
試験區別

- 一、果實大豆大ノ頃一斗式石灰ボルドウ液ヲ果房ニ灌注シ八月中旬頃ヨリ四斗式ボルドウ液ヲ二週間隔ニ灌注スルモノ
- 二、果實大豆大ノ頃一斗式石灰ボルドウ液ニ果房ヲ浸漬シ直ニ袋掛ヲ行フ
- 三、果實大豆大ノ頃一斗式石灰ボルドウ液ニ果房ヲ浸漬シ八月中旬更ニ一回三斗式ボルドウ液ニ浸漬シ直ニ袋掛ヲ行フ
- 四、六月中旬果房ノ先端ヲ剪除スルモノ
- 五、六月中旬環狀剝皮ヲ行ヒ熟期ヲ促進スルモノ
- 六、對照用 (何等ノ操作ヲ行ハス)
- 七、磷酸加里多用
- 八、對照用

本區ハ圃場ヲ異ニセルヲ以テ別ニ對照區ヲ設ケタリ連年病害ノ發生劇甚ナリ

右試験ノ成績左ノ如シ

試験區別

被害歩合

第一區

五、七四

第二區

〇、八三

第三區

二、〇〇

第四區

五、七〇

第五區

四、〇〇

第六區

二、四〇

第七區

三、三〇

第八區

六、九五

右ノ成績ニヨレバ單ニ數回ボルドウ液ヲ灌注シタルモノ(第一區)ハ豫防上殆ト何等ノ効果ヲ認メ難キモ果房ヲボルドウ液ニ浸漬シタル後袋掛ヲ行ヒタルモノ(第二區及第三區)ハ多少豫防ノ効果ヲ認メ得ベキカ如ク殊ニ第二區ニ於テ顯著ナルヲ見ル次キニ果房ノ先端ヲ剪除シタルモノ(第四區)及環狀剝皮ヲ行ヒタルモノ(第五區)モ亦第一區ト同シク殆ト其効果ヲ認メ難キモ藥劑ヲ使用セサル點ニ於テ別種ノ對照用區ト者フルヲ得ヘシ更ニ第七區及第八區ハ圃場ヲ異ニシ元來被害劇甚ノ地ナルガ故ニ之ヲ他區ト對照スル能ハサルモ磷酸加里多用區ガ普通肥料區ニ比シ被害歩合遙カニ低カリシコトハ大ニ注目スベキ事實ニシテ更ニ研究ノ必要アルモノト信ス

尙結果枝ノ熟否カ本病ノ發生ト如何ナル關係ヲ有スルヤヲ知ランカ爲熟莖百二十本未熟莖百六十二本ニ就キ調査セシニ熟莖結果セル果房ノ被害歩合ハ二割七分五厘ニシテ未熟莖ニアリテハ三割八分三厘ヲ示シ肥培管理ヨリ來ル樹勢ノ良否ハ本病ノ發生ト密接ナル關係ヲ有スルモノ、如シ

第三 和梨黑星病豫防試驗

本試驗ハ本年ノ新設ニシテ近來被害劇甚ナル和梨黑星病ノ五月以後エ於ケル發生ヲ豫防センガ爲左記試驗區別ニ依リ上道郡雄神村西隆寺石原佐一郎ニ委託施行セリ

一、酸曹液濃厚石灰硫黄合劑ボーメー比重三十度百倍液散布
 二、酸曹液百二十倍液散布
 三、四斗式砂糖ホルトウ液撒布(白下糖百匁加用)
 四、四斗式銀杏草ホルドウ液撒布(銀杏草二十匁加用)
 五、石灰多用四斗式ホルドウ液撒布(生石灰四百匁)
 六、標準

備考 各區共開花前ヨリ落花直後迄ハ一樣ニ五回三斗式ホルドウ液ヲ撒布シ其後十日ヲ經テ十日置ニ六月末迄六回上記ノ藥劑ヲ夫々撒布セリ

右試驗ノ結果得タル成績左ノ如シ
 一、病葉及病果數 (垣作り赤龍五本宛)

試驗區別	病葉數		病果數		備考
	五月廿日	六月十日	五月二十日	六月十日	
第一區	四三	六四	九二	九	一三 最後迄落葉少ク良好ナリ只葉色ハホルトウ液區ヨリ淡シ、
第二區	六〇	六一	一〇三	六	一六 全上
第三區	四四	三三	三七	五	一八 落葉最少ク葉色濃ク良好ナリ葉ニ對スル藥害ナシ果面ノ
第四區	七一	五八	四七	六	一四 全上
第五區	八五	七四	四八	二	一八 果面ノ藥害ハ小斑點狀一個
第六區	二〇三	一七〇	二二七	一〇	三二 葉面ノ藥害ハ小斑點狀一個、果面ノ藥害ハ小斑點狀一個、葉早ク落下シ十月中旬殆ント落葉シ終レリ
合計	一八七	一八四	二二七	一〇	
一本平均	三三二	三〇五	三三三	一〇	

備考 ホルドウ液撒布區ハ三區共軍配浮葉子ノ害甚タ少シ而シテ三區中石灰多用ボルドウ液區ハ藥液ノ殘存スルコト多キ爲虫害モ特ニ少シ

二、果實ノ發育及外觀

各區ヨリ百個ツ、採收調査シ其内大果五十個ヲ秤量セルニ次ノ如シ

試驗區別	五十個重量	一個平均	外	觀
第一區	五、五〇〇	一一〇	果ノ大サ外觀共ニ普通、標準區ヨリハ遙カニ良好ナリ	